

関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機  
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610072号99

成績書管理番号：1-01

令和5年 3月

原子力規制委員会

## 使用前検査成績書

成績書管理番号：1-01

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和 4 年 3 月 10 日  
至 令和 5 年 3 月 1 日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

## 検査申請一覧表


検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第321号(平成28年10月 7日) 関原発第435号(平成30年 3月20日) 関原発第 47号(平成30年 4月20日) 関原発第203号(平成30年 7月 4日) 関原発第260号(平成30年 8月20日) 関原発第416号(平成30年12月 5日) 関原発第505号(平成31年 2月 1日) 関原発第513号(平成31年 2月 6日) 関原発第 4号(平成31年 4月 4日) 関原発第 69号(2019年 5月16日) 関原発第116号(2019年 6月24日) 関原発第205号(2019年 8月23日) 関原発第511号(2020年 1月31日) 関原発第543号(2020年 2月26日) 関原発第618号(2020年 3月24日) 関原発第 23号(2020年 4月 7日) 関原発第 23号(2021年 4月30日) 関原発第293号(2021年 8月 2日) 関原発第562号(2022年 2月28日) 関原発第585号(2022年 3月15日) 関原発第137号(2022年 6月10日) 関原発第209号(2022年 7月 1日) 関原発第580号(2022年12月27日)*
--------------------	---

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

\*2022年12月27日付け関原発第580号の申請により、原子炉冷却系統  
 施設の「2MOV-8701A,B」については、本申請から除かれていることを  
 確認した。(令和5年3月1日確認)

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-01

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和4年 3月10日	良	種市 隆人 北村 博史	ホウソウ・タビシ 主任技術者 	なし

w

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-01

検査年月日：令和4年3月10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
(一号検査)

成績書管理番号：1-01

検査年月日：令和4年 3月 10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-01

検査年月日：令和4年3月10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 余熱除去設備 主配管 別添1、2参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料検査</li> <li>・寸法検査</li> <li>・外観検査</li> <li>・組立て及び据付け状態を確認する検査</li> <li>・耐圧検査</li> <li>・漏えい検査</li> </ul>	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
<b>備考</b> ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0212 <del>目視で確認した範囲：添付資料3-3参照</del>			

# 設 備 概 要

## 工事計画本文（原規規発第1606105号（平成28年6月10日認可））

### 原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

#### 6 余熱除去設備に係る次の事項

（7）主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設



変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				(MPa)
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
余熱除去設備	(注16) 弁 (2MOV-8702A、B) ～ 弁 (2MOV-8701A、B)	(注2) 17.16	343	(注3) 323.9	(注3, 7) 33.3	SUS32TP	(注17) 弁 (2MOV-8702A、B) ～ 弁 (2MOV-8701A、B)	変更なし (注18) 18.5	変更なし (注18) 360	変更なし		
	(注19) 弁 (2MOV-8701A、B) ～ 格納容器貫通部 PEN#227、277	(注2) 4.1	200	(注3) 323.9	(注3, 7) 9.5	SUS32TP	変更なし					
	(注19) 格納容器貫通部 PEN#227、277 ～ 余熱除去ポンプ 入口ラインとの 合流点	(注2) 4.1	200	(注3) 323.9	(注3, 7) 9.5	SUS32TP	変更なし					
			(注3) 355.6	(注3) 11.1	SUS32TP							
			(注3, 5) 355.6	(注3, 5) 11.1	(注5) SUS32TP							
			323.9	9.5	SUS32TP							

8

変更前							変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料		名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度						圧 力	温 度			
余熱除去設備	(注21) 高温側注入配管 分岐点 ～ 弁 (2MOV-8817A、B) 及び 弁 (2MOV-8818A、B)	4.1	200	(注3) 273.1	(注3,7) 9.3	SUS32TP	(注4) 高温側注入配管 分岐点 ～ 弁 (2MOV-8817A、B) 及び 弁 (2MOV-8818A、B)	変更なし				

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8809A、B) ～余熱除去ポンプ入口ラインとの合流点」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備と兼用

(注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8812A、B) ～燃料取換用水タンク出口ラインとの合流点」と記載

(注7) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS32TP」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「A、B-余熱除去クーラ～弁 (2-HCV603A、B) 」と記載

(注10) 重大事故等時に使用

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-HCV-603A、B) ～余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点」と記載

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラA、Bバイパスライン」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ出口ライン分岐点～弁 (2-8706A、B) 」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(219.1)」と記載

(注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(8.2)」と記載

(注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8702A、B) ～弁 (2-8701A、B) 」と記載

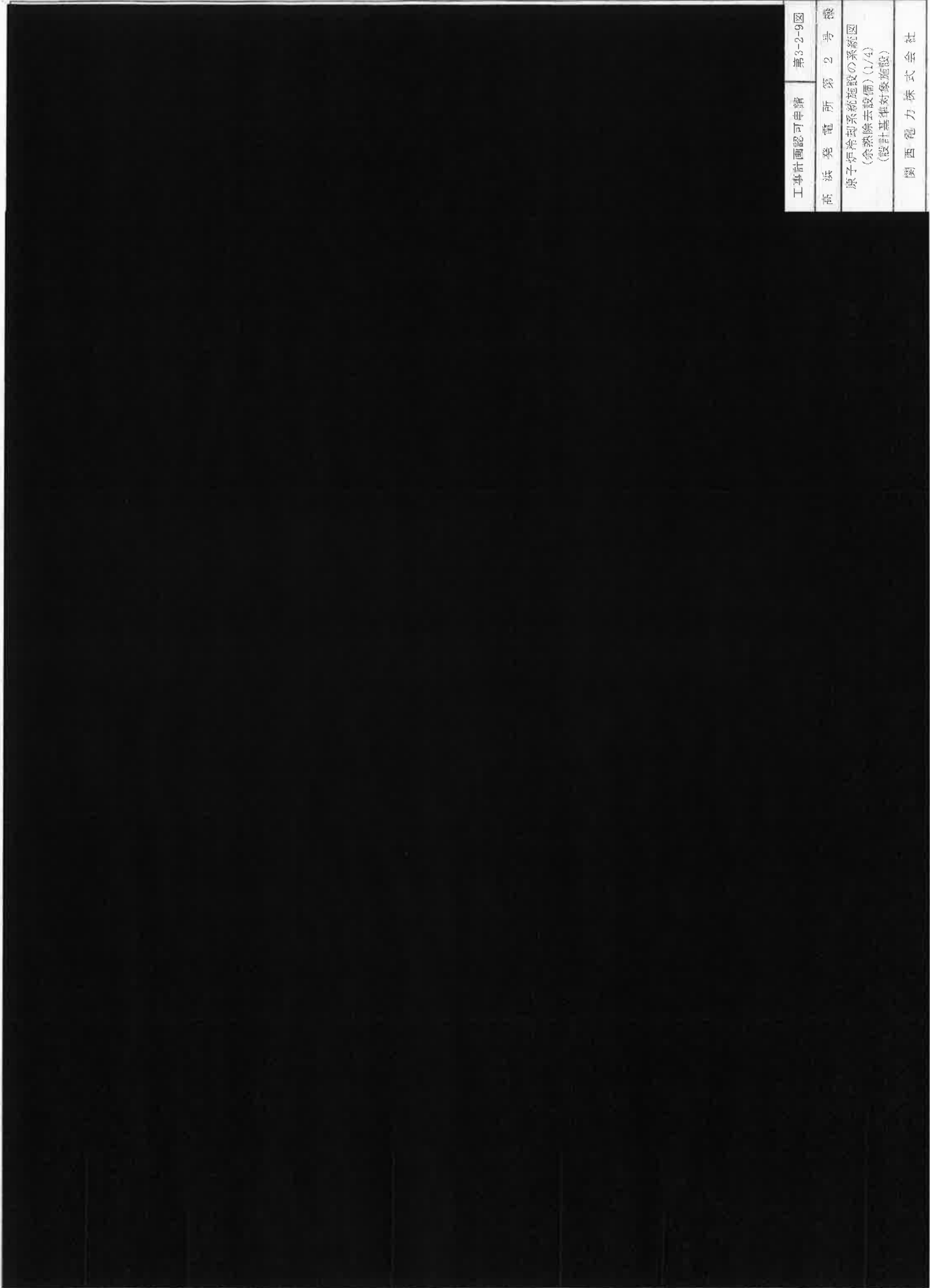
(注17) 新たに原子炉冷却材圧力バウンダリ範囲となる。

(注18) 重大事故等時における使用時の値

(注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8701A、B) ～レジューサ (14×12) および合流点」と記載

(注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (14×12) および合流点～余熱除去ポンプA、B」と記載

(注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点～弁 (2-8818A、B) 及び弁 (2-8819)」と記載



工事計画認可申請	第 3-2-9 図
高 浜 発 電 所	第 2 号 機
原子炉冷却系統施設の系統図 (余熱除去設備) (1/4) (設計基準対象施設)	
関西電力株式会社	

関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機

構造、強度又は漏えいに係る  
使用前検査成績書

施設名：原子炉冷却系統施設  
原子炉格納施設

系統名：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備  
圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）  
ポンプ（常設）

要領書番号：原規規収第1610072号1-02-1

令和4年1月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機

2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査

3 検査申請 使用前検査申請番号

関原発第321号(平成28年10月7日)  
関原発第435号(平成30年3月20日)  
関原発第47号(平成30年4月20日)  
関原発第203号(平成30年7月4日)  
関原発第260号(平成30年8月20日)  
関原発第416号(平成30年12月5日)  
関原発第505号(平成31年2月1日)  
関原発第513号(平成31年2月6日)  
関原発第4号(平成31年4月4日)  
関原発第69号(2019年5月16日)

関原発第116号(2019年6月24日)  
関原発第205号(2019年8月23日)  
関原発第511号(2020年1月31日)  
関原発第543号(2020年2月26日)  
関原発第618号(2020年3月24日)  
関原発第23号(2020年4月17日)  
関原発第23号(2021年4月30日)  
関原発第293号(2021年8月2日)

4 検査期日 自 平成31年1月31日  
至 令和4年1月28日

5 検査場所 関西電力株式会社高浜発電所  
福井県大飯郡高浜町田ノ浦  
三菱重工業株式会社 高砂製作所  
兵庫県高砂市荒井町

6 検査範囲 高浜発電所第2号機

発電用原子炉施設

原子炉冷却系統施設

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

原子炉格納施設

圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)

ポンプ(常設)

恒設代替低圧注水ポンプ 1個

原子炉下部キャビティ注水ポンプ 1個

7 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり

8 検査結果 検査結果一覧表のとおり

9 添付資料 使用前検査記録

- 1 検査前確認事項
- 2 材料検査記録
- 3 外観検査記録
- 4 組立て及び据付け状態を確認する検査記録
- 5 耐圧検査、漏えい検査記録
- 6 検査用計器一覧表

### 検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印*	検査立会責任者 印	特記事項
平成31年 1月31日	村上 恒夫 [Redacted] 奥本 昭治 [Redacted]	ボイラー・タービン 主任技術者 [Redacted]	なし
令和4年 1月28日	原子力検査官 宇野 正登 平沢 淳	ボイラー・タービン 主任技術者 [Redacted]	なし
年 月 日		主任技術者	

\*令和2年10月1日より捺印省略

ω



## 検査結果一覧表

系統名：非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）

ポンプ（常設）

検査項目	材料検査	外観検査	組立て及び据付け 状態を確認する検査	耐圧検査、 漏えい検査	備 考
検査日	平成31年 1月31日	令和4年 1月28日	令和4年 1月28日	平成31年 1月31日	
結果	良	良	良	良	
検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
結果					
検査日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	
結果					

△

## 高浜発電所第2号機 使用前検査記録 検査前確認事項

### 共通事項

#### 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	平成31年 1月31日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		令和4年 1月28日	良	
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	平成31年 1月31日	良	
		令和4年 1月28日	良	
		年 月 日		

高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
検査前確認事項

## 材料検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成31年 1月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成31年 1月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

## 高浜発電所第2号機 使用前検査記録 検査前確認事項

### 外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和4年 1月28日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和4年 1月28日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

## 高浜発電所第2号機 使用前検査記録 検査前確認事項

組立て及び据付け状態を確認する検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和4年 1月28日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和4年 1月28日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
検査前確認事項

耐圧検査、漏えい検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	平成31年 1月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	平成31年 1月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	平成31年 1月31日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	平成31年 1月31日	良	
	立会/ 記録確認	年 月 日		
	立会/ 記録確認	年 月 日		

高浜発電所第2号機

## 材料検査記録

検査場所：三菱重工業株式会社 高砂製作所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備  
 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）  
 ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個  
 原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象		材料	検査年月日	検査結果	検査方法
恒設代替低圧注水ポンプ	ケーシング	[REDACTED]	平成31年 1月31日	良	記録確認
	ケーシング カバー				
原子炉下部キャビティ 注水ポンプ	ケーシング		平成31年 1月31日	良	記録確認
	ケーシング カバー				

## 備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号： T2-1-0102  
 T2-1-0103

高浜発電所第2号機

## 外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備  
 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）  
 ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個  
 原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
恒設代替低圧注水ポンプ	令和4年 1月28日	良	目視 記録確認
原子炉下部キャビティ注水ポンプ	令和4年 1月28日	良	目視 記録確認

備考

~~記録確認は、申請者の品質記録（※）による。~~

~~※：適合性確認検査成績書の識別番号。~~



高浜発電所第2号機			
組立て及び据付け状態を確認する検査記録			
検査場所：関西電力株式会社高浜発電所			
検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個 原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個			
判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。			
検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
恒設代替低圧注水ポンプ	令和4年 1月28日	良	目視 記録確認
原子炉下部キャビティ注水ポンプ	令和4年 1月28日	良	目視 記録確認
備考 <del>記録確認は、申請者の品質記録（※）による。</del> <del>※：適合性確認検査成績書の識別番号</del>			

高浜発電所第2号機

## 耐圧検査、漏えい検査記録

検査場所：三菱重工業株式会社 高砂製作所

検査範囲：原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備  
 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）  
 ポンプ（常設） 恒設代替低圧注水ポンプ：1個  
 原子炉下部キャビティ注水ポンプ：1個

判定基準：・検査圧力に耐え、かつ、異常がないこと。  
 ・著しい漏えいがないこと。

検査対象	最高使用 圧力 MP a	耐圧検査 規定圧力 MP a	耐圧検査時 圧力 MP a	保持 時間 分	漏えい 検査時圧力 MP a	水圧、気圧 区分	検査年月日	検査 結果	検査方法
恒設代替低圧注水ポンプ						水圧	平成31年 1月31日	良	目視/ 記録確認
原子炉下部キャビティ注水ポンプ	2.7 <sup>*1</sup>	2.7	2.75	11	2.75	水圧	平成31年 1月31日	良	目視/ 記録確認

備考：

※1：重大事故等時における使用時の値。

・記録確認は、申請者の品質記録（※2）による。

※2：適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0102

13

高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
検査用計器一覧表

検査年月日：平成31年1月31日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2019年1月8日	
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2019年7月31日	
耐圧検査 漏れ検査	圧力計				2019年1月8日	
					2019年7月31日	

関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機  
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610072号99

成績書管理番号：1-02-2

令和4年3月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-02-2

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年6月8日  
至 令和4年3月3日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録



## 検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	
	関原発第321号 (平成28年10月7日)
	関原発第435号 (平成30年3月20日)
	関原発第 47号 (平成30年4月20日)
	関原発第203号 (平成30年7月4日)
	関原発第260号 (平成30年8月20日)
	関原発第416号 (平成30年12月5日)
	関原発第505号 (平成31年2月1日)
	関原発第513号 (平成31年2月6日)
	関原発第 4号 (平成31年4月4日)
	関原発第 69号 (2019年5月16日)
	関原発第116号 (2019年6月24日)
	関原発第205号 (2019年8月23日)
	関原発第511号 (2020年1月31日)
	関原発第543号 (2020年2月26日)
	関原発第618号 (2020年3月24日)
	関原発第 23号 (2020年4月 7日)
	関原発第 23号 (2021年4月30日)
	関原発第293号 (2021年8月 2日)
	関原発第562号 (2022年2月28日)

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 6月8日	良	原子力検査官 河田 拓也 	ボイラー - タービン 主任技術者 	なし

ω

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 6月 8日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	



# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 6月 8日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和2年 6 月 8 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 化学体積制御設備 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 据付検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">記録確認</span>
<b>備考</b> ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0201 <del>・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照</del>			

# 設備概要

## 原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前					変更後										
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料				
						非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	18.8	150	(注3)	(注3.8)	60.5	8.7	SUS304TP	1	
					(注3)				(注3.8)	89.1	11.1	SUS304TP			
					(注15)				(注15)	89.1	11.1	SUS304TP	(注3.51)	(注3.51)	(注51)
					(注3)				(注3)	89.1	11.1	SUS304TP	60.5	8.7	

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3)	(注3)	
									89.1	11.1	
									89.1	11.1	SUS304TP
							(注15)	(注15)	—	—	
						弁(2V-8579)	18.8	150			
									(注3)	(注3)	
						充てん配管 合流点			89.1	11.1	
								—	—	SUS304TP	
								89.1	11.1		

1

8 化学体積制御設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
化学体積制御設備	(注1)					(注5)	変更なし				
	充てん/高压 注入ポンプ A、B、C			(注3)	(注3, 4)	充てん/高压 注入ポンプ A、B、C			(注3)	(注3)	
	出口レギュレーサ (4×3)			88.9	11.1	出口レギュレーサ (4×3)	変更なし		88.9	11.1	SUS304TP
	~					~					
	充てん/高压 注入ポンプA、B	(注2)	150			充てん/高压 注入ポンプA、B			(注12)	(注12)	
	出口ライン 分岐点 及び	18.8		(注3, 42)	(注3, 42)	出口ライン 分岐点 及び					
充てん/高压 注入ポンプC			(注3, 6)	(注3, 6)	充てん/高压 注入ポンプC					変更なし	
出口ライン 分岐点			/	/	出口ライン 分岐点						
上流レギュレーサ (4×3)			/	/	上流レギュレーサ (4×3)						
			-	-							

2

別添1-3

変更前					変更後							
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				(MPa)
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
化学体積制御設備 充てんライン側 レギュレーサ (4×3) ～ 弁(2MOV-8107)	(注14)		(注3)	(注3,4)	SUS27TP	化学体積制御設備 充てんライン側 レギュレーサ (4×3) ～ 弁(2MOV-8107)	(注5)		変更なし			
			(注3)	(注3,4)	(注15)		SUS304TP					
	(注2)	18.8	150	(注3,6)	(注3,6)					(注3)	(注3)	
				88.9	11.1		(注6)			88.9	11.1	
			88.9	11.1	SUS27TP				88.9	11.1	SUS304TP	
			(注12)	(注12)				変更なし	88.9	11.1		
			88.9	11.1					(注12)	(注12)		
									89.1	11.1		


10

3

別添一々

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 <del>印</del>	検査立会責任者 <del>印</del>	特記事項
令和3年 2月18日	良	原子力検査官  須貝実	ボラー-ターゼン主任技術者  	なし

11

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和3年2月18日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	



## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和3年 2 月 18 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・一	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・一	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和3年 2月 18日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉格納施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） 主配管			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態 を確認する検査 耐圧検査、 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">記録確認*</span>
備考 <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。</li> <li>※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0204</li> <li>・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照</li> <li>* 検査対象のうち別添1に示す範囲について確認</li> </ul>			

## 設 備 概 要

### 原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

#### 7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

(次ページに続く)

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
						(注55) 燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	(注15) 0	(注15) 40	(注3) 267.4	(注3,8) 9.3	SUS304TP
									(注3) 355.6	(注3,8) 11.1	SUS304TP
								(注3) 267.4	(注3) 9.3		SUS304TP
								(注3) 165.2	(注3) 7.1		
								(注3) 355.6	(注3) 11.1		SUS304TP
								(注3) 267.4	(注3) 9.3		SUS304TP

(次ページに続く)

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						(注55)					
						燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ					
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3)	(注3, 8)	SUS304TP
							(注15)	(注15)	(注3)	(注3, 8)	SUS304TP
							0	95	216.3	8.2	SUS304TP
								(注3)	(注3, 8)	SUS304TP	
								267.4	9.3	SUS304TP	

(次ページに続く)

□：検査対象範囲（別添2（1/3）、（2/3）に示す範囲）

※：外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査を除く

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
						(注55) 燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ					
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注15) 0	(注15) 95	(注3) 355.6	(注3,8) 11.1	SUS304TP
							(注3) 267.4	(注3) 9.3	(注3) 165.2	(注3) 7.1	SUS304TP

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲 (別添2 (2/3) に示す範囲)

※ : 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査を除く

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
						(注55)			(注3)	(注3)	
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ	(注15)	95	355.6	11.1	SUS304TP
				入口配管分岐点		216.3			8.2		
				～		(注3)	(注3)				
				原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ		355.6	11.1	355.6	11.1	SUS304TP	
								267.4	9.3		

61

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
						(注55)			(注3)	(注3,8)		
									114.3	6.0	SUS304TP	
									(注3)	(注3,8)		
									165.2	7.1	SUS304TP	
									(注3)	(注3)		
									165.2	7.1	SUS304TP	
							(注15)	95	/	/		
							(注16)	2.7	114.3	6.0		
									(注3)	(注3)		
									165.2	7.1	SUS304TP	
									/	/		
									165.2	7.1		
									/	/		
									165.2	7.1		
									(注15)	(注3)	(注3,8)	
									150	165.2	7.1	SUS304TP

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

□ : 検査対象範囲

※ : 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査を除く

20



変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55) 内部スプレ クーラ 出口テスト ライン分岐点 ～ 弁(2MOV-6496 A、B) ～ 燃料取替 用水タンク	0	95	(注3, 54) 114.3	(注3, 8, 54) 6.0	(注54) SUS27TP
							(注15)	(注15)	(注3) 114.3	(注3, 8) 6.0	SUS304TP
									(注3, 54) 114.3 /	(注3, 54) 6.0 /	(注54) SUS27TP
									114.3	6.0	

(次ページに続く)

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
						(注55)			(注3, 54)	(注3, 8, 54)	(注54)
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			114.3	6.0	SUS27TP
						内部スプレ クーラ			(注3)	(注3, 8)	
						出口テスト ライン分岐点	(注15)	(注15)	114.3	6.0	SUS304TP
						～	2.1	95			
						弁(2MOV-6496 A、B)			(注3, 54)	(注3, 54)	
						～			114.3	6.0	(注54)
						燃料取替 用水タンク			114.3	6.0	SUS27TP
									114.3	6.0	

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲 (別添2 (3/3) に示す範囲)

22

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						(注55)			(注3)	(注3)	
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	内部スプレ クーラ			114.3	6.0	
						出口テスト			/	/	
						ライン分岐点	(注15)	(注15)	114.3	6.0	SUS304TP
						～			/	/	
						弁(2MOV-6496	2.1	95	—	—	
						A、B)			(注3)	(注3)	
						～			114.3	6.0	
						燃料取替			/	/	
						用水タンク			—	—	SUS304TP
									114.3	6.0	

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲 (別添2 (3/3) に示す範囲)

23

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
						(注55)			(注3)	(注3,8)	
						内部スプレ クーラ			114.3	6.0	SUS304TP
						出口テスト ライン分岐点	(注15)	(注15)	(注3,54)	(注3,54)	(注54)
						～ 弁(2MOV-6496 A、B)	2.7	150	114.3	8.6	SUS27TP
						～ 燃料取替 用水タンク			(注3)	(注3)	
									114.3	6.0	
									—	—	SUS304TP
									114.3	6.0	

□ : 検査対象範囲 (別添2 (3/3) に示す範囲)

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	(注15)	(注15)	(注3)	(注3)	SUS304TP
									(注3)	(注3)	SUS304TP
									(注3)	(注3, 6)	SUS304TP
							(注15)	(注15)	(注3)	(注3)	SUS304TP
									(注3)	(注3)	SUS304TP

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

(注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）及びその他発電用原子炉の附属施設（火災防護設

備)のうち消火設備と兼用

(注6) 重大事故等時に使用

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注8) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-8926)」と記載

(注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8926) ～弁 (2-LCV-115B、D)」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁 (2-8811A、B)」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の「原子炉格納容器」の「原子炉格納容器本体」による。

(注15) 重大事故等時における使用時の値

(注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8811A、B) ～弁 (2-8812A、B)」と記載

(注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (2-8958)」と記載

(注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8958) ～弁 (2-8809A、B)」と記載

(注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ入口母管～弁 (2-5400)」と記載

(注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8803A、B) および弁 (2-8816) (2-FE943取付部を除く)」と記載

(注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8815) 及び弁 (2-8814) (2-FE940取付部を除く)」と記載

(注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8815) ～分岐点」と記載

(注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (2-8942A、B、C)」と記載

(注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8942A、B、C) ～余除去クーラ出口合流点」と記載

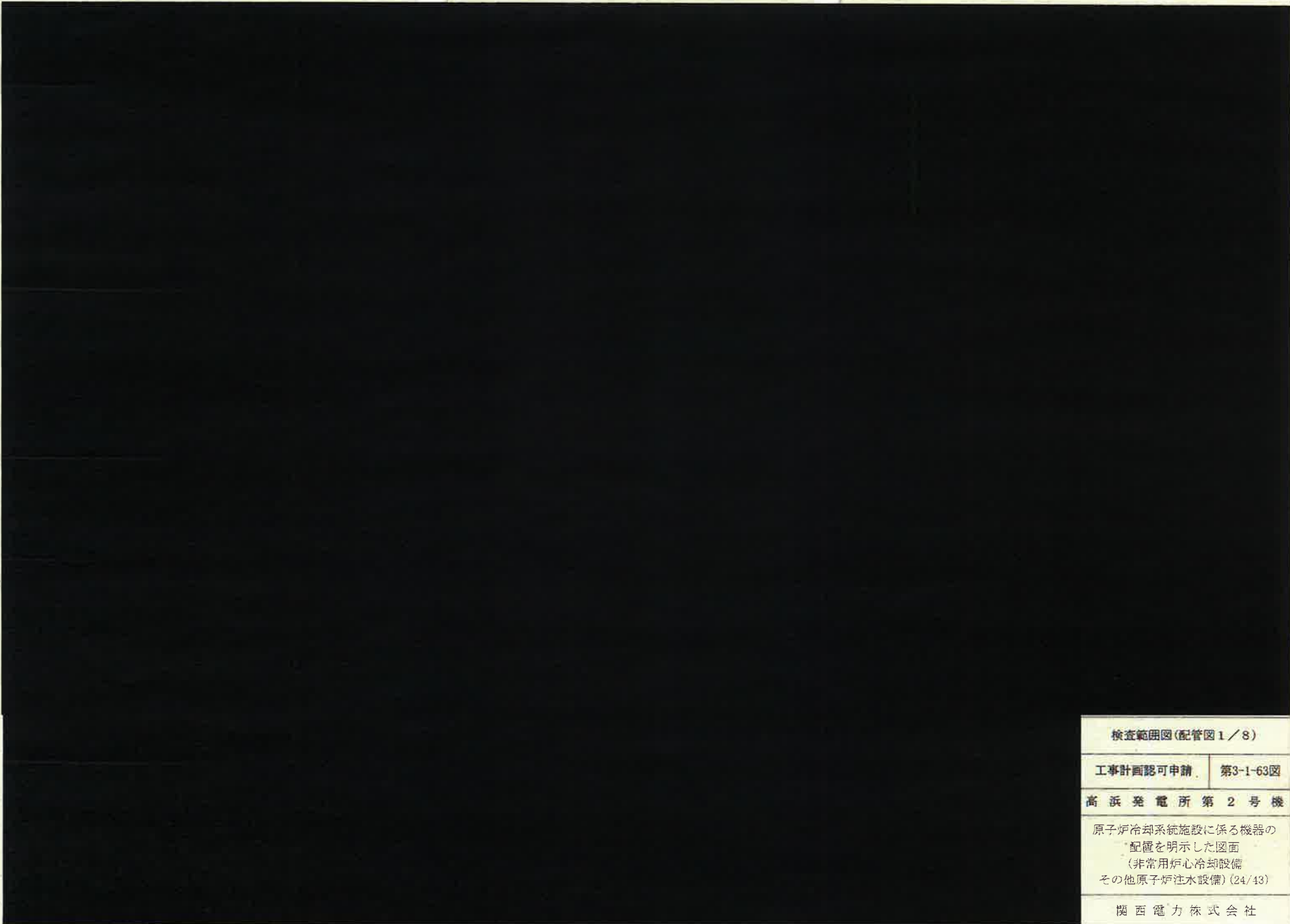
(注25) エルボを示す。

- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2-FE943および2-FE940取付部（レジューサ4×3～レジューサ4×3）」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8803A、B）～レジューサ（6×3）」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（6×3）～ほう酸注入タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジューサ（6×3）～弁（2-8801A、B）」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8801A、B）～分岐点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8944A、B、C）」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8944A、B、C）～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／－／（最小）9.5」と記載
- (注35) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8816）～分岐点」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8937A、B、C）」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8814）～分岐点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8939A、B、C）」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8937C）及び弁（2-8939C）～弁（2-8940C）」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／（最小）9.5／（最小）9.5」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（2-8937A、B）及び逆止弁（2-8939A、B）～余熱除去クーラ出口合流点」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8973A、B、C）～弁（2-8945A、B、C）」と記載
- (注44) 余熱除去設備と兼用
- (注45) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点～弁（2-8818A、B）及び弁（2-8819）」と記載

- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8818A、B）～逆止弁（2-8971A、B）を経てコールドレグループB注入ラインへの分岐点」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグループB注入ラインへの分岐点～逆止弁（2-8973A、B、C）」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8819）～分岐点」と記載
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8935A、B）」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8935A、B）～弁（2-8940A、B）」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁（2-8808A、B、C）」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8808A、B、C）～逆止弁（2-8948A、B、C）」と記載
- (注54) 本設備は既存の設備である。
- (注55) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用
- (注56) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用

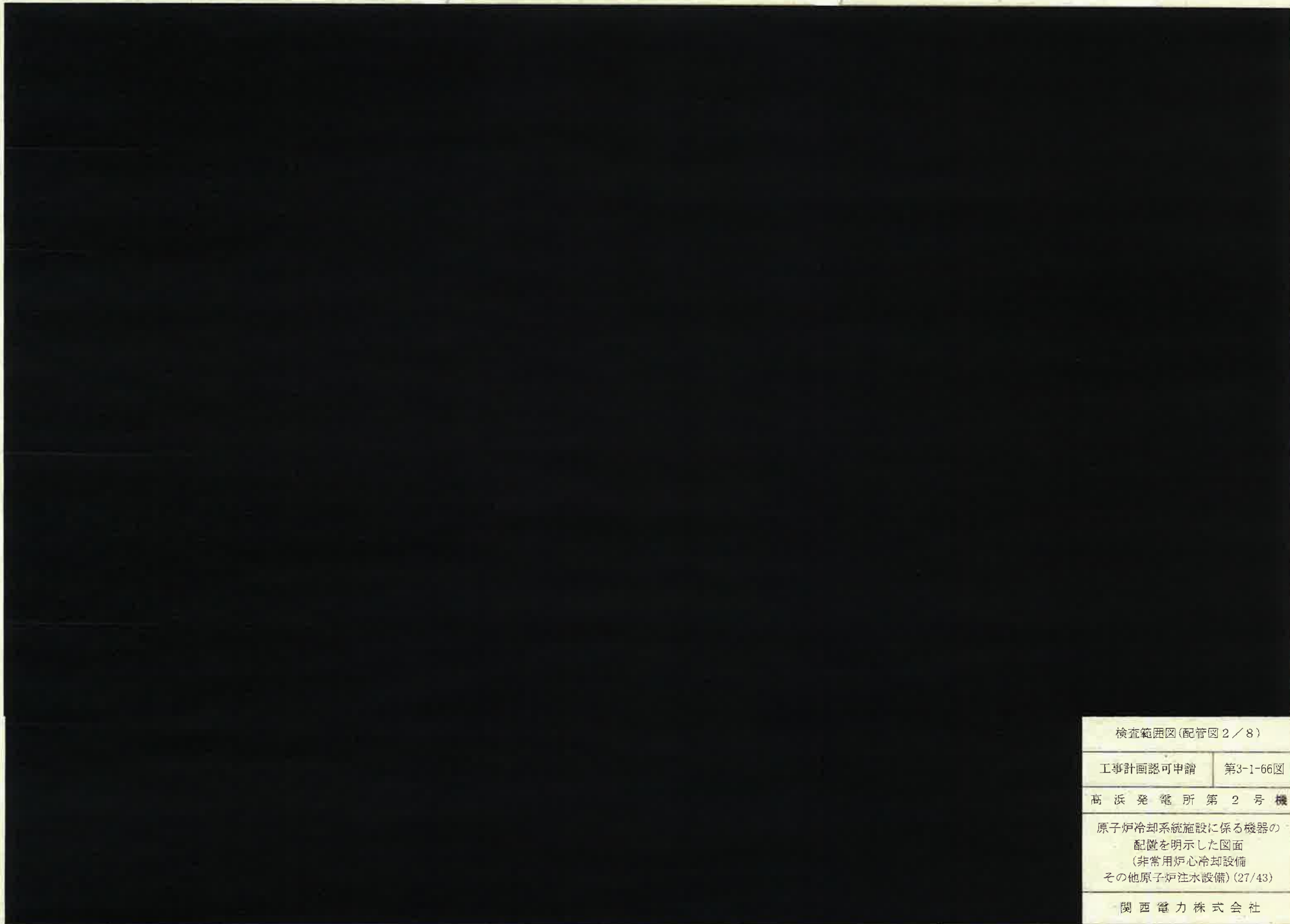


29



検査範囲図(配管図1/8)	
工事計画認可申請	第3-1-63図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備)(24/43)	
関西電力株式会社	

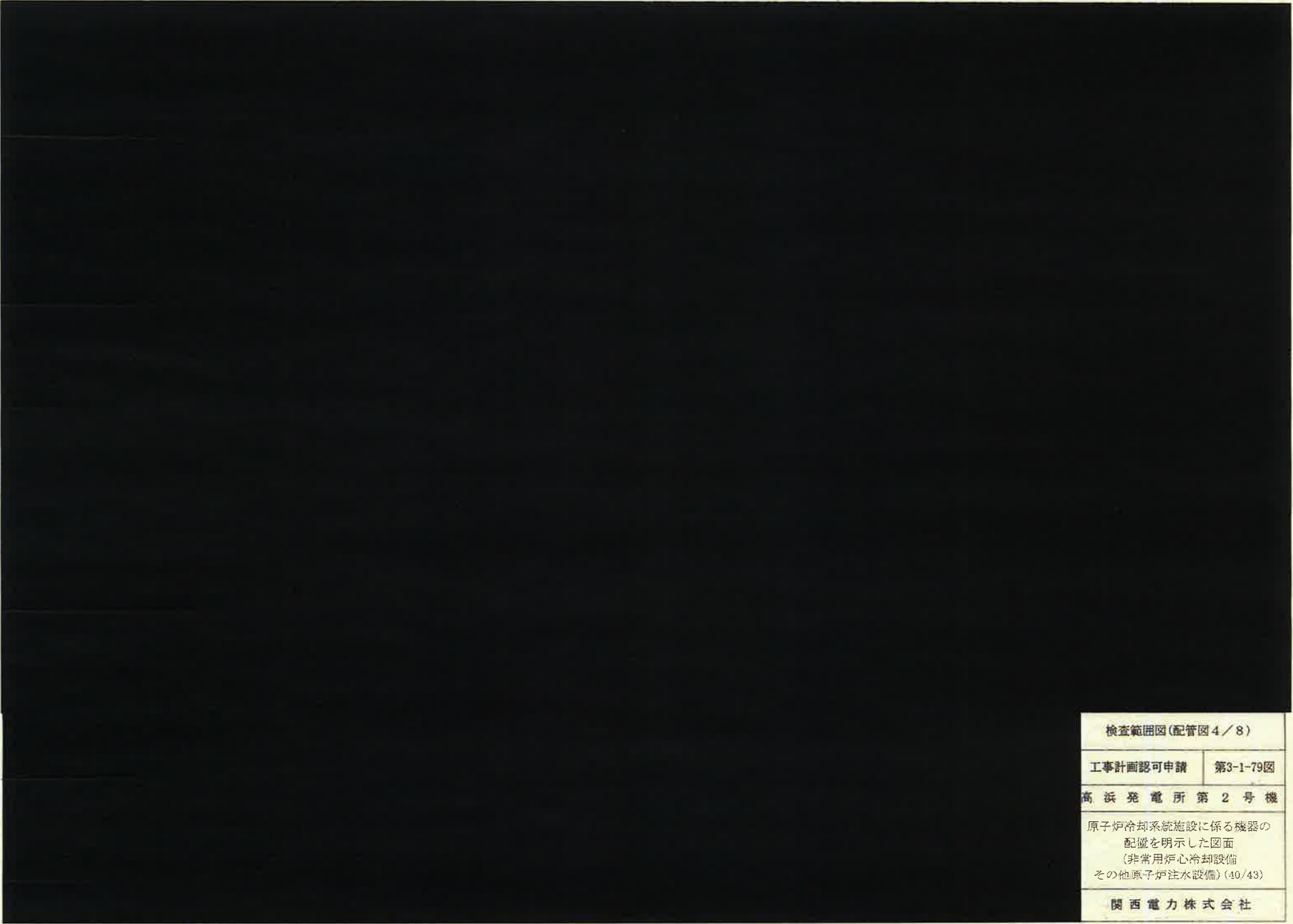
30



検査範囲図(配管図 2/8)	
工事計画認可申請	第3-1-66図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備)(27/43)	
関西電力株式会社	

別添2 (2/3) 令和3年2月18日


31



検査範囲図(配管図4/8)	
工事計画認可申請	第3-1-79図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備)(40/43)	
関西電力株式会社	

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和 5 年 6 月 23 日	良	福田 晋一	ボイラー-タービン 主任技術者 	なし

22

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 3 年 6 月 23 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 5 年 6 月 23 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	Ⓔ良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	Ⓔ良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	Ⓔ良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ Ⓔ記録確認	Ⓔ良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 5 年 6 月 23 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） 主配管 別添.1 参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 据付検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<span style="font-size: 2em;">良</span>	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px;">記録確認</span>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0202、T2-1-1908 (その1)、T2-1-1908 (その2)、T2-1-0603 <del>・目視で確認した範囲：添付資料 3-3 参照</del>			

工事計画本文（原規規発第1606105号（平成28年6月10日認可））

設備概要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあっては次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3, 54) 114.3	(注3, 8, 54) 6.0	(注54) SUS27TP
						内部スプレ クーラ 出口テスト ライン分岐点 ～ 弁(2MOV-6496 A、B) ～ 燃料取替 用水タンク	(注15) 0	(注15) 95	(注3) 114.3	(注3, 8) 6.0	(注54) SUS304TP
									(注3, 54) 114.3	(注3, 54) 6.0	(注54) SUS27TP
									／	／	(注54) SUS27TP
									114.3	6.0	

□：検査対象範囲（別添2（4/4）に示す範囲）

36

別添1（1/12）令和3年6月23日



変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
						(注55)			(注3, 54)	(注3, 8, 54)	(注54)	
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	内部スプレ クーラ			114.3	6.0	SUS27TP	
						出口テスト ライン分岐点 ～	(注15)	(注15)	(注3)	(注3, 8)		SUS304TP
						弁(2MOV-6496 A、B) ～	2.1	95	(注3, 54)	(注3, 54)		
						燃料取替 用水タンク			114.3	6.0		(注54)
									114.3	6.0		

37

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55)			(注3)	(注3)	
						内部スプレ クーラ			114.3	6.0	
						出口テスト ライン分岐点			/	/	
						～	(注15)	(注15)	114.3	6.0	SUS304TP
						～	2.1	95	/	/	
						弁(2MOV-6496 A、B)			(注3)	(注3)	
						～			114.3	6.0	
						燃料取替 用水タンク			/	/	SUS304TP
									114.3	6.0	

38

変更前						変更後							
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料		
						(注55) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注15) 2.7	(注15) 150	(注3)	(注3, 8)	SUS304TP		
					(注3, 54)				(注3, 54)	(注54)	114.3	8.6	SUS27TP
					(注3)				(注3)		114.3	6.0	SUS304TP
											114.3	6.0	

39

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
			(mm)	(mm)		(注55)			(注3)	(注3, 8)	
						燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ			267.4	9.3	SUS304TP
						非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備			(注3)	(注3, 8)	
					入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ		(注15)	(注15)	355.6	11.1	SUS304TP
							0	40	267.4	9.3	SUS304TP
									165.2	7.1	SUS304TP
									(注3)	(注3)	
								355.6	11.1	SUS304TP	
								267.4	9.3	SUS304TP	

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲 (別添2 (2/4)、(3/4) に示す範囲)  
 ※ 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査を除く

ウカ

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55) 燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ			(注3)	(注3,8)	SUS304TP
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注15)	(注15)	(注3)	(注3,8)	SUS304TP
					0		95	216.3	8.2	SUS304TP	
								(注3)	(注3,8)	SUS304TP	

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲 (別添2 (1/4) に示す範囲)  
 ※ 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査を除く

41

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55) 燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	(注15) 0	(注15) 95	(注3) 355.6	(注3, 8) 11.1	SUS304TP
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3) 267.4 /	(注3) 9.3 /	SUS304TP
									(注3) 165.2	(注3) 7.1	

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲 (別添2 (1/4) に示す範囲)  
※ : 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査を除く

42

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						(注55)			(注3)	(注3)	
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	燃料取替用水					
						タンク出口配管					
						分岐点			355.6	11.1	SUS304TP
						及び			/	/	
						B電動補助			216.3	8.2	SUS304TP
						給水ポンプ	(注15)	(注15)			
						入口配管分岐点	0	95			
						～			(注3)	(注3)	
					原子炉下部			355.6	11.1	SUS304TP	
					キャビティ			/	/		
					注水ポンプ			355.6	11.1		
					及び			/	/		
					恒設代替低圧			267.4	9.3		
					注水ポンプ						

43

□ : 検査対象範囲 (別添2 (1/4) に示す範囲)  
 ※ 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査を除く

変更前					変更後									
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料			
	圧力	温度					圧力	温度						
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)				
						(注56)	(注15)	(注15)	(注3)	(注3)				
						非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	0	40	165.2	7.1	SUS304Ti			
									(注3)	(注3)	89.1	5.5	SUS304Ti	
									(注3)	(注3, 8)	165.2	7.1	SUS304Ti	
							(注15)	(注15)	(注3)	(注3)	1.3	40	165.2	7.1
										—	—	SUS304Ti		
										—	—			
										89.1	5.5			

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

□ : 検査対象範囲

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

(注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) 及びその他発電用原子炉の附属施設 (火災防護設



備)のうち消火設備と兼用

(注6) 重大事故等時に使用

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注8) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-8926)」と記載

(注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8926) ～弁 (2-LCV-115B、D)」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁 (2-8811A、B)」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の「原子炉格納容器」の「原子炉格納容器本体」による。

(注15) 重大事故等時における使用時の値

(注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8811A、B) ～弁 (2-8812A、B)」と記載

(注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (2-8958)」と記載

(注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8958) ～弁 (2-8809A、B)」と記載

(注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ入口母管～弁 (2-5400)」と記載

(注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8803A、B) および弁 (2-8816) (2-FE943取付部を除く)」と記載

(注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8815) 及び弁 (2-8814) (2-FE940取付部を除く)」と記載

(注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8815) ～分岐点」と記載

(注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (2-8942A、B、C)」と記載

(注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8942A、B、C) ～余除去クーラ出口合流点」と記載

(注25) エルボを示す。

45

- 96
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2-FE943および2-FE940取付部（レジューサ4×3～レジューサ4×3）」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8803A、B）～レジューサ（6×3）」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（6×3）～ほう酸注入タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジューサ（6×3）～弁（2-8801A、B）」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8801A、B）～分岐点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8944A、B、C）」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8944A、B、C）～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／－／（最小）9.5」と記載
- (注35) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8816）～分岐点」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8937A、B、C）」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8814）～分岐点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8939A、B、C）」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8937C）及び弁（2-8939C）～弁（2-8940C）」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／（最小）9.5／（最小）9.5」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（2-8937A、B）及び逆止弁（2-8939A、B）～余熱除去クーラ出口合流点」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8973A、B、C）～弁（2-8945A、B、C）」と記載
- (注44) 余熱除去設備と兼用
- (注45) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点～弁（2-8818A、B）及び弁（2-8819）」と記載

- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8818A、B) ～逆止弁 (2-8971A、B) を経てコールドレグループB注入ラインへの分岐点」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグループB注入ラインへの分岐点～逆止弁 (2-8973A、B、C) 」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8819) ～分岐点」と記載
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (2-8935A、B) 」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8935A、B) ～弁 (2-8940A、B) 」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁 (2-8808A、B、C) 」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8808A、B、C) ～逆止弁 (2-8948A、B、C) 」と記載
- (注54) 本設備は既存の設備である。
- (注55) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用
- (注56) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用

工事計画認可申請	第3-1-63図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備)(24/43)	
関西電力株式会社	

工事計画認可申請	第3-1-64図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備)(25/43)	
関西電力株式会社	

工事計画認可申請 第3-1-65図

高浜発電所第2号機

原子炉冷却系統施設に係る機器の  
配置を明示した図面  
(非常用炉心冷却設備  
その他原子炉注水設備) (26/43)

関西電力株式会社


51



工事計画認可申請	第3-1-80図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備)(41/43)	
関西電力株式会社	

検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和3年 10月19日 20	良	宇野正登 大江勇人	ボイラー・タービン 主任技術者 	なし

52



関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和3年10月19日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和3年10月<sup>19</sup>日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 3 年 10 月 19 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備） 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 据付検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">記録確認</span>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0202、T2-1-0203、T2-1-0204 <del>・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照</del>			

## 設 備 概 要

### 原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

#### 7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

（7）主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

（次ページに続く）

57

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						(注55)			(注3)	(注3, 8)	
						燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ			267.4	9.3	SUS304TP
									(注3)	(注3, 8)	
									355.6	11.1	SUS304TP
							(注15)	(注15)	(注3)	(注3)	
							0	40	267.4	9.3	SUS304TP
									165.2	7.1	
									(注3)	(注3)	
									355.6	11.1	SUS304TP
									267.4	9.3	

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲

※ 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

変更前					変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
					(注55) 燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ			(注3)	(注3, 8)	SUS304TP
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注15) 0	(注15) 95	(注3) 216.3	(注3, 8) 8.2	SUS304TP
								(注3) 267.4	(注3, 8) 9.3	SUS304TP

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲  
※ 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

変更前					変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
					(注55) 燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ			(注3)	(注3,8)	SUS304TP
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注15) 0	(注15) 95	(注3) 216.3	(注3,8) 8.2	SUS304TP
								(注3) 267.4	(注3,8) 9.3	SUS304TP

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲  
 ※ : 材料検査、寸法検査、耐圧検査、漏えい検査、  
 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

67

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55) 燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	0	95	355.6	11.1	SUS304TP
									267.4	9.3	SUS304TP
									165.2	7.1	SUS304TP

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

07

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲  
※ 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

別添1 (5/18) 令和3年10月19, 20日



変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55) 燃料取替用水 タンク出口配管 分岐点 及び B電動補助 給水ポンプ 入口配管分岐点 ～ 原子炉下部 キャビティ 注水ポンプ 及び 恒設代替低圧 注水ポンプ	(注15) 0	(注15) 95	(注3) 355.6	(注3,8) 11.1	SUS304TP
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3) 267.4	(注3) 9.3	SUS304TP
								(注3) 165.2	(注3) 7.1		

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲  
 ※ 材料検査、寸法検査、耐圧検査、漏えい検査、  
 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
						(注55)			(注3)	(注3)		
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	燃料取替用水						
						タンク出口配管						
						分岐点				355.6	11.1	SUS304TP
						及び			/	/		
						B電動補助				216.3	8.2	
						給水ポンプ	(注15)	(注15)				
					入口配管分岐点	0	95		(注3)	(注3)		
					～							
					原子炉下部				355.6	11.1	SUS304TP	
					キャビティ				/	/		
					注水ポンプ				355.6	11.1		
					及び				/	/		
					恒設代替低圧				267.4	9.3		
					注水ポンプ							

62

□ : 検査対象範囲  
 ※ 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

別添1 (7/18) 令和3年10月19, 20日

変更前					変更後										
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料				
						(注55)			(注3)	(注3, 8)	114.3	6.0	SUS304TP		
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注15)	95	(注3)	(注3, 8)	165.2	7.1	SUS304TP		
					恒設代替低圧 注水ポンプ ～				(注3)	(注3)	165.2	7.1	／	／	SUS304TP
					B内部スプレ クーラ				(注3)	(注3)	114.3	6.0	／	／	
					出口配管合流点				(注3)	(注3)	165.2	7.1	／	／	
									(注3)	(注3)	165.2	7.1	／	／	SUS304TP
									(注3)	(注3)	165.2	7.1	／	／	
						(注15)	(注3)	(注3, 8)	150	165.2	7.1	SUS304TP			

63

□ : 検査対象範囲  
 ※ 材料検査、寸法検査、耐圧検査、漏えい検査、  
 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

別添1 (8/18) 令和3年10月19, 20日

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備					
						恒設代替低圧 注水ポンプ 出口配管分岐点 ～ 弁(2V-6484) ～ 恒設代替低圧 注水ポンプ 出口配管合流点	(注15) 2.7	(注15) 95	(注3) 60.5	(注3,8) 3.9	SUS304TF

□ : 検査対象範囲

※ 材料検査、寸法検査、耐圧検査、漏えい検査、  
外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

か9

変更前					変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
					(注55)			(注3)	(注3, 8)	SUS304TP
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注15)	95	114.3	6.0	SUS304TP
				165.2				7.1	SUS304TP	
				165.2				7.1	SUS304TP	
				114.3				6.0		
				165.2				7.1	SUS304TP	
				165.2				7.1		
				165.2				7.1		
				(注15)	(注3)	(注3, 8)	150	165.2	7.1	SUS304TP

□ : 検査対象範囲  
 ※ 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

65

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	0	95	(注3, 54) 114.3	(注3, 8, 54) 6.0	(注54) SUS27TP
						内部スプレ ケーラ 出口テスト ライン分岐点 ～ 弁(2MOV-6496 A、B) ～ 燃料取替 用水タンク	(注15)	(注15)	(注3) 114.3	(注3, 8) 6.0	SUS304TP
									(注3, 54) 114.3	(注3, 54) 6.0	(注54) SUS27TP
									—	—	
									114.3	6.0	

(次ページに続く)

99

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						(注55)			(注3, 54)	(注3, 8, 54)	(注54)
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	内部スプレ クーラ			114.3	6.0	SUS27TP
						出口テスト ライン分岐点	(注15)	(注15)	(注3)	(注3, 8)	
						～	2.1	95	114.3	6.0	SUS304TP
						弁(2MOV-6496 A、B)			(注3, 54)	(注3, 54)	
						～			114.3	6.0	(注54)
						燃料取替 用水タンク			114.3	6.0	SUS27TP
									114.3	6.0	

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲

※ 材料検査、寸法検査、耐圧検査、漏えい検査、  
外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55)			(注3)	(注3)	
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			114.3	6.0	
						内部スプレ			/	/	
						クーラ			114.3	6.0	SUS304TP
						出口テスト			/	/	
						ライン分岐点	(注15)	(注15)	-	-	
						～	2.1	95			
						弁(2MOV-6496			(注3)	(注3)	
						A、B)			114.3	6.0	
						～			/	/	
						燃料取替			-	-	SUS304TP
						用水タンク			/	/	
									114.3	6.0	

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲  
 ※ 材料検査、寸法検査、耐圧検査、漏えい検査、  
 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

68



変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注15) 2.7	(注15) 150	(注3) 114.3	(注3, 8) 6.0	SUS304TP
						内部スプレ クーラ					
						出口テスト ライン分岐点			(注3, 54) 114.3	(注3, 54) 8.6	(注54) SUS27TP
						～ 弁(2MOV-6496 A、B)			(注3) 114.3	(注3) 6.0	
						～ 燃料取替 用水タンク			/	/	SUS304TP
									114.3	6.0	

□ : 検査対象範囲  
 ※ 材料検査、寸法検査、耐圧検査、漏えい検査、  
 外観検査、組立て及び据付け状態を確認する検査

69

変更前					変更後								
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
						(注56)	(注15)	(注15)	(注3)	(注3)			
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	0	40	165.2	7.1	SUS304TP		
									(注3)	(注3)	89.1	5.5	SUS304TP
							(注15)	(注15)	(注3)	(注3, 8)	165.2	7.1	SUS304TP
							1.3	40	(注3)	(注3)	165.2	7.1	
											/	/	
										-	-	SUS304TP	
										/	/		
										89.1	5.5		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

(注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) 及びその他発電用原子炉の附属施設 (火災防護設

備)のうち消火設備と兼用

(注6) 重大事故等時に使用

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注8) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-8926)」と記載

(注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8926) ～弁 (2-LCV-115B、D)」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁 (2-8811A、B)」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の「原子炉格納容器」の「原子炉格納容器本体」による。

(注15) 重大事故等時における使用時の値

(注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8811A、B) ～弁 (2-8812A、B)」と記載

(注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (2-8958)」と記載

(注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8958) ～弁 (2-8809A、B)」と記載

(注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ入口母管～弁 (2-5400)」と記載

(注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8803A、B) および弁 (2-8816) (2-FE943取付部を除く)」と記載

(注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8815) 及び弁 (2-8814) (2-FE940取付部を除く)」と記載

(注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8815) ～分岐点」と記載

(注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (2-8942A、B、C)」と記載

(注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8942A、B、C) ～余除去クーラ出口合流点」と記載

(注25) エルボを示す。


71

- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2-FE943および2-FE940取付部（レジューサ4×3～レジューサ4×3）」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8803A、B）～レジューサ（6×3）」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（6×3）～ほう酸注入タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジューサ（6×3）～弁（2-8801A、B）」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8801A、B）～分岐点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8944A、B、C）」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8944A、B、C）～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／－／（最小）9.5」と記載
- (注35) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8816）～分岐点」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8937A、B、C）」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8814）～分岐点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8939A、B、C）」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8937C）及び弁（2-8939C）～弁（2-8940C）」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／（最小）9.5／（最小）9.5」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（2-8937A、B）及び逆止弁（2-8939A、B）～余熱除去クーラ出口合流点」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8973A、B、C）～弁（2-8945A、B、C）」と記載
- (注44) 余熱除去設備と兼用
- (注45) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点～弁（2-8818A、B）及び弁（2-8819）」と記載

- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8818A、B)～逆止弁(2-8971A、B)を経てコールドレググループB注入ラインへの分岐点」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレググループB注入ラインへの分岐点～逆止弁(2-8973A、B、C)」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8819)～分岐点」と記載
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁(2-8935A、B)」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8935A、B)～弁(2-8940A、B)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁(2-8808A、B、C)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8808A、B、C)～逆止弁(2-8948A、B、C)」と記載
- (注54) 本設備は既存の設備である。
- (注55) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)と兼用
- (注56) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(格納容器安全設備)と兼用

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和 3 年 11 月 10 日	良	増本 豊 平沢 淳	ボイラー・タービン主任技術者 	なし

170

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和3年11月10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	良・一	

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 3 年 11 月 10 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	



# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 3 年 11 月 10 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<span style="font-size: 2em;">良</span>	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">記録確認</span>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0205 <del>・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照</del>			

## 設 備 概 要

### 原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

（7）主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

（次ページに続く）

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3)	(注3, 8)	SUS304TP	
								(注3)	(注3)	SUS304TP	
						可搬式代替低圧 注水ライン 接続口 ～ 恒設代替低圧 注水ポンプ 出口配管合流点	(注15) 2.7	(注15) 40	165.2 /	7.1 /	SUS304TP
									(注3)	(注3)	SUS304TP
									165.2 /	7.1 /	SUS304TP
									165.2 /	7.1 /	SUS304TP

(次ページに続く)

79

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3) 60.5	(注3,8) 3.9	SUS304TP
							(注15) 2.7	(注15) 95			
									(注3) 165.2	(注3,8) 7.1	SUS304TP

50

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
					非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	(注56)	(注15)	(注15)	(注3)	(注3)		
						0	40	165.2	7.1	SUS304TP		
								(注3)	(注3)	89.1	5.5	SUS304TP
								(注3)	(注3, 8)	165.2	7.1	SUS304TP
						(注15)	(注15)	(注3)	(注3)	165.2	7.1	
					1.3	40			/	/		
									-	-	SUS304TP	
									/	/		
									89.1	5.5		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルゴについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

(注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) 及びその他発電用原子炉の附属施設 (火災防護設

81

備)のうち消火設備と兼用

(注6) 重大事故等時に使用

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注8) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-8926)」と記載

(注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8926) ～弁 (2-LCV-115B、D)」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁 (2-8811A、B)」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の「原子炉格納容器」の「原子炉格納容器本体」による。

(注15) 重大事故等時における使用時の値

(注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8811A、B) ～弁 (2-8812A、B)」と記載

(注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (2-8958)」と記載

(注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8958) ～弁 (2-8809A、B)」と記載

(注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ入口母管～弁 (2-5400)」と記載

(注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8803A、B) および弁 (2-8816) (2-FE943取付部を除く)」と記載

(注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8815) 及び弁 (2-8814) (2-FE940取付部を除く)」と記載

(注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8815) ～分岐点」と記載

(注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (2-8942A、B、C)」と記載

(注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8942A、B、C) ～余除去クーラ出口合流点」と記載

(注25) エルボを示す。


- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2-FE943および2-FE940取付部（レジューサ4×3～レジューサ4×3）」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8803A、B）～レジューサ（6×3）」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（6×3）～ほう酸注入タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジューサ（6×3）～弁（2-8801A、B）」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8801A、B）～分岐点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8944A、B、C）」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8944A、B、C）～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／－／（最小）9.5」と記載
- (注35) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8816）～分岐点」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8937A、B、C）」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8814）～分岐点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8939A、B、C）」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8937C）及び弁（2-8939C）～弁（2-8940C）」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／（最小）9.5／（最小）9.5」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（2-8937A、B）及び逆止弁（2-8939A、B）～余熱除去クーラ出口合流点」と記載
- (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8973A、B、C）～弁（2-8945A、B、C）」と記載
- (注44) 余熱除去設備と兼用
- (注45) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点～弁（2-8818A、B）及び弁（2-8819）」と記載

- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8818A、B）～逆止弁（2-8971A、B）を経てコールドレグループB注入ラインへの分岐点」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグループB注入ラインへの分岐点～逆止弁（2-8973A、B、C）」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8819）～分岐点」と記載
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8935A、B）」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8935A、B）～弁（2-8940A、B）」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁（2-8808A、B、C）」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8808A、B、C）～逆止弁（2-8948A、B、C）」と記載
- (注54) 本設備は既存の設備である。
- (注55) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用
- (注56) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用



検査結果一覧表

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和 4 年 3 月 3 日	良	増本 豊 平川 圭司	ホイヤラ...タービン主任技術者 	なし

85

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和4年3月3日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	良・一	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 4 年 3 月 3 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・☺	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-02-2

検査年月日：令和 4 年 3 月 3 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 主配管 原子炉格納施設 格納容器安全設備 主配管 別添 1 参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<div style="font-size: 2em; font-weight: bold;">良</div>	目視 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">記録確認</div>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0218 <del>・目視で確認した範囲：添付資料 3-3 参照</del>			

工事計画本文（原規規発第1606105号（平成28年6月10日認可））

設備概要

原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前						変更後									
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料				
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注54)		(注3)	(注3, 8)	165.2	7.1	SUS304TP		
							B内部スプレ クーラ 出口配管分岐点 弁(2MOV-8746) 行き ～ 弁(2MOV-8746) ～ B余熱除去クーラ 出口配管合流点	(注15)	(注15)	(注3)	(注3)	165.2	7.1	SUS304TP	
										(注3)	(注3, 8)	165.2	7.1	SUS304TP	
								(注15)	(注15)	(注3)	(注3, 8)	4.1	200	165.2	7.1

68

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						(注55)			(注3, 54)	(注3, 8, 54)	(注54)
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			114.3	6.0	SUS27TP
						内部スプレ クーラ					
						出口テスト ライン分岐点	(注15)	(注15)	(注3)	(注3, 8)	
						～	0	95	114.3	6.0	SUS304TP
						弁(2MOV-6496 A、B)			(注3, 54)	(注3, 54)	
						～			114.3	6.0	
						燃料取替 用水タンク			/	/	(注54)
									-	-	SUS27TP
									/	/	
									114.3	6.0	

06

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						(注55)			(注3, 54)	(注3, 8, 54)	(注54)
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			114.3	6.0	SUS27TP
						内部スプレ					
						クーラ					
						出口テスト			(注3)	(注3, 8)	
						ライン分岐点	(注15)	(注15)	114.3	6.0	SUS304TP
						～	2.1	95			
						弁(2MOV-6496			(注3, 54)	(注3, 54)	
						A、B)			114.3	6.0	
						～			/	/	(注54)
						燃料取替			114.3	6.0	SUS27TP
						用水タンク			/	/	
									114.3	6.0	

16

92

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						(注55)			(注3)	(注3)	
					非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	内部スプレ			114.3	6.0	SUS304TP
				クーラ				/	/		
				出口テスト				114.3	6.0		
				ライン分岐点		(注15)	(注15)	/	/		
				～	2.1	95	-	-			
				弁(2MOV-6496					(注3)	(注3)	SUS304TP
				A、B)			114.3	6.0			
				～			/	/			
				燃料取替			-	-			
				用水タンク			/	/	114.3	6.0	



93

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注55) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3) 114.3	(注3, 8) 6.0	SUS304TP
						内部スプレ クーラ 出口テスト ライン分岐点 ～ 弁(2MOV-6496 A、B) ～ 燃料取替 用水タンク	(注15) 2.7	(注15) 150	(注3, 54) 114.3	(注3, 54) 8.6	(注54) SUS27TP
									(注3) 114.3 / - 114.3	(注3) 6.0 / - 6.0	SUS304TP

変更前					変更後									
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料			
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備			(注3)	(注3, 8)	60.5	8.7	SUS304TP	
									(注3)	(注3, 8)	89.1	11.1	SUS304TP	
								(注15)	(注15)			18.8	150	
										(注3, 54)	(注3, 54)	89.1	11.1	(注54) SUS304TP
										(注3)	(注3)	89.1 /	11.1 /	SUS304TP
											60.5	8.7		

74

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備	(注15) 18.8	(注15) 150	(注3) 89.1	(注3) 11.1	SUS304TP
					充てん配管 分岐点 ~ 弁(2V-8579) ~ 充てん配管 合流点				/	/	
									/	/	
									-	-	
									(注3) 89.1	(注3) 11.1	SUS304TP
						/	/				
						-	-				
									89.1	11.1	

95

変更前					変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
					(注56) 非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	(注15) 0	(注15) 40	(注3) 165.2	(注3) 7.1	SUS304TP
						(注15) 1.3	(注15) 40	(注3) 89.1	(注3) 5.5	SUS304TP
								(注3) 165.2	(注3, 8) 7.1	SUS304TP
								(注3) 165.2	(注3) 7.1	SUS304TP
								(注3) 89.1	(注3) 5.5	

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

(注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) 及びその他発電用原子炉の附属施設 (火災防護設

備)のうち消火設備と兼用

(注6) 重大事故等時に使用

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注8) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-8926)」と記載

(注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8926) ～弁 (2-LCV-115B、D)」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁 (2-8811A、B)」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の「原子炉格納容器」の「原子炉格納容器本体」による。

(注15) 重大事故等時における使用時の値

(注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8811A、B) ～弁 (2-8812A、B)」と記載

(注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (2-8958)」と記載

(注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8958) ～弁 (2-8809A、B)」と記載

(注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ入口母管～弁 (2-5400)」と記載

(注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8803A、B) および弁 (2-8816) (2-FE943取付部を除く)」と記載

(注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8815) 及び弁 (2-8814) (2-FE940取付部を除く)」と記載

(注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8815) ～分岐点」と記載

(注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (2-8942A、B、C)」と記載

(注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8942A、B、C) ～余除去クーラ出口合流点」と記載

(注25) エルボを示す。

- 286
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2-FE943および2-FE940取付部（レジューサ4×3～レジューサ4×3）」と記載
  - (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8803A、B）～レジューサ（6×3）」と記載
  - (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（6×3）～ほう酸注入タンク」と記載
  - (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジューサ（6×3）～弁（2-8801A、B）」と記載
  - (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8801A、B）～分岐点」と記載
  - (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8944A、B、C）」と記載
  - (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8944A、B、C）～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載
  - (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5」と記載
  - (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／－／（最小）9.5」と記載
  - (注35) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
  - (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8816）～分岐点」と記載
  - (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8937A、B、C）」と記載
  - (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8814）～分岐点」と記載
  - (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8939A、B、C）」と記載
  - (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8937C）及び弁（2-8939C）～弁（2-8940C）」と記載
  - (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／（最小）9.5／（最小）9.5」と記載
  - (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（2-8937A、B）及び逆止弁（2-8939A、B）～余熱除去クーラ出口合流点」と記載
  - (注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8973A、B、C）～弁（2-8945A、B、C）」と記載
  - (注44) 余熱除去設備と兼用
  - (注45) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
  - (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点～弁（2-8818A、B）及び弁（2-8819）」と記載

- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8818A、B) ～逆止弁 (2-8971A、B) を経てコールドレグループB注入ラインへの分岐点」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレグループB注入ラインへの分岐点～逆止弁 (2-8973A、B、C)」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8819) ～分岐点」と記載
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (2-8935A、B)」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8935A、B) ～弁 (2-8940A、B)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁 (2-8808A、B、C)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8808A、B、C) ～逆止弁 (2-8948A、B、C)」と記載
- (注54) 本設備は既存の設備である。
- (注55) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用
- (注56) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備) と兼用

99/E

関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機  
使用前検査成績書

要領書番号：原規規収第1610072号99  
成績書管理番号：1-04-1

令和2年11月

原子力規制委員会



使用前検査成績書

成績書管理番号：1-04-1

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年8月24日  
至 令和2年11月30日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録



## 検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第321号(平成28年10月7日) 関原発第435号(平成30年3月20日) 関原発第 47号(平成30年4月20日) 関原発第203号(平成30年7月4日) 関原発第260号(平成30年8月20日) 関原発第416号(平成30年12月5日) 関原発第505号(平成31年2月1日) 関原発第513号(平成31年2月6日) 関原発第 4号(平成31年4月4日) 関原発第 69号(2019年5月16日) 関原発第116号(2019年6月24日) 関原発第205号(2019年8月23日) 関原発第511号(2020年1月31日) 関原発第543号(2020年2月26日) 関原発第618号(2020年3月24日) 関原発第 23号(2020年4月 7日)
--------------------	---

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月24日	良	原子力検査官 須貝実 	ホワイ-7-セン 主任技術者 	なし

3

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日：令和2年8月24日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日：令和2年 8月 24日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日：令和2年 8月 24日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）*			
検査項目*	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<span style="font-size: 2em;">良</span>	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">記録確認</span>
<b>備考</b> ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0503 ・目視で確認した範囲・ *：別添1及び別添2参照			

# 設 備 概 要

## 原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項）

### 9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

(工事の計画の認可 平成 28 年 6 月 10 日認可)

変 更 前						変 更 後									
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料				
	(注71)	(注2)		(注3)	(注3)								変更なし		
(A) 中間建屋入口 A、B系 ~ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	0.7	40	762	12	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし									
										(注3)	(注3)	762.0	12.7	SM400B	
										(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	762.0	12.7	SS41	
										(注3, 5)	(注3, 5)	762.0	12.7	(注5) SS41	
		(注4)	(注4)						0.7	40	(注4)	(注4)	609.6	12.7	
											(注3, 5)	(注3, 5)	762.0	12.7	(注5) SS41
											(注5)	762.0	12.7	SS41	
											(注5)	762.0	12.7	SS41	

E-1, 2

R-1, 2

T-3

(令和2年8月24日)  
別添1-1

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(A) 中間建屋入口 A、B系 ~ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	(注2)		(注3)	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし		変更なし			
	0.7	40	762	12			(注4)	変更なし	(注3)	(注3)	SM400B	
										(注3, 5)	(注3, 5)	
								(注4)	(注4)	762.0	12.7	(注5)
							1.2	40	762.0	12.7	SS41	
									762.0	12.7		

T-1

(令和2年8月24日)  
別添1-2



6

変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
(A) (注71) 中間建屋入口 A、B系 ~ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)						原子炉補機冷却設備 変更なし			(注3,5)	(注3,5)			
							(注4)	(注4)	762.0	12.7			
							1.2	40	/	/	(注5)		
									762.0	12.7	SS41		
											609.6	12.7	

T-2

別添1-3  
 (令和2年8月24日)

16

変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
(注72) (B) 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24) ~ 1次系冷却水 クーラ A、B、C	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし				
	—						(注4) 0.7	(注4) 40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.7	(注5, 6) SS41	E-1, 5
	(注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41		変更なし	変更なし				
	—						(注4) 1.2	変更なし	(注3) 609.6	(注3) 12.0	SM400B	
—					(注4) 1.2	(注4) 40	(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.7	(注5, 6) SS41	E-2, 3, 4		

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
① 原子炉補機冷却設備 1次系冷却水 クーラ A、B、C ~ 海水戻り母管 分岐点 A、B、C	(注73)	(注2)	(注3)	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし					
	0.7	40	609.6	12					(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	E-1, 2, 3, 4, 5, 6
							(注4)	(注4)	(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)	
	0.7	40	609.6	12.7				609.6	12.7	SS41		T-1, 2, 3, 4, 5, 6
			609.6	12.7				/	/			
			/	/				-	-			

(令和2年8月24日)  
別添1-5

12

変更前						変更後																												
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料																							
	圧力	温度					圧力	温度																										
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)																								
(注74) (注2) 0.7 40 (注3) 914.4 (注3) 12.7 SS41	原子炉補機冷却設備 海水戻り母管 分岐点A ~ 海水戻り母管 合流点						原子炉補機冷却設備 変更なし						変更なし																					
																			原子炉補機冷却設備 変更なし						(注4) (注4) 0.7 40						(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	E-1, 2
																															914.4	12.7	SS41	
																															(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)	T-2, 3
																															914.4	12.7		
914.4	12.7	SS41																																
(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)	T-1																															
914.4	12.7																																	
609.6	12.7			SS41																														

(令和2年8月24日)  
別添1-6

13

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(E) 海水戻り母管 分岐点 屋外放出端行き ~ 屋外放出端	(注75) (注2) 0.7	40	(注3) 609.6	(注3) 12	SS41	変更なし	(注4) 0.7	(注4) 40	変更なし		
	-						(注3, 5, 6) 609.6	(注3, 5, 6) 12.7	(注5, 6) SS41	E-1	
原子炉補機冷却設備 海水母管分岐点 ディーゼル 発電機A、B行き ~ ディーゼル 発電機 海水入口ライン 連絡配管 レジューサ (10×8)	(注76) (注2) 0.7	40	(注3) 273.1	(注3) 9.3	(注82) STPG410	変更なし					

(令和2年8月24日) 別添1-7

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラA、B、C～ティ (20×20×16)」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) 重大事故等時における使用時の値
- (注5) 本設備は既存の設備である。
- (注6) エルボを示す。
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：ティ (20×20×16) ～レジューサ (20×14)」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：ティ (16×16×16) ～レジューサ (16×12)」と記載
- (注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：内部スプレクーラ～レジューサ (20×14)」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：レジューサ (20×14) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C入口ティ (20×20×16)」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ入口連絡管」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) 及びレジューサ (20×16) ～1次系冷却水クーラA、C及びB」と記載

- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クーラ (RH-2) A、B」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプA、B、Cへの分岐点」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプB、Cからの合流点～弁 (2-FCV-1241)」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプA、Bからの合流点～戻管 (8B) 合流点」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (2-5105A、B)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管A、B分岐点～燃料ピットクーラ」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラ～1次系機器冷却水戻母管A、B合流点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラ」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラ～1次系機器冷却水戻母管 (10B) 合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～レジューサ (3×2)」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～計器用コンプレッサーパッケージIA-1A、IA-1B入口レジューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサーパッケージIA-1A、IA-1B出口レジューサ (2×1 1/2) ～レジューサ (3×2)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジューサ (3×2)」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (4×2)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジューサ (2×1

1/2) 」と記載

(注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ入口レジューサ (1 1/2×1/2) 」と記載

(注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載

(注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジューサ (1×1/2) 」と記載

(注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載

(注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジューサ (2×1 1/2) 」と記載

(注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載

(注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジューサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載

(注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～レジューサ (3×2) 」と記載

(注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (12×10) 」と記載

(注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×10) ～レジューサ (10×6) 」と記載

(注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジューサ (6×4) 」と記載

(注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) 及び分岐点～レジューサ (4×2) 」と記載

(注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載

(注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～レジューサ (6×4) 及び合流点」と記載

(注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A) 」と記載

(注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (10×6) ～レジューサ (12×10) 」と記載

(注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×10) ～レジューサ (12×8) 」と記載

(注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～レジューサ (12×8) 」と記載



- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～レジューサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2) 」と記載
- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～充てん／高圧注入ポンプ～レジューサ (2×1 1/2) 」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2 1/2×2) 充てん／高圧注入ポンプ～レジューサ (2 1/2×2) 」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) およびレジューサ (2 1/2×2) ～充てん／高圧注入ポンプ出口合流点」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
- (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～海水母管分岐点及びレジューサ (30×24) 」と記載
- (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点及びレジューサ (30×24) ～1次系冷却水クーラ」と記載
- (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～戻母管」と記載
- (注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋出口までの戻母管 (埋設部除く) 」と記載
- (注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻母管分岐点～ラプチャディスク」と記載
- (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～連絡管レジューサ (10×8) 」と記載
- (注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載
- (注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジューサ (12×8) 及び合流点」と記載
- (注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～海水戻母管」と記載
- (注80) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。

(注81) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。

(注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(工事計画軽微変更届出 平成 30 年 5 月 24 日届出)

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
① 原子炉補機冷却設備 中間建屋入口 A、B系 ~ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	0.7	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)	原子炉補機冷却設備 E-1※1、E-2※2 R-1※1、R-2※2 変更なし T-3※2	0.7	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注6, 84)
			762	12	SS400						
	(注3)	(注3)									
	762.0	12.7	SM400B								
	(注3, 6, 84)	(注3, 6, 84)	(注6, 84)								
	762.0	12.7	SS400								
	(注3, 84)	(注3, 84)									
762.0	12.7	SS400									
(注4)	(注4)										
609.6	12.7	SS400									
(注3, 84)	(注3, 84)										
762.0	12.7										
(注84)											
762.0	12.7	SS400									
(注84)											
762.0	12.7	SS400									

: 検査対象範囲

- ※1 : 材料検査、寸法検査、外観検査、耐圧検査、漏えい検査について確認。
- ※2 : 材料検査、寸法検査、外観検査、耐圧検査、漏えい検査、組立及び据付状態を確認する検査について確認。

(令和2年8月24日)  
別添1-13

20

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(A) 原子炉補機冷却設備 中間建屋入口 A、B系 ~ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	0.7	40	(注3, 84) 762	(注3, 84) 12	(注84) SS400	原子炉補機冷却設備 変更なし T-1※1					
	(注4) 1.2			(注3) 762.0	(注3) 12.7		(注84) SM400B				
			(注3, 84) 762.0	(注3, 84) 12.7							
	(注4) 1.2	(注4) 40	/	/	(注84) SS400						
			762.0	12.7							

: 検査対象範囲

※1 : 材料検査、寸法検査、外観検査、耐圧検査、漏えい検査について確認。

21

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
(A) 中間建屋入口 A、B系 ~ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	(注4) 1.2	(注4) 40	(注3,84)	(注3,84)	(注84) SS400	原子炉補機冷却設備 } T-2※1					変更なし
			762.0	12.7							
			/	/							
			762.0	12.7							
609.6	12.7										

: 検査対象範囲

※1 : 材料検査、寸法検査、外観検査、耐圧検査、漏えい検査について確認。

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
① 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24) ~ 1次系冷却水 クーラ A、B、C	0.7	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)	原子炉補機冷却設備 E-1※1、E-5※2 変更なし E-2, 3, 4※1	}	}	}	}	}	}
			609.6	12	SS400							
	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)							
	609.6	12.0	SM400B									
	(注4)	(注4)	(注3, 6, 84)	(注3, 6, 84)	(注6, 84)							
	0.7	40	609.6	12.7	SS400							
0.7	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)								
		609.6	12	SS400								
(注4)	(注4)	(注3)	(注3)	(注3)								
1.2	40	609.6	12.0	SM400B								
(注4)	(注4)	(注3, 6, 84)	(注3, 6, 84)	(注6, 84)								
1.2	40	609.6	12.7	SS400								

: 検査対象範囲

- ※1 : 材料検査、寸法検査、外観検査、耐圧検査、漏えい検査について確認。
- ※2 : 材料検査、寸法検査、外観検査、耐圧検査、漏えい検査、組立及び据付状態を確認する検査について確認。

23

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
① 原子炉補機冷却設備	0.7	40	(注3, 84) 609.6	(注3, 84) 12	(注84) SS400	原子炉補機冷却設備 E-1, 2, 3, 4※2、E-5, E-6※3 変更なし T-1※1、T-2, 3, 4※2、T-5, 6※3					
			(注3, 6, 84) 609.6	(注3, 6, 84) 12.7	(注6, 84) SS400						
	(注4) 0.7	(注4) 40	(注3, 84) 609.6	(注3, 84) 12.7							
			／	／	(注84)						
			609.6	12.7	SS400						
			／	／							
			—	—							

: 検査対象範囲

※1: 材料検査、寸法検査、外観検査について確認。

※2: 材料検査、寸法検査、外観検査、耐圧検査、漏えい検査について確認。

※3: 材料検査、寸法検査、外観検査、耐圧検査、漏えい検査、組立及び据付状態を確認する検査について確認。

27

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
① 原子炉補機冷却設備 海水戻り母管 分岐点A ~ 海水戻り母管 合流点	0.7	40	(注3, 84) 914.4	(注3, 84) 12.7	(注84) SS400	原子炉補機冷却設備 E-1, 2※1 T-2, 3※1 変更なし T-1※1					
	(注4) 0.7 (注4) 40			(注3, 6, 84) 914.4	(注3, 6, 84) 12.7		(注6, 84) SS400				
				(注3, 84) 914.4	(注3, 84) 12.7		(注84)				
				914.4	12.7		(注84)				
				914.4	12.7		SS400				
			(注4) 609.6	(注4) 12.7	(注84)						
			(注3, 84) 914.4	(注3, 84) 12.7	(注84)						
			—	—	SS400						
			609.6	12.7							

: 検査対象範囲

※1 : 材料検査、寸法検査、外観検査、耐圧検査、漏えい検査について確認。



変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
E 海水戻り母管 分岐点 屋外放出端行き ～ 屋外放出端	(注85,86)	(注85,86)	(注3,84)	(注3,84)	(注84)	E-1※1	変更なし	0.7	40	609.6	12	SS400
	(注4)	(注4)	(注3,6,84)	(注3,6,84)	(注6,84)							
	0.7	40	609.6	12.7	SS400							
原子炉補機冷却設備 海水母管分岐点 ディーゼル 発電機A、B行き ～ ディーゼル 発電機 海水入口ライン 連絡配管 レジューサ (10×8)	0.7	40	(注3)	(注3)	STPG410	変更なし						
273.1			9.3									

: 検査対象範囲

※1: 材料検査、寸法検査、外観検査、耐圧検査、漏えい検査について確認。

- (注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジャーサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジャーサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (12×10)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×10) ～レジャーサ (10×6)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジャーサ (6×4)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) 及び分岐点～レジャーサ (4×2)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～レジャーサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (10×6) ～レジャーサ (12×10)」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×10) ～レジャーサ (12×8)」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～レジャーサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」

と記載

- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～充てん／高圧注入ポンプ～レジューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2 1/2×2) 充てん／高圧注入ポンプ～レジューサ (2 1/2×2)」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) およびレジューサ (2 1/2×2) ～充てん／高圧注入ポンプ出口合流点」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
- (注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載
- (注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジューサ (12×8) 及び合流点」と記載
- (注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～海水戻母管」と記載
- (注80) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
- (注81) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。
- (注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
- (注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。
- (注84) SS41同等材 (SS400) への取替えを行う。
- (注85) 注記について記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書に記載の「重大事故等時における使用時の値」を削除
- (注86) 記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書には変更後に記載



# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日	検査結果	原子力[ ]検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 9月16日	良	平井 隆 [ ] 増本 豊 [ ]	ボイラー-ウ-ゼン主任技術者 [ ]	なし

29

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日：令和2年 9 月 16 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日：令和2年 9月 16日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日：令和2年 9月 16日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果


検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）*1			
検査項目*	判定基準	検査結果	検査方法
組立て及び据付け状態を確認する検査 *2	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">記録確認</span>
<b>備考</b> ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0503 <del>目視で確認した範囲</del> *1：別添1（令和2年8月24日）に記載している以下の範囲を参照 別添1-3 及び別添1-15 (T-2) ✓ 別添1-4 及び別添1-16 (E-2、E-3、E-4) ✓ 別添1-5 及び別添1-17 (E-3、E-4、T-3、T-4) ✓ 別添1-6 及び別添1-18 (T-1、T-2、T-3、E-1、E-2) ✓ 別添1-7 及び別添1-19 (E-1) ✓ *2：別添2（令和2年9月16日）参照			





検査結果一覧表

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 氏	検査立会責任者 氏	特記事項
令和2年 11月30日	良	増本 豊	石川-タ-ゼン 主任技術者 	なし

3X

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日：令和2年11月30日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	⓪・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	⓪・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	⓪・—	

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-1

検査年月日：令和2年 11 月 30 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・一	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・一	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

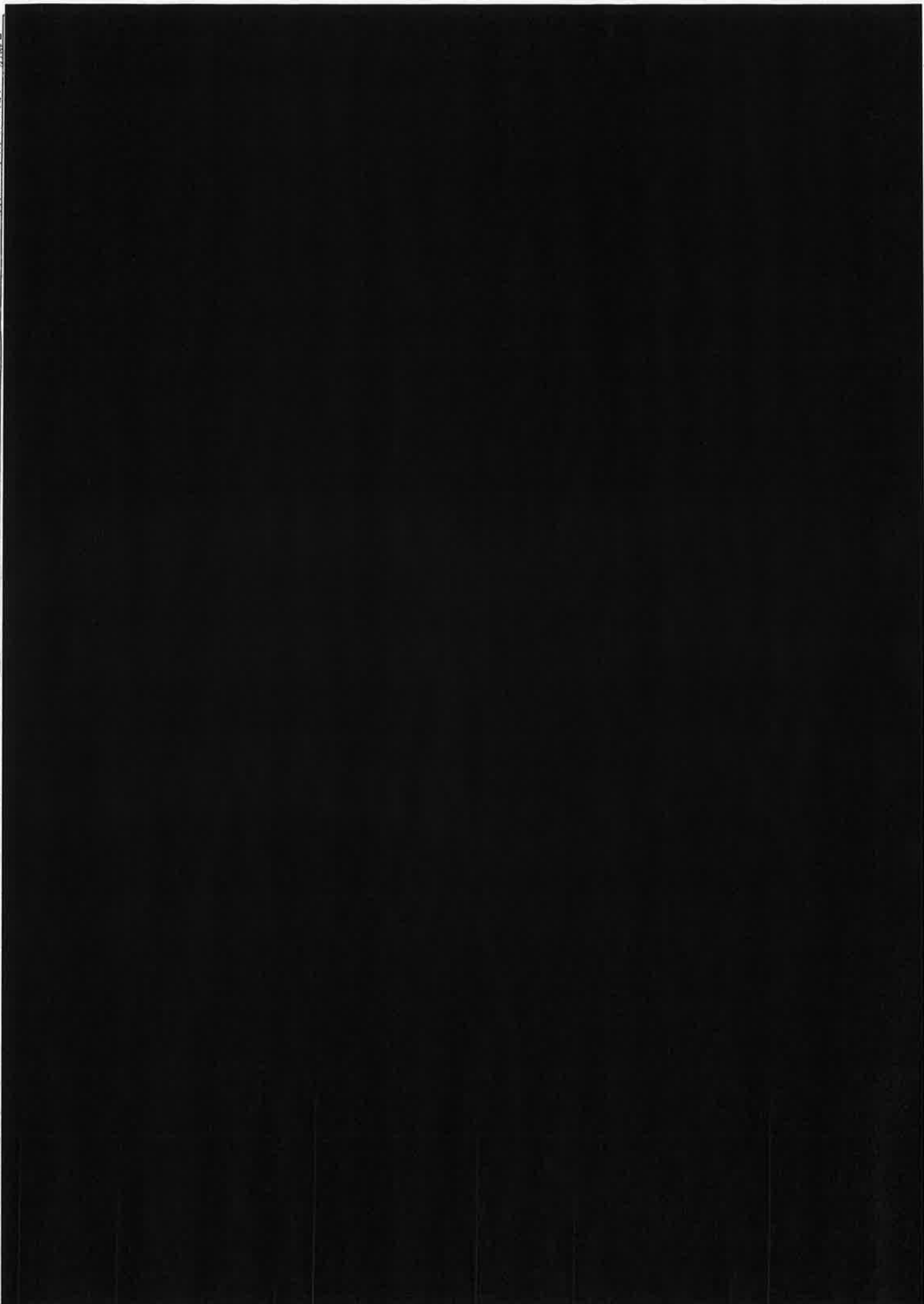
成績書管理番号：1-04-1

検査年月日：令和2年 11 月 30 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設）*1			
検査項目*	判定基準	検査結果	検査方法
組立て及び据付け状態を確認する検査 *1*3 耐圧検査、漏えい検査*2*3	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">記録確認</span>
<b>備考</b> ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0503 <del>目視で確認した範囲</del> *1：別添1（令和2年8月24日）に記載している以下の範囲を参照 別添1-1 及び別添1-13 (E-1、R-1) 別添1-2 及び別添1-14 (T-1) 別添1-4 及び別添1-16 (E-1) 別添1-5 及び別添1-17 (T-1、T-2、E-1、E-2) *2：別添1（令和2年8月24日）に記載している以下の範囲を参照 別添1-5 及び別添1-17 (T-1) *3：別添2（令和2年11月30日）参照			



関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機  
使用前検査成績書

要領書番号 : 原規規収第 1610072 号 99

成績書管理番号 : 1-04-3

令和 4 年 3 月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-04-3

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和3年10月21日  
至 令和4年3月4日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録




## 検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第321号(平成28年10月7日) 関原発第435号(平成30年3月20日) 関原発第47号(平成30年4月20日) 関原発第203号(平成30年7月4日) 関原発第260号(平成30年8月20日) 関原発第416号(平成30年12月5日) 関原発第505号(平成31年2月1日) 関原発第513号(平成31年2月6日) 関原発第4号(平成31年4月4日) 関原発第69号(2019年5月16日) 関原発第116号(2019年6月24日) 関原発第205号(2019年8月23日) 関原発第511号(2020年1月31日) 関原発第543号(2020年2月26日) 関原発第618号(2020年3月24日) 関原発第23号(2020年4月7日) 関原発第23号(2021年4月30日) 関原発第293号(2021年8月2日) 関原発第562号(2022年2月28日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和 3 年 10 月 21 日	良	宇野 正登  大江 勇人	ホワイラー・タービン 主任技術者 	なし

2

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日：令和 3 年 10 月 21 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・一	

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
(一号検査)

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日：令和3年10月21日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日：令和 3 年 10 月 21 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 別添1 参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 据付検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px 5px;">記録確認</span>
<b>備考</b> ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0310 <del>・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照</del>			

工事計画本文（原規規発第1606105号（平成28年6月10日認可））

原子炉冷却系統施設

9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前					変更後										
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料				
						原子炉補機冷却設備	窒素ポンベ ホース接続口 ～ 1次系冷却水 タンク	(注4) 0.34	(注4) 95	(注3,5)	(注3,5)	(注5)			

□：検査対象範囲

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
						原子炉補機冷却設備	可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 出口接続点 ～	(注1) 0.33	(注4) 40	(注3) 34.0	(注3, 50) 3.4	STPT370
							可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 出口配管合流点					
							A海水供給母管 接続口 ～ Aa、Ab	(注1) 1.2	(注4) 40	(注3) 267.4	(注3, 50) 9.3	STPT370
							海水ストレーナ 入口配管合流点					

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラA、B、C～ティ (20×20×16)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 重大事故等時における使用時の値

(注5) 本設備は既存の設備である。

(注6) エルボを示す。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：ティ (20×20×16) ～レジューサ (20×14)」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：ティ (16×16×16) ～レジューサ (16×12)」と記載

(注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：内部スプレクーラ～レジューサ (20×14)」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：レジューサ (20×14) ～ティ (20×20×16)」と記載

(注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載

(注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載

(注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載

(注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載

(注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C入口ティ (20×20×16)」と記載

(注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ入口連絡管」と記載

(注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) 及びレジューサ (20×16) ～1次系冷却水クーラA、C及びB」と記載

(注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クーラ (RH-2) A、B」と記載

(注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載

(注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプA、B、Cへの分岐点」と記載




- 10
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプB、Cからの合流点～弁 (2-FCV-1241) 」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプA、Bからの合流点～戻管 (8B) 合流点」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (2-5105A、B) 」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管A、B分岐点～燃料ピットクーラ」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラ～1次系機器冷却水戻母管A、B合流点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラ」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラ～1次系機器冷却水戻母管 (10B) 合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～レジャーサ (3×2) 」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～計器用コンプレッサーパッケージIA-1A、IA-1B人口レジャーサ (2×1 1/2) 」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサーパッケージIA-1A、IA-1B出口レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2) 」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジャーサ (3×2) 」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (4×2) 」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジャーサ (2×1 1/2) 」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ人口レジャーサ (1 1/2×1/2) 」と記載

- (注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジャーサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジャーサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (12×10)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×10) ～レジャーサ (10×6)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジャーサ (6×4)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) 及び分岐点～レジャーサ (4×2)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～レジャーサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (10×6) ～レジャーサ (12×10)」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×10) ～レジャーサ (12×8)」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×8) ～レジャーサ (12×8)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×8) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん/高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～レジャーサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和4年 3月4日	良	増本 豊 平川 圭司	ボイラー・タービン主任技術者 	なし

12

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日：令和4年3月4日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	良・一	

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日：令和 4 年 3 月 4 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・一	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・一	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-3

検査年月日：令和 4 年 3 月 4 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">記録確認</span>
<b>備考</b> ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0207（その2） <del>・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照</del>			

## 設 備 概 要

### 工事計画本文（原規規発第1606105号（平成28年6月10日認可））

#### 原子炉冷却系統施設

##### 9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

（8）主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
						B使用済 燃料ピットクーラ 供給配管分岐点 ～ 格納容器雰囲気 ガスサンプル リング冷却器 ～ 格納容器雰囲気 ガスサンプル リング冷却器 出口配管分岐点 ～ 弁(2V-45204) 下流側取合点			(注3)	(注3, 50)	STPT370
					原子炉補機冷却設備	(注4)	(注4)	(注3)	(注3)		
						1.2	95			34.0	3.4
										34.0	3.4
										34.0	3.4
										34.0	3.4
										34.0	3.4
										34.0	3.4
										34.0	3.4
										34.0	3.4
										34.0	3.4

17

別添1(2/9)  
令和4年3月4日



変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						B使用済			(注3)	(注3)	
						燃料ピットクーラ			34.0	3.4	
						供給配管分岐点			/	/	
						～			34.0	3.4	STPT370
						格納容器雰囲気			/	/	
						ガスサンプル			-	-	
						リング冷却器	(注4)	(注4)			
						～	1.2	95	(注3)	(注3)	
						格納容器雰囲気					
						ガスサンプル			34.0	3.4	
						リング冷却器			/	/	
						出口配管分岐点			-	-	STPT370
						～			/	/	
						弁(2V-45204)			34.0	3.4	
						下流側取合点					

原子炉補機冷却設備

18

別添1(3/9)  
令和4年3月4日

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 入口配管分岐点 ～ 可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 入口接続点	(注4) 0.33	(注4) 40	(注3) 34.0	(注3,50) 3.4	STPT370

原子炉補機冷却設備

19

変更前					変更後							
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
						原子炉補機冷却設備	可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 出口接続点 ～ 0.33	(注4) 40	(注4) 34.0	(注3) 3.4	(注3, 50)	STPT370
							可搬型原子炉 補機冷却水 循環ポンプ 出口配管合流点					
							A海水供給母管 接続口 ～ Aa、Ab 海水ストレーナ 入口配管合流点	(注4) 1.2	(注4) 40	(注3) 267.4	(注3, 50) 9.3	STPT370

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラA、B、C～ティ (20×20×16)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 重大事故等時における使用時の値

(注5) 本設備は既存の設備である。

(注6) エルボを示す。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：ティ (20×20×16) ～レジューサ (20×14) 」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載

(注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：ティ (16×16×16) ～レジューサ (16×12) 」と記載

(注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16) 」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：内部スプレクーラ～レジューサ (20×14) 」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：レジューサ (20×14) ～ティ (20×20×16) 」と記載

(注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載

(注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載

(注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16) 」と記載

(注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載

(注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C入口ティ (20×20×16) 」と記載

(注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ入口連絡管」と記載

(注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) 及びレジューサ (20×16) ～1次系冷却水クーラA、C及びB」と記載

(注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クーラ (RH-2) A、B」と記載

(注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載

(注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプA、B、Cへの分岐点」と記載

- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプB、Cからの合流点～弁 (2-FCV-1241)」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプA、Bからの合流点～戻管 (8B) 合流点」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (2-5105A、B)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管A、B分岐点～燃料ピットクーラ」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラ～1次系機器冷却水戻母管A、B合流点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラ」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラ～1次系機器冷却水戻母管 (10B) 合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～レジャーサ (3×2)」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～計器用コンプレッサーパッケージIA-1A、IA-1B入口レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサーパッケージIA-1A、IA-1B出口レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジャーサ (3×2)」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (4×2)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ入口レジャーサ (1 1/2×1/2)」と記載

- (注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジャーサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジャーサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (12×10)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×10) ～レジャーサ (10×6)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジャーサ (6×4)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) 及び分岐点～レジャーサ (4×2)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～レジャーサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (10×6) ～レジャーサ (12×10)」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×10) ～レジャーサ (12×8)」と記載
- (注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×8) ～レジャーサ (12×8)」と記載
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×8) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～レジャーサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」

と記載

- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (2×1 1/2) ～充てん／高圧注入ポンプ～レギュレーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (2 1/2×2) 充てん／高圧注入ポンプ～レギュレーサ (2 1/2×2)」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (2×1 1/2) およびレギュレーサ (2 1/2×2) ～充てん／高圧注入ポンプ出口合流点」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
- (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～海水母管分岐点及びレギュレーサ (30×24)」と記載
- (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点及びレギュレーサ (30×24) ～1次系冷却水クーラ」と記載
- (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～戻母管」と記載
- (注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋出口までの戻母管 (埋設部除く)」と記載
- (注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻母管分岐点～ラプチャディスク」と記載
- (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～連絡管レギュレーサ (10×8)」と記載
- (注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載
- (注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レギュレーサ (12×8) 及び合流点」と記載
- (注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (12×8) ～海水戻母管」と記載
- (注80) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
- (注81) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。
- (注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
- (注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

24/E

関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機  
使用前検査成績書

要領書番号 : 原規規収第1610072号99  
成績書管理番号 : 1-04-4

令和4年4月  
原子力規制委員会



使用前検査成績書

成績書管理番号：1-04-4

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和4年4月13日  
至 令和4年4月14日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録


## 検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第321号(平成28年10月7日) 関原発第435号(平成30年3月20日) 関原発第47号(平成30年4月20日) 関原発第203号(平成30年7月4日) 関原発第260号(平成30年8月20日) 関原発第416号(平成30年12月5日) 関原発第505号(平成31年2月1日) 関原発第513号(平成31年2月6日) 関原発第4号(平成31年4月4日) 関原発第69号(2019年5月16日) 関原発第116号(2019年6月24日) 関原発第205号(2019年8月23日) 関原発第511号(2020年1月31日) 関原発第543号(2020年2月26日) 関原発第618号(2020年3月24日) 関原発第23号(2020年4月7日) 関原発第23号(2021年4月30日) 関原発第293号(2021年8月2日) 関原発第562号(2022年2月28日) 関原発第585号(2022年3月15日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-04-4

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和4年 4月13日 14	良	守野 正登 吉村 直樹	ボイラー、タービン主任技術者 	なし

6

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-04-4

検査年月日：令和4年4月13日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	良 ー	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	良 ー	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	良 ー	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-4

検査年月日：令和 4 年 4 月 13 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良 -	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良 -	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良 -	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良 -	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-04-4

検査年月日：令和 4 年 4 月 13 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管 別添 1 参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">記録確認</span>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0215 <del>・目視で確認した範囲：添付資料 3-3 参照</del>			

## 設 備 概 要

工事計画本文（原規規発第1606105号（平成28年6月10日認可））

### 原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るものにあつては、次の事項

#### 9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変 更 前						変 更 後							
名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料		
原子炉補機冷却設備	(注1) 1次系冷却水 クーラ A、B、C ～ 供給母管	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし				変更なし	
	1次系 冷却水クーラ A、B、C 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41		変更なし	(注4) 0.98	(注4) 95	(注3, 5, 6) 406.4	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) SS41
		(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41		変更なし	(注4) 1.2	変更なし	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SM400B

□ : 検査対象範囲

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注1)	1次系冷却水 クーラ A、B、C ～ 供給母管 1次系 冷却水クーラ A、B、C 分岐点	-			原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4)	95	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
										406.4	9.5	SS41
										(注3, 5)	(注3, 5)	
										406.4	9.5	(注5)
									406.4	9.5		

: 検査対象範囲



変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注1)					原子炉補機冷却設備			(注3)	(注3)	
	1次系冷却水 クーラ A、B、C ～ 供給母管 1次系 冷却水クーラ A、B、C 分岐点						変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	406.4 / 406.4 / 216.3	9.5 / 9.5 / 8.2

9

10

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注7)	(注2)	(注3)	(注3)		原子炉補機冷却設備	変更なし					
	供給母管	0.98	95	508.0	9.5		SS41			(注3,5)	(注3,5)	
	1次系 冷却水クーラA 分岐点 ~ 供給母管 1次系							(注4)	(注4)	508.0	9.5	(注5)
	冷却水クーラC 分岐点	0.98	95	508.0	9.5		SS41	0.98	95	—	—	SS41
	(注2)	(注3)	(注3)				406.4	9.5				
	0.98	95	508.0	9.5	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	
						1.2						

□ : 検査対象範囲

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注7)					原子炉補機冷却設備			(注3, 5)	(注3, 5)	
	供給母管 1次系 冷却水クーラA 分岐点 ～ 供給母管 1次系 冷却水クーラC 分岐点						変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	508.0 508.0 406.4	9.5 9.5 9.5

□ : 検査対象範囲

12

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
(注8) 供給母管 1次系 冷却水クーラC 分岐点 ~ 1次系機器冷却水 母管分岐点 充てん/高圧 注入ポンプ行き 上流 レジューサ (20×14) 原子炉補機冷却設備	(注2)		(注3)	(注3)	SS41	変更なし 原子炉補機冷却設備	変更なし					
	0.98	95	508.0	9.5			(注4)	1.2	変更なし			
										(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
										508.0	9.5	SS41
										(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)
								508.0	9.5	SS41		
							(注4)	(注4)				
							1.2	95				
									(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)	
									508.0	9.5	SS41	
									508.0	9.5	SS41	

□ : 検査対象範囲

13

変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
原子炉補機冷却設備	(注9) 1次系機器冷却水 母管分岐点 充てん/高圧 注入ポンプ行き 上流 レジャーサ (20×14) ～	(注2) 0.98	95	(注3) 355.6	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし (注4) 1.2	変更なし			
	1次系機器冷却水 母管分岐点 充てん/高圧 注入ポンプ行き							変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5, 6) 355.6	(注3, 5, 6) 9.5

□ : 検査対象範囲

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注10) 1次系 冷却水クーラB 出口ライン分岐点 ~ 1次系機器冷却水 母管分岐点 格納容器循環 冷暖房ユニット 行き	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	変更なし (注4) 1.2	変更なし			
	原子炉補機冷却設備	変更なし	1.2	95	406.4	9.5	SS41	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	
								(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)	
								323.9	9.5		

   : 検査対象範囲

15

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 1次系機器冷却水 母管合流点 格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り ～ Cヘッド戻り 合流点	(注2)		(注3)	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
	0.98	95	406.4	9.5	161						
					(注3, 5, 6)		(注3, 5, 6)	(注5, 6)			
					(注3, 5)		(注3, 5)				
	(注4)	(注4)			(注5)						
	0.98	161	406.4	9.5	SS41						
			—	—							
			323.9	9.5							

□ : 検査対象範囲

16

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注14) 内部スプレ クーラA、B下流 レギュレーサ (20×14) ～ 1次系冷却水 タンク 連絡配管接続点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	変更なし				
	(注14) 1次系冷却水 タンク 連絡配管接続点 ～ 1次系 冷却水ポンプ A、D 入口ライン合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	変更なし				
		(注4) 0.98	(注4) 95	(注3, 5, 6) 508.0	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) SS41	変更なし				

□ : 検査対象範囲



17

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注15)	(注2)		(注3)	(注3)		変更なし	変更なし		変更なし			
	0.98	95	508.0	9.5	SS41		161	(注4)				
原子炉補機冷却設備 1次系 冷却水ポンプA 入口ライン合流点 ～ 1次系 冷却水ポンプD 入口ライン合流点	変更なし					原子炉補機冷却設備	(注4)	161	(注3,5)	(注3,5)	(注5)	
									508.0	9.5		SS41
									508.0	9.5		
									508.0	9.5		
									(注3,5)	(注3,5)		
508.0	9.5											
原子炉補機冷却設備	変更なし					原子炉補機冷却設備	(注4)	161	(注3,5)	(注3,5)	(注5)	
									508.0	9.5		
									508.0	9.5		
原子炉補機冷却設備	変更なし					原子炉補機冷却設備	(注4)	161	(注3,5)	(注3,5)	(注5)	
									406.4	9.5		

□ : 検査対象範囲

18

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備 1次系 冷却水ポンプ A、B、C、D 入口ライン合流点 ～ 1次系 冷却水ポンプ A、B、C、D	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	変更なし			
			(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41		161	(注4)				
									(注4)	(注3, 5, 6) 406.4	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) SS41
									(注4) 0.98	(注4) 161	(注3, 5) 508.0	(注3, 5) 9.5
									406.4	9.5		

□ : 検査対象範囲

19

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注17) 1次系 冷却水ポンプ A、B、C、D ～ 1次系 冷却水ポンプ A、B、C、D 出口ライン分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
							161	(注4)			
						変更なし			(注3, 5, 6) 406.4	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) SS41
							(注4) 0.98	(注4) 161	(注3, 5) 406.4	(注3, 5) 9.5	(注5) SS41
									／	／	SS41
									323.9	9.5	

□ : 検査対象範囲

20

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注18) 1次系 冷却水ポンプA 出口ライン分岐点 ~ 1次系 冷却水ポンプD 出口ライン分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 508.0	(注3) 9.5	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	161	変更なし	変更なし	変更なし
		(注4) 0.98	(注4) 161	(注3,5) 508.0	(注3,5) 9.5	(注5) SS41					
				406.4	9.5						

□ : 検査対象範囲

21

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注19)	(注2)	(注3)	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	変更なし		
	1次系 冷却水ポンプ A、D 出口ライン分岐点	0.98	95	508.0	9.5		変更なし	161			
	1次系 冷却水クーラ A、C 入口ライン合流点								(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
									508.0	9.5	SS41
						(注4)	(注4)	(注3, 5)	(注3, 5)		
						0.98	161	508.0	9.5		
								508.0	9.5	(注5)	
								406.4	9.5		

□ : 検査対象範囲

22

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
(注20)	(注2)	(注3)	(注3)	(注3)	SS41	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
原子炉補機冷却設備	1次系冷却水クーラ A、C 入口ライン合流点 ~ 1次系冷却水クーラ B上流 レジューサ (20×16)					原子炉補機冷却設備	161	161			
							(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
									508.0	9.5	SS41
									508.0	9.5	(注5)
								0.98	161	406.4	9.5
								(注3, 5)	(注3, 5)		
								508.0	9.5		
								508.0	9.5	(注5)	
								508.0	9.5	SS41	
								508.0	9.5		

□ : 検査対象範囲

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注21) 1次系 冷却水クーラ A、C 入口ライン合流点 及び 1次系 冷却水クーラ B上流 レジューサ (20×16) ~ 1次系 冷却水クーラ A、C及びB						原子炉補機冷却設備 変更なし					
	(注2) 0.98	95	(注3) 406.4	(注3) 9.5	SS41		変更なし	変更なし	(注4) 161	変更なし	
	(注4) 0.98	(注4) 161	(注3, 5, 6) 406.4	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) SS41						

23

: 検査対象範囲

変更前						変更後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				(MPa)
原子炉補機冷却設備	(注27) 1次系冷却水 タンク	(注2) 0.98	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42	変更なし					
	連絡配管接続点 ～ 弁(2V-5105A、B)	—					原子炉補機冷却設備	(注4) 0.98	(注4) 95	(注3, 5, 6) 114.3	(注3, 5, 6) 6.0	(注5, 6) STPT42
	(注28) 弁(2V-5105A、B)	(注2) 0.34	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42		変更なし				
	～ 1次系冷却水 タンク	—					原子炉補機冷却設備	(注4) 0.34	(注4) 95	(注3, 5, 6) 114.3	(注3, 5, 6) 6.0	(注5, 6) STPT42

□ : 検査対象範囲



25

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注29) 1次系機器冷却水 母管分岐点 B使用済 燃料ピット クーラ行き ～ B使用済 燃料ピットクーラ 供給配管分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 273.1	(注3) 9.3	STPG42	変更なし	(注4) 1.2	変更なし	変更なし	変更なし	
	(注3, 43) 267.4			(注3, 43) 9.3	(注43) STPT38							
	(注3, 80) 267.4			(注3, 80) 9.3	(注80) STPT370							
	(注29) B使用済 燃料ピットクーラ 供給配管分岐点 ～ B使用済 燃料ピットクーラ 供給配管分岐点	(注2) 0.98	95	(注3, 43) 267.4	(注3, 43) 9.3	(注43) STPT38	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5, 6) 273.1	(注3, 5, 6) 9.3	(注5, 6) STPT42
	(注3, 80) 267.4			(注3, 80) 9.3	(注80) STPT370	(注3, 5, 6) 267.4			(注3, 5, 6) 9.3	(注5, 6) STPT38		
	(注3, 80) 267.4			(注3, 80) 9.3	(注80) STPT370	変更なし						

□ : 検査対象範囲

26

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注37) 1次系機器冷却水 母管分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42	変更なし					
	B余熱除去ポンプ 他行き						(注4) 1.2			(注3, 5, 6) 88.9	(注3, 5, 6) 5.5	(注5, 6) STPT42
	B余熱除去ポンプ 及び 内部スプレ ポンプ室						(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5) 88.9	(注3, 5) 5.5		
	空調装置 冷却ライン 入口配管分岐点								88.9	5.5	(注5) STPT42	
						原子炉補機冷却設備	変更なし					

□ : 検査対象範囲

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注39) 1次系機器冷却水 母管分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 114.3	(注3) 6.0	STPG42	変更なし (注4) 1.2	変更なし			
	充てん/高圧 注入ポンプ 行き					原子炉補機冷却設備 変更なし			(注3, 5, 6) 114.3	(注3, 5, 6) 6.0	(注5, 6) STPT42
	～ 充てん/高圧 注入ポンプ室						(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5) 114.3	(注3, 5) 6.0	(注5) STPT42
	B空調装置 冷却ライン 分岐点								／ 114.3	／ 6.0	
								—	—		

27

□ : 検査対象範囲

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
(注41) B余熱除去ポンプ 及び C、D内部スプレ ポンプ 冷却ライン レジューサ(3×2) ~ B余熱除去ポンプ 冷却ライン レジューサ (2×1 1/2) 及び C、D内部スプレ ポンプ 冷却ライン レジューサ (2×1 1/2)	(注2)		(注3)	(注3)	STPG42	変更なし (注4)	1.2				
	0.98	95	60.3	3.9							
原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	(注5, 6)
							1.2	95	(差し込み部の内径)	(最小)	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
									61.1	6.0	(注3) (6.0)

□ : 検査対象範囲

29

変更前					変更後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注41) B余熱除去ポンプ 及び C、D内部スプレ ポンプ 冷却ライン レジューサ(3×2) ~ B余熱除去ポンプ 冷却ライン レジューサ (2×1 1/2) 及び C、D内部スプレ ポンプ 冷却ライン レジューサ (2×1 1/2)						原子炉補機冷却設備 変更なし			(注3, 5)	(注5)	
							(注4)	(注4)	88.9	4.8	(注5)
							1.2	95	61.1	6.0	相当)
									(差し込み部の内径)	(5.5	(注3)
									61.1	6.0)	

□ : 検査対象範囲

30

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注41) B余熱除去ポンプ 及び C、D内部スプレ ポンプ 冷却ライン レジューサ(3×2) ～ B余熱除去ポンプ 冷却ライン レジューサ (2×1 1/2) 及び C、D内部スプレ ポンプ 冷却ライン レジューサ (2×1 1/2)					原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3,5) 61.1 / (差し込み部の内径) / (差し込み部の内径) 61.1	(注5) 61.1 / (最小) 6.0 / (最小) 6.0 / (最小) 6.0	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

□ : 検査対象範囲

31

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注42)	(注2) 0.98	95	(注3, 43) 21.3	(注3, 43) 2.8	(注43) STPG42	変更なし	(注4) 1.2	変更なし			
			(注3) 48.3	(注3) 3.7	STPG42						
原子炉補機冷却設備 B余熱除去ポンプ 冷却ライン レジューサ (2×1 1/2) ～ B余熱除去ポンプ						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5, 6) (差し込み部の内径) 48.7	(注5, 6) (最小) 5.5	(注5, 6) ASTM A105 Gr II (S25C相当)
									(注3, 5) (穴径) 15.4	(注5) (最小) 4.0	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C相当)
								(注3, 5) (穴径) 15.4	(注5) (最小) 4.0	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C相当)	
								(注3, 5) (穴径) 15.4	(注5) (最小) 4.0	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C相当)	

□ : 検査対象範囲

32

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
原子炉補機冷却設備 (注42)	B余熱除去ポンプ					原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3,5)	(注5)	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
	冷却ライン レジューサ (2×1 1/2) ~ B余熱除去ポンプ								(穴径) 40.5 / (穴径) 40.5	(最小) 5.5 / (最小) 5.5 (注3) (5.5)	

: 検査対象範囲



33

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 B余熱除去ポンプ 冷却ライン レジューサ (2×1 1/2) ~ B余熱除去ポンプ	(注42)					原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3, 5)	(注5)	(注5)
							1.2	95	(差し込み部の内径) 48.7 /	(最小) 5.5 /	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C相当)
									(差し込み部の内径) 48.7 /	(注3) (5.5 /	
										5.5)	

□ : 検査対象範囲

34

変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
原子炉補機冷却設備 B余热除去ポンプ ～ B余热除去ポンプ ・出口配管分岐点	(注49)		(注3, 43)	(注3, 43)	(注43)	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし		変更なし				
	(注2)	0.98	95	21.3	2.8		STPG42	(注4)	変更なし				
				(注3)	(注3)		STPG42	1.2		(注3)	(注3)		
				48.3	3.7					48.3	3.7	STPT370	
									(注3, 6)	(注3, 6)	(注6)		
									48.3	3.7	STPT370		
							(注4)	1.2	(注4)	95	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	(注5, 6)
									(差し込み部の内径)	(最小)	ASTM A105		
									48.7	5.5	Gr-II		
										(注3)	(5.5)	相当)	

□ : 検査対象範囲

35

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 B余熱除去ポンプ ～ B余熱除去ポンプ 出口配管分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)	
							1.2	95	(穴径) 15.4	(最小) 4.0	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
								(注3)	(注3)		
								48.3	3.7		
								—	—		STPT370
								48.3	3.7		

□ : 検査対象範囲

36

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注49) B余熱除去ポンプ					原子炉補機冷却設備	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3) 48.3	(注3) 3.7	STPT370
	~ B余熱除去ポンプ 出口配管分岐点										

37

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 B余熱除去ポンプ ～ B余熱除去ポンプ 出口配管分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし					
	(注49)							(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)
							1.2	95	48.7	(最小) 5.5	
									(差し込み部の内径) 48.7	—	(注5)
									—	5.5	ASTM A105
									—	(注3)	Gr II (S25C)
									(差し込み部の内径) 48.7	(5.5)	相当)
									—	—	
									—	5.5)	

: 検査対象範囲

38

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 1次系機器冷却水 母管分岐点 格納容器循環 冷暖房ユニット 行き ～ 弁(2MOV-5160A)	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし (注4) 1.2	変更なし			
							(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5, 6) 323.9	(注3, 5, 6) 9.5	(注5, 6) STPT42
									(注3, 5) 318.5	(注3, 5) 10.3	(注5) STPT38
(注52) 弁(2MOV-5160A) ～ 格納容器貫通部 PEN#256	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 138	変更なし		

□ : 検査対象範囲

39

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 格納容器貫通部 PEN#256 ～ 格納容器貫通部 PEN#256 下流 レジューサ (12×10)	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 1.2	(注4) 138	変更なし		
				(注3, 5, 6) 323.9	(注3, 5, 6) 9.5				(注5, 6) STPT42		
				(注3, 5) 273.1	(注3, 5) 9.3				(注5) STPT42		
				(注3, 5) 323.9	(注3, 5) 9.5				(注5) STPT42		

□ : 検査対象範囲

40

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注53) 格納容器貫通部	(注2) 0.98	95	(注3) 273.1	(注3) 9.3	STPG42	変更なし				
	PEN#256								(注3, 5, 6) 273.1	(注3, 5, 6) 9.3	(注5, 6) STPT42
	下流 レジューサ (12×10) ~						(注4) 1.2	(注4) 138	(注3, 5) 273.1	(注3, 5) 9.3	(注5) STPT42
	B格納容器循環 冷暖房ユニット 行き分岐点								/	/	
									/	/	
									168.3	7.1	

: 検査対象範囲



変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備 B格納容器循環 冷暖房ユニット 行き分岐点 ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口上流 レジューサ (6×4)	(注2)		(注3)	(注3)		原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	138	変更なし		
	0.98	95	168.3	7.1	STPG42				(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
									168.3	7.1	STPT42
									(注3, 5)	(注3, 5)	(注5)
									168.3	7.1	STPT42
					(注4)	(注4)					
					1.2	138	/	/			
							114.3	6.0			
							(注3, 5)	(注3, 5)			
							168.3	7.1			
							/	/	(注5)		
							-	-			STPT42
							/	/			
							168.3	7.1			

□ : 検査対象範囲

42

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備 B格納容器循環 冷暖房ユニット 行き分岐点 ~ A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口上流 レジューサ (6×4)						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注3,5)		
							1.2	138	168.3	7.1		
									168.3	7.1	STPT42	(注5)
									114.3	6.0		

□ : 検査対象範囲

43

変更前						変更後								
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料			
	圧力	温度					圧力	温度				(MPa)	(°C)	(MPa)
<small>(注55)</small> A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口上流 レジューサ (6×4) 及び A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口上流分岐点 ~ A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口下流 レジューサ (4×2)	<small>(注2)</small>		<small>(注3)</small>	<small>(注3)</small>	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	<small>(注4)</small>	<small>(注4)</small>	114.3 / (差し込み 部の内径) 61.1	5.2	<small>(注5)</small> ASTM A105 Gr II (S25C 相当)			
	0.98	95	114.3	6.0	変更なし		1.2	138		114.3		(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)

□ : 検査対象範囲

変更前						変更後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				(MPa)
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注56) A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口下流 レジューサ (4×2) 及び A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口下流分岐点 ~ A格納容器循環 冷暖房ユニット	(注2)	95	(注3)	(注3)	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	138	(注4)	変更なし		(注5)
	0.98	60.3	3.9	(注3, 5)	(注5)					ASTM A105 Gr II (S25C 相当)		
原子炉補機冷却設備							1.2		(差し込み 部の内径)	(最小)		
									61.1	7.3		
										(注3)		

44

: 検査対象範囲

45

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				(MPa)
原子炉補機冷却設備	(注56)					原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4)	(注4)	61.1	6.0	(注5)
A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口下流 レジューサ (4×2) 及び A格納容器循環 冷暖房ユニット 入口下流分岐点 ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット							1.2	138	(差し込み 部の内径) 61.1 /	(最小) 6.0 /	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)	
									(差し込み 部の内径) 61.1 /	(注3) (6.0 /		
										6.0)		

□ : 検査対象範囲

変更前						変更後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				(MPa)
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注56) A格納容器循環 冷暖房ユニット ～ A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口上流 レジューサ (4×2) 及び A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口上流 合流点	(注2) 0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4) 1.2	(注4) 161	変更なし	
	(注3, 5) (差し込み 部の内径) 61.1	(注5) (最小) 7.3 (注3) (7.3)	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)									

46

□ : 検査対象範囲

47

変更前					変更後								
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度				(mm)	(mm)
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
<small>(注56)</small> A格納容器循環 冷暖房ユニット ~ A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口上流 レジューサ (4×2) 及び A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口上流 合流点 原子炉補機冷却設備						原子炉補機冷却設備 変更なし	<small>(注4)</small>	<small>(注4)</small>	<small>(注3, 5)</small>	<small>(注5)</small>			
										(最小)	6.0		
										(差し込み 部の内径)	/	-	<small>(注5)</small>
										61.1	/	ASTM	
									/	(最小)	A105		
									-	6.0	Gr II		
									/	<small>(注3)</small>	(S25C		
									(差し込み 部の内径)	(6.0	相当)		
									61.1	-			
									/	6.0)			

  : 検査対象範囲

48

変更前						変更後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注57) A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口上流 レジューサ (4×2) ~ A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口下流 レジューサ (6×4) 及び A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口下流 合流点 原子炉補機冷却設備	(注2)		(注3)	(注3)		原子炉補機冷却設備 変更なし			変更なし			
	0.98	95	114.3	6.0	STPG42				(注3,5)	(注3,5)	(注5)	
										114.3	6.0	STPT38
										(注3,5,6)	(注3,5,6)	(注5,6)
										114.3	6.0	STPT42
						(注4)	(注4)	114.3	5.2	(注5)		
						1.2	161	(差し込み部の内径)	(最小) 6.0	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)		
								61.1	(注3) (6.0)			
									6.0			
								(注3,5)	(注3,5)	(注5)		
								168.3	7.1	STPT42		
								114.3	6.0			

: 検査対象範囲



49

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧	温度					圧	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注58) 原子炉補機冷却設備 A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口下流 レジューサ (6×4) ~ A、B格納容器循環 冷暖房ユニット 出口合流点	(注2)		(注3)	(注3)		原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 1.2	(注4) 161	変更なし		
	0.98	95	168.3	7.1	STPG42				(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)
									168.3	7.1	STPT42
									(注3, 5)	(注3, 5)	
									168.3	7.1	(注5)
					168.3	7.1	STPT42				
					(注3, 5)	(注3, 5)					
					168.3	7.1	(注5)				
					168.3	7.1	STPT42				
					114.3	6.0					

□ : 検査対象範囲

150

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
(注58) 原子炉補機冷却設備 A格納容器循環 冷暖房ユニット 出口下流 レジューサ (6×4) ~ A、B格納容器循環 冷暖房ユニット 出口合流点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 1.2	(注4) 161	(注3,5) 168.3	(注3,5) 7.1	(注5) STPT42
										(注3,5) 168.3	(注3,5) 7.1

: 検査対象範囲

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注59) A、B格納容器循環 冷暖房ユニット 出口合流点 ～ A、B格納容器循環 冷暖房ユニット 出口合流点下流 レジューサ (12×10)	(注2) 0.98	95	(注3) 273.1	(注3) 9.3	STPG42	原子炉補機冷却設備	1.2	161	変更なし		
						(注3, 5, 6) 273.1				(注3, 5, 6) 9.3	(注5, 6) STPT42	
						(注3, 5) 323.9				(注3, 5) 9.5	(注5) STPT42	
						273.1				9.3		

51

□ : 検査対象範囲

52

変更前						変更後									
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料				
	圧力	温度					圧力	温度							
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)					
原子炉補機冷却設備	(注60)	(注2)	(注3)	(注3)	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし								
	A、B格納容器循環 冷暖房ユニット 出口合流点下流 レジューサ (12×10) ～ 格納容器貫通部 PEN#257	0.98	95	323.9	9.5		変更なし	(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	323.9	9.5	STPT42
										(注3, 5)	(注3, 5)		323.9	9.5	(注5) STPT42
	(注60)														
	格納容器貫通部 PEN#257 ～ 弁(2MOV-5160B)					変更なし	(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	323.9	9.5	STPT42	

□ : 検査対象範囲

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注61) 弁(2MOV-5160B)	(注2) 0.98	95	(注3) 219.1	(注3) 8.2	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし	変更なし		
	~ 下流 レジューサ (12×8)						(注4) 1.2	(注4) 161			
						変更なし	(注4) 1.2	(注4) 161	(注3,5) 323.9	(注3,5) 9.5	(注5) STPT42
									219.1	8.2	

53

□ : 検査対象範囲

54

変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
原子炉補機冷却設備 弁(2MOV-5160B) 下流 レジューサ (12×8) ~ 1次系機器冷却水 母管合流点 格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	変更なし				
							161	(注4) 0.98	(注4) 161	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPT370	
									(注4) 0.98	(注4) 161	(注3,6) 323.9	(注3,6) 9.5	(注6) STPT370
		(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5		STPG42	変更なし	変更なし	変更なし			
							(注4) 1.2	(注4) 161	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPT370		
									(注3,5,6) 323.9	(注3,5,6) 9.5	(注5,6) STPT42		
							(注4) 1.2	(注4) 161	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPT370		
								318.5	10.3				
								323.9	9.5				

□ : 検査対象範囲

55

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備 充てん/高圧 注入ポンプ室 B空調装置冷却 ライン分岐点 ~ B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし (注4) 1.2	変更なし				
							(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5, 6) 88.9	(注3, 5, 6) 5.5	(注5, 6) STPT42	
									(注3, 5) 114.3	(注3, 5) 6.0	(注5) STPT42	
									／	／	(注5) STPT42	
									88.9	5.5	(注5) STPT42	
						(注3, 5) 88.9	(注3, 5) 5.5	(注5) STPT42	(注5) STPT42			
						(注3, 5) 88.9	(注3, 5) 5.5	(注5) STPT42	(注5) STPT42	(注5) STPT42		

□ : 検査対象範囲

56

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注64) B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 ~ B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) 及び B充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レジューサ (2 1/2×2)	(注2)		(注3)	(注3)	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし				
	0.98	95	60.3	3.9			1.2				
									(注3, 5, 6)	(注5, 6)	(注5, 6)
									(差し込み部の内径)	(最小)	ASTM A105 Gr II (S25C) 相当
									61.1	6.0	(注3)
										(6.0)	相当
							(注4)	(注4)	(注3, 5)	(注5)	
							1.2	95		(最小)	(注5)
									(穴径)	5.5	ASTM A105 Gr II (S25C) 相当
									40.5	(最小)	
									40.5	5.5	
									(穴径)	(注3)	
									40.5	(5.5)	相当
										5.5)	

□ : 検査対象範囲



57

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注64) B充てん／高压 注入ポンプ入口 分岐点 ~ B充てん／高压 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) 及び B充てん／高压 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レジューサ (2 1/2×2)						原子炉補機冷却設備 変更なし					
								(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)
							1.2	95	73.0 / (差し込み部の内径) 61.1	4.5 / (最小) 6.0 / (注3) (5.2 / 6.0)	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

□ : 検査対象範囲

58

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
(注64) B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 ～ B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) 及び B充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レジューサ (2 1/2×2)						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5) 88.9 / (差し込み部の内径) 61.1	(注5) 4.8 / (最小) 6.0 / (注3) (5.5 / 6.0)	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)

□ : 検査対象範囲

59

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
(注64) B充てん／高圧 注入ポンプ入口 分岐点 ～ B充てん／高圧 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) 及び B充てん／高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レジューサ (2 1/2×2)						原子炉補機冷却設備	1.2	95	61.1	6.0	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
						原子炉補機冷却設備			61.1	6.0	
						変更なし	(注4)	(注4)	(差し込み 部の内径) 61.1	(注5) (最小) 6.0	
									(差し込み 部の内径) 61.1	(注3) (最小) 6.0	
									(差し込み 部の内径) 61.1	(注3) (最小) 6.0	

□ : 検査対象範囲

60

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注64) B充てん/高圧 注入ポンプ入口 分岐点 ~ B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) 及び B充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レジューサ (2 1/2×2)						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3, 5)	(注5)	
								1.2	95	61.1	6.0
									(差し込み部の内径)	(最小) 6.0	
									(差し込み部の内径)	(最小) 6.0	(注5)
									(差し込み部の内径)	(注3) (6.0)	
										6.0	
										-	

□ : 検査対象範囲

61

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注64) C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水 入口配管合流点 ~ C充てん/高圧 注入ポンプ	(注2) 0.98	95	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPG42	原子炉補機冷却設備	変更なし	変更なし		
	冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) 及び C充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レジューサ (2 1/2×2)							変更なし	(注3) 60.3	(注3) 3.9	STPT370
							(注4) 0.98	(注4) 95	(注3, 5, 6) 61.1	(注5, 6) 6.0	(注5, 6) ASTM A105 Gr II (注3) (S25C 相当)

□ : 検査対象範囲

62

変更前						変更後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				(MPa)
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注64) C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水 入口配管合流点 ~ C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) 及び C充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レジューサ (2 1/2×2)						原子炉補機冷却設備 変更なし						
										(注3,5)	(注3,5)	
										73.0	5.2	
										—	—	(注5)
									(差し込み部の内径)	(最小)	STPT42	
									61.1	6.0		
							(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)		
							0.98	95		(最小)		
									(穴径)	5.5	(注5)	
									40.5	(最小)	ASTM A105	
									—	5.5	Gr II	
									(穴径)	(注3)	(S25C 相当)	
									40.5	(5.5		
									—	5.5)		

: 検査対象範囲

63

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	(注64) C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水 入口配管合流点 ~ C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) 及び C充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レジューサ (2 1/2×2)					原子炉補機冷却設備			(注3)	(注3)	
							変更なし	(注4) 0.98	(注4) 95	60.3 /	3.9 /
									60.3 /	3.9 /	
									60.5	3.9	

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注64) C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水 入口配管合流点 ~ C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) 及び C充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レジューサ (2 1/2×2)						原子炉補機冷却設備 変更なし			(注3, 5)	(注5)	
							(注4)	(注4)	(注3)	(注5)	
							0.98	95	61.1	6.0	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
									(差し込み部の内径)	(最小) 6.0	
									(差し込み部の内径)	(最小) 6.0	
									(差し込み部の内径)	(最小) 6.0	
									(差し込み部の内径)	(最小) 6.0	
									(差し込み部の内径)	(最小) 6.0	

64

□ : 検査対象範囲



65

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注65) B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) ~ B充てん/高圧 注入ポンプ ~ B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン出口 レジューサ (2×1 1/2)	(注2)		(注3)	(注3)		原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし					
	0.98	95	48.3	3.7	STPG42		(注4)	変更なし				
								1.2				
							(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	(注5, 6)	
									(差し込み部の内径)	(最小)	ASTM A105 Gr II (S25C相当)	
									48.7	5.5	(注3) (5.5)	
									(注3, 5)	(注5)		
							1.2	95	(最小)	5.5	(注5)	ASTM A105 Gr II (S25C相当)
									(穴径)	5.5		
									40.5	(最小)		ASTM A105 Gr II (S25C相当)
									(穴径)	5.5	(注3)	
									40.5	(5.5)		
										5.5		

□ : 検査対象範囲

99

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注65)					原子炉補機冷却設備			(注3, 5)	(注5)		
	B充てん/高圧 注入ポンプ						変更なし				(最小)	
	冷却ライン入口										5.5	
	レジューサ									(差し込み	/	
	(2×1 1/2)									部の内径)	-	(注5)
	~									48.7	/	ASTM
B充てん/高圧 注入ポンプ							(注4)	(注4)		(最小)	A105	
~							1.2	95		5.5	Gr II	
B充てん/高圧 注入ポンプ											(注3)	(S25C
~									(差し込み	(5.5	相当)	
冷却ライン出口									部の内径)	/		
レジューサ									48.7	-		
(2×1 1/2)										/		
										5.5)		

: 検査対象範囲

67

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注65)	(注2)		(注3)	(注3)		変更なし					
C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) ~ C充てん/高圧 注入ポンプ ~ C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン出口 レジューサ (2×1 1/2)	0.98	95	48.3	3.7	STPG42	変更なし					
原子炉補機冷却設備						変更なし	(注4)	95	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	(注5, 6)
									(差し込み部の内径)	(最小)	ASTM-A105 Gr II (S25C相当)
									48.7	5.5	(注3) (5.5)
							(注4)	(注4)	(注3, 5)	(注5)	(注5)
	0.98								(最小)	5.5	(注5) ASTM-A105 Gr II (S25C相当)
									(穴径)	40.5	(最小) 5.5 (注3) (5.5)
									(穴径)	40.5	(注3) (5.5)
										5.5	

□ : 検査対象範囲

89

変更前					変更後								
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度				(mm)	(mm)
	(MPa)	(°C)					(MPa)	(°C)					
原子炉補機冷却設備	(注65) C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン入口 レジューサ (2×1 1/2) ~ C充てん/高圧 注入ポンプ ~ C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン出口 レジューサ (2×1 1/2)					原子炉補機冷却設備	変更なし	(注4) 0.98	(注4) 95	(注3,5) /	(注5) (最小) 5.5 /	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)	
										(差し込み 部の内径)	/		
										48.7	/		
											/	(最小)	
											/	5.5	
											(差し込み 部の内径)	(注3) (5.5)	
									48.7	/			
									/	5.5)			

□ : 検査対象範囲

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注66) B充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レジューサ (2 1/2×2) ~ B充てん/高圧 注入ポンプ ~ B充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン出口 レジューサ (2 1/2×2)	(注2) 0.98	95	(注3) 73.0	(注3) 5.2	STPG42	変更なし	(注4) 1.2	変更なし			
									(注3, 5, 6) 73.0	(注3, 5, 6) 5.2	(注5, 6) STPT42	
						変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3, 5) 73.0	(注5) 4.5	(注5) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)	
									(差し込み 部の内径) 61.1	(注3) (最小) 6.0 (5.2 6.0)		

69

□ : 検査対象範囲

70

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備	(注66) C充てん/高压 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン入口 レギュレーサ (2 1/2×2) ~ C充てん/高压 注入ポンプ ~ C充てん/高压 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン出口 レギュレーサ (2 1/2×2)	(注2) 0.98	95	(注3) 73.0	(注3) 5.2	STPG42	変更なし					
	原子炉補機冷却設備						変更なし	(注4) 0.98	(注4) 95	(注3, 5, 6) 73.0	(注3, 5, 6) 5.2	(注5, 6) STPT42
										(注3, 5) 73.0	(注3, 5) 5.2	(注5) STPT42
										(差し込み部の内径) 61.1	(最小) 6.0	

□ : 検査対象範囲

71

変 更 前						変 更 後						
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注67) B充てん／高压 注入ポンプ 冷却ライン出口 レジューサ (2×1 1/2) 及び B充てん／高压 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン出口 レジューサ (2 1/2×2) ~ B充てん／高压 注入ポンプ 出口配管合流点						原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし					
	(注2)	95	(注3)	(注3)	STPG42		(注4)	1.2				変更なし
	0.98		60.3	3.9								

72

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注67) B充てん／高压 注入ポンプ 冷却ライン出口 レジューサ (2×1 1/2) 及び B充てん／高压 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン出口 レジューサ (2 1/2×2) ~ B充てん／高压 注入ポンプ 出口配管合流点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	(注5, 6)
							1.2	95	(差し込み部の内径) 61.1	(最小) 6.0	ASTM A105 Gr II (注3) (S25C 相当)
										(注3, 5) 88.9 /	(注5) 4.8 /
								(差し込み部の内径) 61.1	(注3) 6.0 (5.5)		
									6.0		

□ : 検査対象範囲



73

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注67) B充てん／高圧 注入ポンプ 冷却ライン出口 レジューサ (2×1 1/2) 及び B充てん／高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン出口 レジューサ (2 1/2×2) ~ B充てん／高圧 注入ポンプ 出口配管合流点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)	
								1.2	95	61.1	6.0
									61.1	6.0	
									61.1	6.0	
									61.1	6.0	

□ : 検査対象範囲

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注67) B充てん／高压 注入ポンプ 冷却ライン出口 レジューサ (2×1 1/2) 及び B充てん／高压 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン出口 レジューサ (2 1/2×2) ~ B充てん／高压 注入ポンプ 出口配管合流点						原子炉補機冷却設備 変更なし			(注3, 5)	(注5)		
											(最小)	
											6.0	
											(差し込み	/
											部の内径)	(最小)
											61.1	6.0
											/	/
											(差し込み	-
											部の内径)	(注3)
											61.1	(6.0
									/	/		
									-	6.0		
									/	/		
									-	-		
											(注5)	
											ASTM	
											A105	
											Gr II	
											(S25C	
											相当)	

74

: 検査対象範囲

75

変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料		
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				(MPa)	(°C)
<small>(注67)</small> C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン出口 レジューサ (2×1 1/2) 及び C充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン出口 レジューサ (2 1/2×2) ~ C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点	<small>(注2)</small>	95	<small>(注3)</small>	<small>(注3)</small>	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		
	0.98	95	60.3	3.9	STPG42		変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	
													<small>(注3)</small> 60.3 <small>(注3)</small> 3.9 STPT370
													<small>(注3, 5, 6)</small> (差し込み 部の内径) <small>(注5, 6)</small> (最小) ASTM A105 Gr II <small>(注3)</small> (S25C (6.0) 相当)
							<small>(注4)</small> 0.98	<small>(注4)</small> 95				<small>(注3)</small> 60.3 / - / <small>(注3)</small> 60.5 / - / 3.9 / - / STPT370	

□ : 検査対象範囲

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注67) C充てん／高压 注入ポンプ 冷却ライン出口 レジューサ (2×1 1/2) 及び C充てん／高压 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン出口 レジューサ (2 1/2×2) ~ C充てん／高压 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4)	(注4)	(注3,5)	(注5)		
								0.98	95	61.1	6.0	(注5)
										61.1	6.0	ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
									61.1	6.0		

76

□ : 検査対象範囲

97

変更前					変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
(注67) C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却ライン出口 レジューサ (2×1 1/2) 及び C充てん/高圧 注入ポンプ 油冷却器 冷却ライン出口 レジューサ (2 1/2×2) ~ C充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点						原子炉補機冷却設備 変更なし						
										(注3, 5)	(注5)	
											(最小)	
									(差し込み	6.0		
									部の内径)	(最小)	(注5)	
							(注4)	(注4)	61.1	6.0	ASTM	
							0.98	95	/	/	A105	
									(差し込み	-	Gr II	
									部の内径)	(注3)	(S25C	
									61.1	(6.0	相当)	
									/	/		
									-	6.0		
									/	/		
									-	-		

□ : 検査対象範囲

78

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(注68) 原子炉補機冷却設備 B充てん/高圧 注入ポンプ 出口配管合流点 ~ B充てん/高圧 注入ポンプ 冷却水出口配管 分岐点	(注2) 0.98	95	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし (注4) 1.2	変更なし	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPT370
							(注4) 1.2	(注4) 95	(注3,5) 88.9	(注3,5) 5.5	(注5) STPT42
					(注3) 88.9	(注3) 5.5	(注3) 88.9	(注3) 5.5	(注3) 88.9	(注3) 5.5	STPT370
					(注3) 88.9	(注3) 5.5	(注3) 60.5	(注3) 3.9			

□ : 検査対象範囲

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						原子炉補機冷却設備 窒素ポンペ ホース接続口 ~ 1次系冷却水 タンク	(注4) 0.34	(注4) 95	(注3,5)	(注3,5)	(注5)
					27.2				2.9	STPT38	
					(注3)				(注3,50)		
					27.2				2.9	STPT370	
					(注3,5)				(注3,5,50)	(注5)	
					89.1	5.5	STPT38				
					(注3,5)	(注5,50)	(注5)				
					(差し込み部の内径)	(最小)					
					27.7	4.3	S25C				
					(注3)	(注3)					
					27.2	2.9					
					/	/					
					-	-	STPT370				
					/	/					
					27.2	2.9					

□ : 検査対象範囲

79

- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラA、B、C～ティ (20×20×16)」と記載
- (注2) SI単位に換算したものである。
- (注3) 公称値
- (注4) 重大事故等時における使用時の値
- (注5) 本設備は既存の設備である。
- (注6) エルボを示す。
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドA、B：ティ (20×20×16) ～レジューサ (20×14)」と記載
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドC：ティ (16×16×16) ～レジューサ (16×12)」と記載
- (注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドC：レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドA、B：内部スプレクーラ～レジューサ (20×14)」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッドA、B：レジューサ (20×14) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C入口ティ (20×20×16)」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ入口連絡管」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) 及びレジューサ (20×16) ～1次系冷却水クーラA、C及びB」と記載



- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クーラ (RH-2) A、B」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプA、B、Cへの分岐点」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプB、Cからの合流点～弁 (2-FCV-1241)」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプA、Bからの合流点～戻管 (8B) 合流点」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (2-5105A、B)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管A、B分岐点～燃料ピットクーラ」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラ～1次系機器冷却水戻母管A、B合流点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラ」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラ～1次系機器冷却水戻母管 (10B) 合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～レジャーサ (3×2)」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～計器用コンプレッサーパッケージIA-1A、IA-1B入口レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサーパッケージIA-1A、IA-1B出口レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジャーサ (3×2)」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (4×2)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジャーサ (2×1

1/2) 」と記載

(注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ入口レギュレーサ (1 1/2×1/2) 」と記載

(注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載

(注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レギュレーサ (1×1/2) 」と記載

(注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載

(注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レギュレーサ (2×1 1/2) 」と記載

(注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載

(注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レギュレーサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載

(注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (2×1 1/2) ～レギュレーサ (3×2) 」と記載

(注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レギュレーサ (12×10) 」と記載

(注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (12×10) ～レギュレーサ (10×6) 」と記載

(注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レギュレーサ (6×4) 」と記載

(注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (6×4) 及び分岐点～レギュレーサ (4×2) 」と記載

(注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載

(注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (4×2) ～レギュレーサ (6×4) 及び合流点」と記載

(注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A) 」と記載

(注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (10×6) ～レギュレーサ (12×10) 」と記載

(注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (12×10) ～レギュレーサ (12×8) 」と記載

(注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (12×8) ～レギュレーサ (12×8) 」と記載

82

- 83
- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×8) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～レジャーサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」と記載
- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～充てん／高圧注入ポンプ～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2 1/2×2) 充てん／高圧注入ポンプ～レジャーサ (2 1/2×2)」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) およびレジャーサ (2 1/2×2) ～充てん／高圧注入ポンプ出口合流点」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
- (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～海水母管分岐点及びレジャーサ (30×24)」と記載
- (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点及びレジャーサ (30×24) ～1次系冷却水クーラ」と記載
- (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～戻母管」と記載
- (注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋出口までの戻母管 (埋設部除く)」と記載
- (注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻母管分岐点～ラプチャディスク」と記載
- (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～連絡管レジャーサ (10×8)」と記載
- (注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載
- (注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジャーサ (12×8) 及び合流点」と記載
- (注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×8) ～海水戻母管」と記載
- (注80) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。

(注81) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。

(注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

工事計画本文（関原発第123号（平成30年5月24日認可））

変更前						変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	
原子炉補機冷却設備  1次系機器冷却水 母管分岐点 格納容器循環 冷暖房ユニット 行き ～ 弁(2MOV-5160A)	(注2) 0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備  変更なし	(注4) 1.2	(注4) 95	変更なし			
	(注4) 1.2		(注3,6) 323.9	(注3,6) 9.5	(注6) STPT42		変更なし	変更なし				
	(注4) 1.2	(注4) 95	(注3) 318.5	(注3) 10.3	STPT38							
			318.5	10.3								
弁(2MOV-5160A) ～ 格納容器貫通部 PEN#256	(注4) 1.2	(注4) 138	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	変更なし						

85

□ : 検査対象範囲

98

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
原子炉補機冷却設備	弁(2MOV-5160B)	0.98	95	(注3) 219.1	(注3) 8.2	原子炉補機冷却設備	(注4) 1.2	(注4) 161	変更なし		
	~ 弁(2MOV-5160B)	(注4) 1.2	(注4) 161				変更なし				
	下流 レジューサ (12×8)	(注4) 1.2	(注4) 161	(注3) 323.9 /	(注3) 9.5 /		STPG42	変更なし			
			219.1	8.2	STPT42						

□ : 検査対象範囲

87

変更前						変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	
	圧力	温度					圧力	温度				
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
原子炉補機冷却設備 弁(2MOV-5160B) 下流 レギュレーサ (12×8) ～ 1次系機器冷却水 母管合流点 格納容器循環 冷暖房ユニット 戻り	0.98	95	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPG42	原子炉補機冷却設備 変更なし	(注4) 0.98	(注4) 161	変更なし			
		(注4) 161	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPT370		変更なし					
		(注4) 0.98	(注4) 161	(注3,6) 323.9	(注3,6) 9.5		STPT370	変更なし				
		(注4) 0.98	(注4) 95	(注3) 323.9	(注3) 9.5		STPG42	(注4) 1.2	(注4) 161	変更なし		
		(注4) 1.2	(注4) 161	(注3) 323.9	(注3) 9.5		STPT370	変更なし				
		(注4) 1.2	(注4) 161	(注3,6) 323.9	(注3,6) 9.5		STPT42	変更なし				
	(注4) 1.2	(注4) 161	(注3) 323.9	(注3) 9.5	STPT370	変更なし						
			318.5	10.3								
			323.9	9.5								

□ : 検査対象範囲

- (注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジューサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジューサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～レジューサ (3×2)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (12×10)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×10) ～レジューサ (10×6)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジューサ (6×4)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) 及び分岐点～レジューサ (4×2)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～レジューサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (10×6) ～レジューサ (12×10)」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×10) ～レジューサ (12×8)」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん/高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん/高圧注入ポンプ入口分岐点～レジューサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」



と記載

- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～充てん／高圧注入ポンプ～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2 1/2×2) 充てん／高圧注入ポンプ～レジャーサ (2 1/2×2)」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) およびレジャーサ (2 1/2×2) ～充てん／高圧注入ポンプ出口合流点」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
- (注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載
- (注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジャーサ (12×8) 及び合流点」と記載
- (注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×8) ～海水戻母管」と記載
- (注80) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。
- (注81) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。
- (注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載
- (注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。
- (注84) SS41同等材 (SS400) への取替えを行う。
- (注85) 注記について記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書に記載の「重大事故等時における使用時の値」を削除
- (注86) 記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書には変更後に記載

89/E

関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機  
使用前検査成績書

要領書番号 : 原規規収第1610072号99

成績書管理番号 : 1-05-1

令和2年8月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-05-1

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和2年8月25日  
至 令和2年8月25日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録



## 検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	
	関原発第321号 (平成28年10月7日)
	関原発第435号 (平成30年3月20日)
	関原発第 47号 (平成30年4月20日)
	関原発第203号 (平成30年7月4日)
	関原発第260号 (平成30年8月20日)
	関原発第416号 (平成30年12月5日)
	関原発第505号 (平成31年2月1日)
	関原発第513号 (平成31年2月6日)
	関原発第 4号 (平成31年4月4日)
	関原発第 69号 (2019年5月16日)
	関原発第116号 (2019年6月24日)
	関原発第205号 (2019年8月23日)
	関原発第511号 (2020年1月31日)
	関原発第543号 (2020年2月26日)
	関原発第618号 (2020年3月24日)
	関原発第 23号 (2020年4月 7日)

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-05-1

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和2年 8月25日	良	原子力検査官 須貝実 	ホウロウ-タ-セ  主任技術者	なし

ω

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-05-1

検査年月日：令和2年 8 月 25 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05-1

検査年月日：令和2年 8月 25日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05-1

検査年月日：令和2年 8月 25日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 原子炉補機冷却設備 主配管（常設） 別添1及び別添2参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px;">記録確認</span>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0503 <del>・目視で確認した範囲：</del>			



# 設 備 概 要

## 原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては、次の事項）

### 9 原子炉補機冷却設備に係る次の事項

(8) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

(工事の計画の認可 平成 28 年 6 月 10 日認可)

変 更 前						変 更 後							
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料		
	圧 力	温 度					圧 力	温 度					
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
(注71) (A) 中間建屋入口 A、B系 ~ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	(注2)	40	(注3)	(注3)	SS41	原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし	変更なし	変更なし			} P-1, 2	
	0.7		762	12			(注4)	1.2		(注3)	(注3)		SM400B
								(注4)	1.2	(注4)	(注3, 5)	(注3, 5)	
										40			(注5)
									762.0	12.7			
									762.0	12.7	SS41		
									762.0	12.7			

7

(令和2年8月25日)

別添1-1

変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
(注72) 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24) ~ 1次系冷却水 クーラ A、B、C	(注2)		(注3)	(注3)		原子炉補機冷却設備 変更なし	変更なし						
	0.7	40	609.6	12	SS41		(注3) (注3) 609.6 12.0 SM400B						
	—						(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	0.7 40 609.6 12.7 SS41	
	(注2)		(注3)	(注3)			変更なし						
	0.7	40	609.6	12	SS41	(注4) 変更なし 1.2 (注3) (注3) 609.6 12.0 SM400B							
—					(注4)	(注4)	(注3, 5, 6)	(注3, 5, 6)	(注5, 6)	1.2 40 609.6 12.7 SS41			

 P-1, 2, 3, 4  
 5, 6, 7, 8

- 6
- (注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラA、B、C～ティ (20×20×16)」と記載
  - (注2) SI単位に換算したものである。
  - (注3) 公称値
  - (注4) 重大事故等時における使用時の値
  - (注5) 本設備は既存の設備である。
  - (注6) エルボを示す。
  - (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ出口連絡管」と記載
  - (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：ティ (20×20×16) ～レジューサ (20×14)」と記載
  - (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (20×14) ～内部スプレクーラ」と記載
  - (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：ティ (16×16×16) ～レジューサ (16×12)」と記載
  - (注11) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。
  - (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダC：レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
  - (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：内部スプレクーラ～レジューサ (20×14)」と記載
  - (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ヘッダA、B：レジューサ (20×14) ～ティ (20×20×16)」と記載
  - (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ入口連絡管」と記載
  - (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) ～1次系冷却水ポンプA、B、C、D」と記載
  - (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口レジューサ (16×12) ～ティ (20×20×16)」と記載
  - (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプ出口連絡管」と記載
  - (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水ポンプA、D出口ティ (20×20×16) ～1次系冷却水クーラA、C入口ティ (20×20×16)」と記載
  - (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ入口連絡管」と記載
  - (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ティ (20×20×16) 及びレジューサ (20×16) ～1次系冷却水クーラA、C及びB」と記載

- 10
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～余熱除去クーラ (RH-2) A、B」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ (RH-2) A、B～戻母管合流点」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「母管分岐点～冷却材ポンプA、B、Cへの分岐点」と記載
- (注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプB、Cからの合流点～弁 (2-FCV-1241)」と記載
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプA、Bからの合流点～戻管 (8B) 合流点」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次冷却水ポンプ入口分岐点～弁 (2-5105A、B)」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-5105A、B) ～1次系冷却水タンク」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管A、B分岐点～燃料ピットクーラ」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料ピットクーラ～1次系機器冷却水戻母管A、B合流点」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余剰抽出水クーラ」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余剰抽出水クーラ～1次系機器冷却水戻母管 (10B) 合流点」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管～レジューサ (3×2)」と記載
- (注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～計器用コンプレッサーパッケージIA-1A、IA-1B入口レジューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用コンプレッサーパッケージIA-1A、IA-1B出口レジューサ (2×1 1/2) ～レジューサ (3×2)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ室空調装置入口レジューサ (3×2)」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (4×2)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよびスプレポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～レジューサ (2×1

1/2) 」と記載

(注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ冷却ライン分岐点～余熱除去ポンプ入口レジューサ (1 1/2×1/2) 」と記載

(注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載

(注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジューサ (1×1/2) 」と記載

(注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載

(注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジューサ (2×1 1/2) 」と記載

(注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載

(注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジューサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載

(注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～レジューサ (3×2) 」と記載

(注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジューサ (12×10) 」と記載

(注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×10) ～レジューサ (10×6) 」と記載

(注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジューサ (6×4) 」と記載

(注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) 及び分岐点～レジューサ (4×2) 」と記載

(注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載

(注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (4×2) ～レジューサ (6×4) 及び合流点」と記載

(注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A) 」と記載

(注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (10×6) ～レジューサ (12×10) 」と記載

(注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×10) ～レジューサ (12×8) 」と記載

(注61) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～レジューサ (12×8) 」と記載

- (注62) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～1次系機器冷却水戻母管合流点」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～レジューサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」と記載
- (注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) ～充てん／高圧注入ポンプ～レジューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2 1/2×2) 充てん／高圧注入ポンプ～レジューサ (2 1/2×2)」と記載
- (注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1 1/2) およびレジューサ (2 1/2×2) ～充てん／高圧注入ポンプ出口合流点」と記載
- (注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」と記載
- (注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載
- (注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載
- (注71) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋入口～海水母管分岐点及びレジューサ (30×24)」と記載
- (注72) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点及びレジューサ (30×24) ～1次系冷却水クーラ」と記載
- (注73) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系冷却水クーラ～戻母管」と記載
- (注74) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「中間建屋出口までの戻母管 (埋設部除く)」と記載
- (注75) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「戻母管分岐点～ラプチャディスク」と記載
- (注76) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水母管分岐点～連絡管レジューサ (10×8)」と記載
- (注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載
- (注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジューサ (12×8) 及び合流点」と記載
- (注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (12×8) ～海水戻母管」と記載
- (注80) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。

(注81) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。

(注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(A) 原子炉補機冷却設備 中間建屋入口 A、B系 ~ 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24)	0.7	40	(注3, 84) 762	(注3, 84) 12	(注84) SS400	} P-1, 2  原子炉補機冷却設備  変更なし					
	(注4) 1.2		(注3) 762.0	(注3) 12.7	SM400B						
	(注4) 1.2	(注4) 40	(注3, 84) 762.0	(注3, 84) 12.7	(注84) SS400						
			／	／							

14

: 検査対象範囲



15

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
(B) 海水供給母管 分岐点 及び 1次系 冷却水クーラ A、C入口ライン レジューサ (30×24) ~ 1次系冷却水 クーラ A、B、C	0.7	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)	原子炉補機冷却設備 } P-1, 2, 3, 4 5, 6, 7, 8	変更なし				
			609.6	12	SS400						
	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)						
	609.6	12.0	SM400B								
	(注4)	(注4)	(注3, 6, 84)	(注3, 6, 84)	(注6, 84)						
	0.7	40	609.6	12.7	SS400						
1.2	40	(注3, 84)	(注3, 84)	(注84)							
		609.6	12	SS400							
(注4)	(注4)	(注3)	(注3)	(注3)							
609.6	12.0	SM400B									
(注4)	(注4)	(注3, 6, 84)	(注3, 6, 84)	(注6, 84)							
1.2	40	609.6	12.7	SS400							

: 検査対象範囲

(令和2年8月25日)  
別添1-9

- (注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～内部スプレポンプ入口分岐点」と記載
- (注45) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ入口分岐点～レジャーサ (1×1/2)」と記載
- (注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (1×1/2) ～内部スプレポンプ出口合流点」と記載
- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口合流点～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ出入口管」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ出口レジャーサ (1 1/2×1/2) ～余熱除去ポンプおよび内部スプレポンプ冷却もどりライン合流点」と記載
- (注50) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～レジャーサ (3×2)」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次系機器冷却水母管分岐点～レジャーサ (12×10)」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×10) ～レジャーサ (10×6)」と記載
- (注54) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～レジャーサ (6×4)」と記載
- (注55) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) 及び分岐点～レジャーサ (4×2)」と記載
- (注56) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) および分岐点～格納容器循環空調装置」と記載
- (注57) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (4×2) ～レジャーサ (6×4) 及び合流点」と記載
- (注58) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (6×4) ～VS-39Bからの合流点 (VS-39A)」と記載
- (注59) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (10×6) ～レジャーサ (12×10)」と記載
- (注60) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×10) ～レジャーサ (12×8)」と記載
- (注63) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ室空調装置冷却ライン分岐点～充てん／高圧注入ポンプ分岐点」と記載
- (注64) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ入口分岐点～レジャーサ (2×1 1/2) および (2 1/2×2)」

と記載

(注65) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) ～充てん／高圧注入ポンプ～レジャーサ (2×1 1/2)」と記載

(注66) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2 1/2×2) 充てん／高圧注入ポンプ～レジャーサ (2 1/2×2)」と記載

(注67) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (2×1 1/2) およびレジャーサ (2 1/2×2) ～充てん／高圧注入ポンプ出口合流点」と記載

(注68) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口合流点～充てんポンプ室空調装置冷却戻ライン合流点」と記載

(注69) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ポンプから中間建屋入口まで」と記載

(注70) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SS41」と記載

(注77) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「連絡管分岐点～ディーゼル発電機」と記載

(注78) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ディーゼル発電機～レジャーサ (12×8) 及び合流点」と記載

(注79) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (12×8) ～海水戻母管」と記載

(注80) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。

(注81) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。

(注82) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注83) 本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

(注84) SS41同等材 (SS400) への取替えを行う。

(注85) 注記について記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書に記載の「重大事故等時における使用時の値」を削除

(注86) 記載の適正化を行う。平成28年6月10日付け原規規発第1606105号にて認可された既工事計画書には変更後に記載



関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機  
使用前検査成績書

要領書番号 : 原規規収第1610072号99  
成績書管理番号 : 1-05-2

令和4年3月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-05-2

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和4年3月10日  
至 令和4年3月10日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録


## 検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	
	関原発第321号(平成28年10月7日)
	関原発第435号(平成30年3月20日)
	関原発第47号(平成30年4月20日)
	関原発第203号(平成30年7月4日)
	関原発第260号(平成30年8月20日)
	関原発第416号(平成30年12月5日)
	関原発第505号(平成31年2月1日)
	関原発第513号(平成31年2月6日)
	関原発第4号(平成31年4月4日)
	関原発第69号(2019年5月16日)
	関原発第116号(2019年6月24日)
	関原発第205号(2019年8月23日)
	関原発第511号(2020年1月31日)
	関原発第543号(2020年2月26日)
	関原発第618号(2020年3月24日)
	関原発第23号(2020年4月7日)
	関原発第23号(2021年4月30日)
	関原発第293号(2021年8月2日)
	関原発第562号(2022年2月28日)

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和4年 3月10日	良	種市 隆人 北村 博史	ホウラ タセツ主任技術者 	なし



関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日：令和4年3月10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	良・一	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日：令和4年 3月 10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・一	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・一	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-05-2

検査年月日：令和4年 3月 10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉冷却系統施設 一次冷却材の循環設備 主蒸気・主給水設備 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 化学体積制御設備 主配管 計測制御系統施設 ほう酸注入機能を有する設備 主配管      別添1、2参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外観検査</li> <li>・組立て及び据付け状態を確認する検査</li> <li>・耐圧検査</li> <li>・漏えい検査</li> </ul>	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">記録確認</span>
<b>備考</b> ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0213 <del>・目視で確認した範囲、添付資料3-3参照</del>			

## 設 備 概 要

工事計画本文（原規規発第1606105号（平成28年6月10日認可））

### 原子炉冷却系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（蒸気タービンに係るものを除く。）にあつては次の事項

#### 4 一次冷却材の循環設備に係る次の事項

（7）主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

8

変更前						変更後							
名	称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名	称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
		圧 力	温 度						圧 力	温 度			
		(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)				(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
一次冷却材の循環設備	クロスオーバーレグ	蒸気発生器 出口 40° エルボ	(注2) 17.16	343	(注3) 961.4	(注10) ASME SA351 Gr. CF8M (87) (SCS14 相当)	(注5)	蒸気発生器 出口 40° エルボ	変更なし (注6) 18.5	変更なし (注6) 360	変更なし		
		蒸気発生器 出口 40° エルボ ～ 蒸気発生器 出口 90° エルボ	(注2) 17.16	343	(注3) 943	(注10) ASME SA351 Gr. CF8M (77.8) (SCS14 相当)	(注5)	蒸気発生器 出口 40° エルボ ～ 蒸気発生器 出口 90° エルボ	変更なし (注6) 18.5	変更なし (注6) 360	変更なし		
		蒸気発生器 出口 90° エルボ	(注2) 17.16	343	(注3) 961.4	(注10) ASME SA351 Gr. CF8M (87) (SCS14 相当)	(注5)	蒸気発生器 出口 90° エルボ	変更なし (注6) 18.5	変更なし (注6) 360	変更なし		

別添1(2/23)  
令和4年3月10日

変更前						変更後					
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
一次冷却材の循環設備	(注29, 42)		(注3)	(注3, 25)	SUS316TP	一次冷却材の循環設備	(注5)				
	弁(2V-8378B)		89.1	11.1			弁(2V-8378B)	変更なし	変更なし		
	~		(注3)	(注3)	~		変更なし	変更なし			
	3B	17.16	343	89.1	11.1		3B	(注6)	(注6)	変更なし	
化学体積			/	/	SUS316TP	化学体積	18.5	360			
制御系			/	/		制御系					
ライン用管台			/	/		ライン用管台					
			-	-							

6

変更前						変更後										
名	称	最高使用	最高使用	外	径厚	さ材	料	名	称	最高使用	最高使用	外	径厚	さ材	料	
		圧	温							圧	温					力
		(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)					(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			
一次冷却材の循環設備	余熱除去ポンプ入口ライン 12B 余熱除去 ライン用管台 ～ 弁 (2MOV-8702 A、B)	(注30)		(注3)	(注3, 21)			一次冷却材の循環設備	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
		(注2)	17.16	343	323.9	33.3	SUS32TP			(注6)	18.5					
		(注3)		(注3)	(注3, 21)	(注31)										

10

変更前						変更後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
一次冷却材の循環設備	(注40)					一次冷却材の循環設備	(注5)				
弁 (2V-8945A、B、C) ～ 6B 安全注入系 ライン用管台	17.16	343	(注3) 168.3	(注3, 25) 18.3	SUS316TP	弁 (2V-8945A、B、C) ～ 6B 安全注入系 ライン用管台	変更なし (注6) 18.5	変更なし (注6) 360	変更なし		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「原子炉容器出口管台から蒸気発生器入口50°エルボまで」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年4月19日付け48公第176号にて認可された工事計画の添付資料7「主冷却材管強度計算書（通産省告示第501号による計算）」による。

(注5) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用

(注6) 重大事故等時における使用時の値

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「961.4 901.6」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「69 71.1 (87 82.5)」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「蒸気発生器入口50°径違いエルボから蒸気発生器入口管台まで」と記載

(注10) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。



- (注11) ループAに設置
- (注12) ループA、Bに設置
- (注13) ループA、B、Cに設置
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「蒸気発生器出口40°エルボから90°エルボまで」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「蒸気発生器出口90°エルボから冷却材ポンプ吸込口90°エルボまで」と記載
- (注16) ループCに設置
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「冷却材ポンプ吐出口から原子炉容器入口32°エルボまで」と記載
- (注18) ループBに設置
- (注19) 設計確認値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「加圧器～安全弁(2-8010A、B、C)」と記載
- (注21) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「加圧器～弁(2-8000A、B)入口レギュレーサ(6×3)」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8000A、B)入口レギュレーサ(6×3)～弁(2-PCV444A、2-PCV445)」と記載
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次冷却材管ループA、B分岐点～加圧器」と記載
- (注25) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「主冷却材管ループC～弁(2-LCV460)」と記載
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「89.1/89.1/60.5」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「11.1/11.1/8.7」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8378B)～主冷却材管ループB」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「主冷却材管ループA、B～弁(2-8702A、B)」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS32TP」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8940A、B、C)～主冷却材管ループA、B、C高温側」と記載

(注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「主冷却材管ループA～弁 (2-8082、2-8057A)」と記載

(注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「60.5/60.5/34.0」と記載

(注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「8.7/8.7/6.4」と記載

(注36) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

(注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8082) ～弁 (2-8154)」と記載

(注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8377) ～加圧器スプレライン合流点」と記載

(注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8948A、B、C) ～主冷却材管ループA、B、C低温側」と記載

(注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8945A、B、C) ～主冷却材管ループA、B、C低温側」と記載

(注41) 記載内容は、既工事計画届出書 (平成23年7月28日付け関原発第204号工事計画届出書) による。なお、本工事計画は、届出した工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。

(注42) 記載内容は、既工事計画認可申請書 (平成23年8月1日付け関原発203号工事計画認可申請書、平成23年8月15日付け平成23・08・01原第6号にて認可) による。なお、本工事計画は、認可された工事計画に対して基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。

(注43) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注44) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「1次冷却材管ループ高温側～加圧器」と記載

(注45) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年2月19日付け47公第11429号にて認可された工事計画の添付資料12「配管強度計算書」による。

5 主蒸気・主給水設備に係る次の事項

(3) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

(3) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
<small>(注1)</small> 弁(2FW-562 A、B、C) ~ 補助給水管 合流点	<small>(注2)</small> 7.48	230	<small>(注3)</small> 114.3	<small>(注3, 4)</small> 8.6	<small>(注5)</small> STPT410	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
			<small>(注3)</small> 114.3	<small>(注3)</small> 11.1	<small>(注5)</small> STPT410		<small>(注6)</small> 8.0	<small>(注6)</small> 351			
<small>(注7)</small> 弁(2FW-520 A、B、C) ~ 補助給水管 合流点	<small>(注2)</small> 7.48	230	<small>(注3)</small> 406.4	<small>(注3, 4)</small> 21.4	<small>(注8)</small> STPT480	変更なし					

主蒸気・主給水設備

主蒸気・主給水設備

15

16

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
<small>(注15)</small> 格納容器貫通部 PEN#225、251、 352 ~ 主蒸気配管 分岐点 弁(2MS-527 A、B、C)行き <small>(注15)</small> 主蒸気配管 分岐点 弁(2MS-527 A、B、C)行き ~ 弁(2MS-537 A、B、C)	<small>(注2)</small> 7.48	291	<small>(注3)</small> 762	<small>(注3, 4)</small> 33	SB42	変更なし <small>(注6)</small> 8.0	<small>(注6)</small> 351	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
			<small>(注3, 19)</small> 762	<small>(注3, 9, 19)</small> 33	<small>(注19)</small> SB410						
<small>(注15)</small> 主蒸気配管 分岐点 弁(2MS-527 A、B、C)行き ~ 弁(2MS-537 A、B、C)	<small>(注2)</small> 7.48	291	<small>(注3)</small> 762	<small>(注3, 4)</small> 33	SB42	変更なし					

主蒸気・主給水設備

主蒸気・主給水設備

17

変 更 前						変 更 後					
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料
	圧 力	温 度					圧 力	温 度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
主蒸気・主給水設備	(注13)					主蒸気・主給水設備					
主蒸気配管 分岐点 弁(2MS-520 A、B、C)行き ～ 弁(2MS-520 A、B、C)	7.48	291	(注3) 220	(注3) 36.8	SF50	変更なし	変更なし (注6) 8.0	変更なし (注6) 351	変更なし	変更なし	変更なし

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-FW-562A、B、C)～主給水管との合流点」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

(注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPT42」と記載

(注6) 重大事故等時における使用時の値

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-FW-520A、B、C)～外部しゃへい壁」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPT49」と記載

(注9) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

別添1(11/23)  
令和4年3月10日

- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「外部しゃへい壁～蒸気発生器A、B、C」と記載
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「蒸気発生器A、B、C～蒸気発生器出口レギュレーサ (32×30) まで」と記載
- (注12) エルボを示す。
- (注13) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ (32×30) ～外部しゃへい壁」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器外部しゃへい壁～主蒸気管集合管」と記載
- (注16) 本設備は記載の適正化のみ行うものであり、手続き対象外である。
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「主蒸気管分岐点～タービン動補助給水ポンプ」と記載
- (注18) STPT49同等材 (STPT480) への取替えを行う。
- (注19) SB42同等材 (SB410) への取替えを行う。
- (注20) STPT38同等材 (STPT370) への取替えを行う。

7 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設



20

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
<small>(注52)</small> アキュムレータ A、B、C ~ 弁(2MOV-8808 A、B、C)	<small>(注2)</small> 4.9	150	<small>(注3)</small> 323.9	<small>(注3)</small> 9.5	SUS32TP	変更なし					
			<small>(注3,7)</small> 323.9	<small>(注3,7)</small> 17.5	<small>(注7)</small> SUS32TP						
			<small>(注3,7,25)</small> 323.9	<small>(注3,7,25)</small> 17.4	<small>(注7,25)</small> SUS32TP						
<small>(注53)</small> 弁(2MOV-8808 A、B、C) ~ 弁(2V-8956 A、B、C)	17.16	343	<small>(注3)</small> 323.9	<small>(注3,4)</small> 33.3	SUS32TP	変更なし					
<small>(注53)</small> 弁(2V-8956 A、B、C) ~ 弁(2V-8948 A、B、C)	17.16	343	<small>(注3)</small> 323.9	<small>(注3,4)</small> 33.3	SUS32TP	変更なし	変更なし	変更なし			変更なし
			<small>(注3)</small> 323.9	<small>(注3,8)</small> 33.3	SUS316TP		<small>(注15)</small> 18.5	<small>(注15)</small> 360			

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備

21

変更前					変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
					(注56) 非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	(注15) 0	(注15) 40	(注3) 165.2	(注3) 7.1	SUS304TP
						(注15) 1.3	(注15) 40	(注3) 89.1	(注3) 5.5	SUS304TP
								(注3) 165.2	(注3,8) 7.1	SUS304TP
								(注3) 165.2	(注3) 7.1	SUS304TP
								—	—	
							(注3) 89.1	(注3) 5.5		

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-6400A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。

(注5) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）及びその他発電用原子炉の附属施設（火災防護設

別添1 (15/23)  
令和4年3月10日

備)のうち消火設備と兼用

(注6) 重大事故等時に使用

(注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注8) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～弁 (2-8926)」と記載

(注10) 計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用

(注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載

(注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8926) ～弁 (2-LCV-115B、D)」と記載

(注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプ～弁 (2-8811A、B)」と記載

(注14) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書の「原子炉格納容器」の「原子炉格納容器本体」による。

(注15) 重大事故等時における使用時の値

(注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8811A、B) ～弁 (2-8812A、B)」と記載

(注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「燃料取換用水タンク～逆止弁 (2-8958)」と記載

(注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8958) ～弁 (2-8809A、B)」と記載

(注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去ポンプ入口母管～弁 (2-5400)」と記載

(注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8803A、B) および弁 (2-8816) (2-FE943取付部を除く)」と記載

(注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てん／高圧注入ポンプ出口集合母管～弁 (2-8815) 及び弁 (2-8814) (2-FE940取付部を除く)」と記載

(注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8815) ～分岐点」と記載

(注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁 (2-8942A、B、C)」と記載

(注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁 (2-8942A、B、C) ～余除去クーラ出口合流点」と記載

(注25) エルボを示す。

(注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2-FE943および2-FE940取付部（レジューサ4×3～レジューサ4×3）」と記載

(注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8803A、B）～レジューサ（6×3）」と記載

(注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ（6×3）～ほう酸注入タンク」と記載

(注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「ほう酸注入タンク出口レジューサ（6×3）～弁（2-8801A、B）」と記載

(注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8801A、B）～分岐点」と記載

(注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8944A、B、C）」と記載

(注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8944A、B、C）～主冷却材管ループ低温側注入ライン合流点」と記載

(注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5」と記載

(注34) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／－／（最小）9.5」と記載

(注35) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8816）～分岐点」と記載

(注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8937A、B、C）」と記載

(注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8814）～分岐点」と記載

(注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8939A、B、C）」と記載

(注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8937C）及び弁（2-8939C）～弁（2-8940C）」と記載

(注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「（最小）9.5／（最小）9.5／（最小）9.5」と記載

(注42) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「逆止弁（2-8937A、B）及び逆止弁（2-8939A、B）～余熱除去クーラ出口合流点」と記載

(注43) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8973A、B、C）～弁（2-8945A、B、C）」と記載

(注44) 余熱除去設備と兼用

(注45) 余熱除去設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用

(注46) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「余熱除去クーラ出口ラインと非常用炉心冷却設備との取合点～弁（2-8818A、B）及び弁（2-8819）」と記載

- (注47) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8818A、B）～逆止弁（2-8971A、B）を経てコールドレググループB注入ラインへの分岐点」と記載
- (注48) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「コールドレググループB注入ラインへの分岐点～逆止弁（2-8973A、B、C）」と記載
- (注49) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8819）～分岐点」と記載
- (注50) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「分岐点～逆止弁（2-8935A、B）」と記載
- (注51) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8935A、B）～弁（2-8940A、B）」と記載
- (注52) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「アキュムレータA、B、C～弁（2-8808A、B、C）」と記載
- (注53) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-8808A、B、C）～逆止弁（2-8948A、B、C）」と記載
- (注54) 本設備は既存の設備である。
- (注55) 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用
- (注56) 蒸気タービンの附属設備及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備（格納容器安全設備）と兼用

8 化学体積制御設備に係る次の事項

(7) 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

変更前						変更後							
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度				(MPa)	(°C)
化学体積制御設備 (注19)	17.16	343	(注3)	(注3)	SUS27TP	化学体積制御設備 (注5)	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし		
			88.9	11.1									
			(注3)	(注3,4)	SUS316TP								
			89.1	11.1									
弁(2V-8378A) ～ 弁(2V-8378B)			(注3)	(注3)			(注17)	(注17)					
			89.1	11.1			18.5	360					
			89.1	11.1	SUS316TP								

27

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
化学体積制御設備 弁(2A0V-8145) ~ 弁(2V-8377)	17.16	343	(注6)	(注3) (最小)	ASTM A182 F304 (SUSF304 相当)	化学体積制御設備	変更なし				
			(差し込み部の内径) 61.1	(最小) 9.4							
			(差し込み部の内径) 61.1	(注3) (9.4)							

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ入口ライン集合母管」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。



- (注5) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備及び計測制御系統施設のうちほう酸注入機能を有する設備と兼用
- (注6) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8706A、B)～充てんポンプ入口ライン集合母管」と記載
- (注8) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備と兼用
- (注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-LCV-115B、D)～充てんポンプ入口ライン集合母管」と記載
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ入口ライン集合母管～充てんポンプA、B、C」と記載
- (注11) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプA、B、C出口レギュレーサ(4×3)～充てんポンプ出口ライン集合母管」と記載
- (注12) 重大事故等時に使用
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ出口ライン集合母管レギュレーサ(4×3)～レギュレーサ(4×3)」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レギュレーサ(4×3)～弁(2-8107)」と記載
- (注15) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS27TP」と記載
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8107)～抽出水再生クーラ入口」と記載
- (注17) 重大事故等時における使用時の値
- (注18) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「抽出水再生クーラ～弁(2-8146)」と記載
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8146)～弁(2-8378B)」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-LCV460)～抽出水再生クーラ～レギュレーサ(3×2)」と記載
- (注21) 本設備は記載の適正化のみ行うものであり、手続き対象外である。
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-8149A、B、C)～抽出水非再生クーラ」と記載
- (注23) エルボを示す。
- (注24) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 6.1」と記載
- (注25) 公称値は既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。
- (注26) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUSF304相当 (ASTM A182 F304)」と記載

- 29
- (注27) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 6.1 / (最小) 6.1 / (最小) 6.1」と記載
- (注28) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 6.1 / (最小) 6.1 / -」と記載
- (注29) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-LCV-115E) ~レジューサ (8×4)」と記載
- (注30) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (8×4) ~充てんポンプ入口ライン集合母管」と記載
- (注31) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんポンプ出口ライン集合母管分岐点~弁 (2-8105)」と記載
- (注32) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁 (2-8105) ~レジューサ (3×2)」と記載
- (注33) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ~封水注入フィルタA、B~レジューサ (3×2)」と記載
- (注34) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。
- (注35) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ~各冷却材ポンプへの分岐ラインレジューサ (3×2)」と記載
- (注36) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ~レジューサ (2×1)」と記載
- (注37) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1) ~弁 (2-8369A、B、C) ~レジューサ (2×1)」と記載
- (注38) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (2×1) ~レジューサ (2×1 1/2)」と記載
- (注39) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジューサ (3×2) ~封水フィルタ~封水クーラ~弁 (2-8484、2-8482)」と記載
- (注40) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「充てんラインからの分岐点~弁 (2-8145)」と記載
- (注41) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「(最小) 9.5」と記載
- (注42) SUS27TP同等材 (SUS304TP) への取替えを行う。
- (注43) 記載内容は、既工事計画認可申請書 (平成23年8月1日付け関原発第203号工事計画認可申請書、平成23年8月15日付け平成23・8・01原第6号にて認可) による。なお、本工事計画は、認可された工事計画に対して、基本設計方針の変更を行うことに伴い申請するものである。



工事計画認可申請	第3-1-4図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (一次冷却材の循環設備) (1/10)	
関西電力株式会社	

21



別添2 (2/11) 令和4年3月10日

工事計画認可申請	第3-1-5図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (一次冷却材の循環設備) (2/10)	
関西電力株式会社	

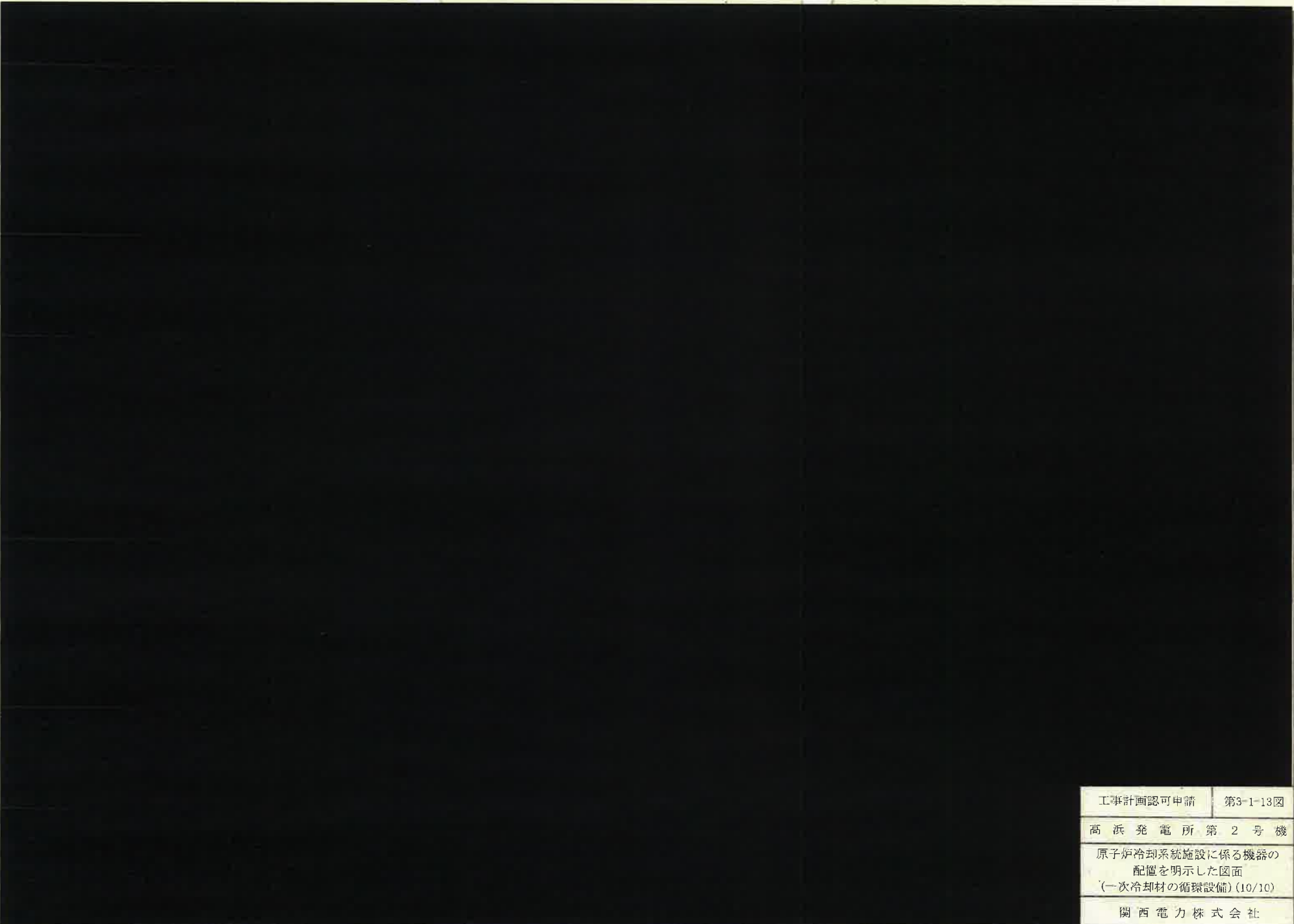
工事計画認可申請	第3-1-6図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (一次冷却材の循環設備)(3/10)	
関西電力株式会社	

33

別添2 (4/11) 令和4年3月10日

工事計画認可申請	第3-1-11図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (一次冷却材の循環設備)(8/10)	
関西電力株式会社	

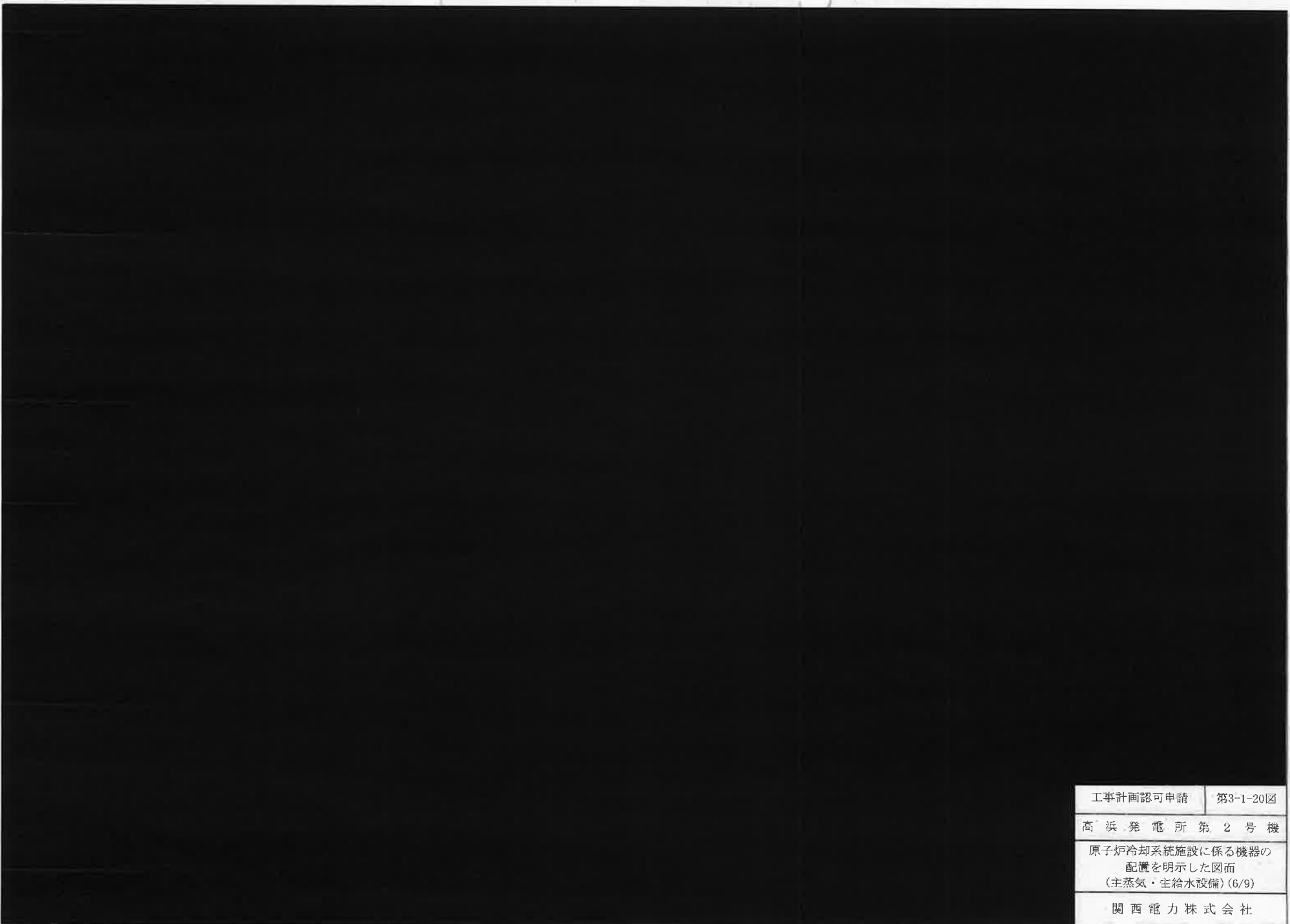
34



工事計画認可申請	第3-1-13図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (一次冷却材の循環設備)(10/10)	
関西電力株式会社	

別添2(5/11)令和4年3月10日

35



別添2 (6/11) 令和4年3月10日

工事計画認可申請	第3-1-20図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (主蒸気・主給水設備)(6/9)	
関西電力株式会社	



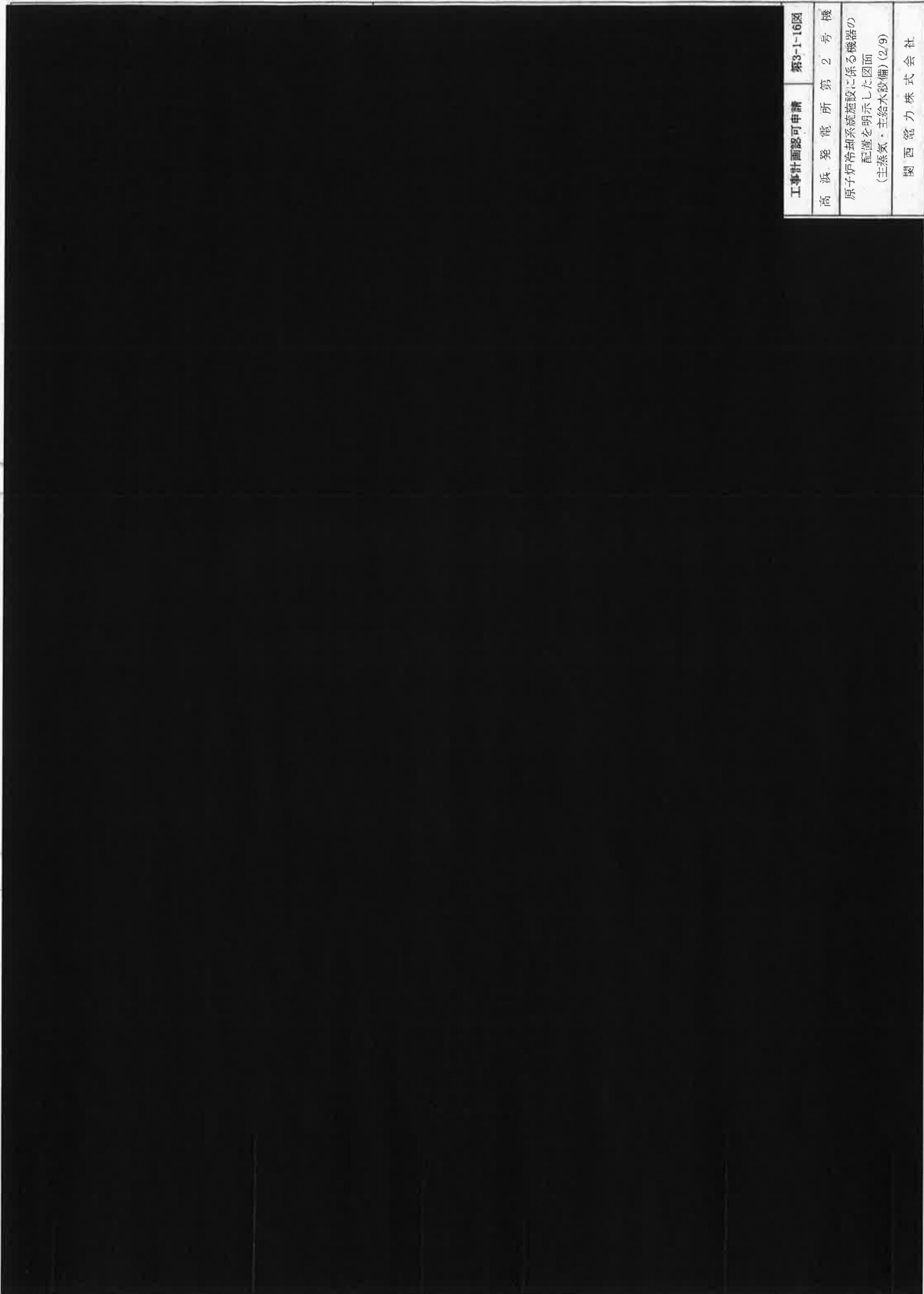
36



工事計画認可申請	第3-1-21図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (主蒸気・主給水設備)(7/9)	
関西電力株式会社	

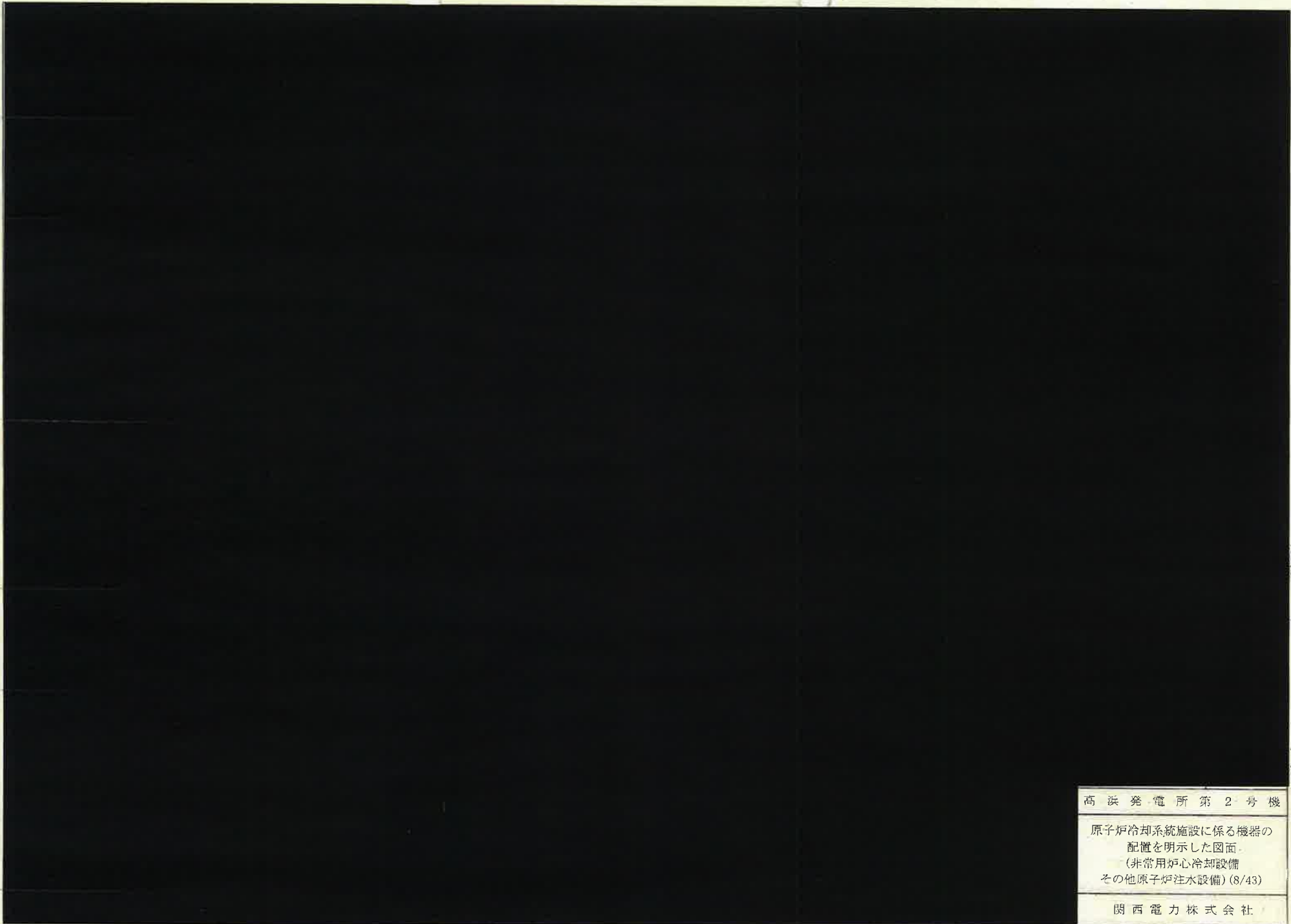
別添2 (7/11) 令和4年3月10日

工事計画認可申請	第3-1-22図
高 浜 発 電 所 第 2 号 機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (主蒸気・主給水設備) (S/9)	
関西電力株式会社	



工事計画認可申請	第3-1-16図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (主蒸気・主給水設備)(2/9)	
関西電力株式会社	

39



高 浜 発 電 所 第 2 号 機

原子炉冷却系統施設に係る機器の  
配置を明示した図面  
(非常用炉心冷却設備  
その他原子炉注水設備) (8/43)

関西電力株式会社

別添2 (10/11) 令和4年3月10日

40/E



工事計画認可申請	第3-1-91図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設に係る機器の 配置を明示した図面 (化学体積制御設備)(8/8)	
関西電力株式会社	

別添2(11/11)令和4年3月10日

関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機  
使用前検査成績書

要領書番号 : 原規規収第1610072号99

成績書管理番号 : 1-06

令和4年3月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-06

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和4年3月3日  
至 令和4年3月3日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録

## 検査申請一覧表


検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第321号(平成28年10月7日) 関原発第435号(平成30年3月20日) 関原発第 47号(平成30年4月20日) 関原発第203号(平成30年7月4日) 関原発第260号(平成30年8月20日) 関原発第416号(平成30年12月5日) 関原発第505号(平成31年2月1日) 関原発第513号(平成31年2月6日) 関原発第 4号(平成31年4月4日) 関原発第 69号(2019年5月16日) 関原発第116号(2019年6月24日) 関原発第205号(2019年8月23日) 関原発第511号(2020年1月31日) 関原発第543号(2020年2月26日) 関原発第618号(2020年3月24日) 関原発第 23号(2020年4月 7日) 関原発第 23号(2021年 4月30日) 関原発第293号(2021年 8月 2日) 関原発第562号(2022年 2月28日)
--------------------	--

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。



# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-06

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和 4 年 3 月 3 日	良	増本 豊 平川 圭司	ホツラ-夕-ビシ主任技術者 	なし

6

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-06

検査年月日：令和4年3月3日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-06

検査年月日：令和 4 年 3 月 3 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・☺	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-06

検査年月日：令和 4 年 3 月 3 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
計測制御系統施設 制御用空気設備 主配管 別添 1 参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">記録確認</span>
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※）による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0216 <del>・目視で確認した範囲：添付資料 3-3 参照</del>			

## 設 備 概 要

### 工事計画本文（原規規発第1606105号（平成28年6月10日認可））

#### 計測制御系統施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るもの（発電用原子炉の運転を管理するための制御装置に係るものを除く。）にあつては、次の事項

#### 9 制御用空気設備に係る次の事項

（5）主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

（次ページに続く）

変更前						変更後											
名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料	名 称	最高使用	最高使用	外 径	厚 さ	材 料						
	圧 力	温 度					圧 力	温 度				(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)		
制御用空気設備	(注12)	0.83	50	(注3)	(注3)	制御用空気設備	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし						
	弁(2V-6204A、B)			60.3	3.9							STPG42	(注3)	(注3)	34.0	3.4	STPT370
	~			60.3	3.9							STPG410	(注3)	(注3)	60.3	3.9	STPT370
	弁(2V-6269B、C)												(注3)	(注3)	60.3	3.9	STPT370
						(注5)	(注5)				変更なし						
							0.98	138				変更なし					

変更前						変更後							
名称		最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称		最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
制御用 空気設備	弁(2V-6204A、B)						制御用 空気設備	変更なし	(注5) 0.98	(注5) 138	(注3, 13) 34.0	(注3, 13) 3.4	(注13) STPT370
	~					(注3, 13) 60.3		(注3, 13) 3.9			(注13) STPT370		
	弁(2V-6269B、C)					(注3, 6, 13) 61.1		(注6, 13) 6.0			(注6, 13) Gr II		
						(注3) (6.0)		(注3) 相当					

6

10

変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
									(注3) 60.5 /	(注3) 3.9 /	STPT370
									34.0	3.4	
						制御用 空気設備	(注5) 0.98	(注5) 138	(注3,6) 61.1 /	(注6) (最小) 6.0 /	(注6) ASTM A105 Gr II (S25C 相当)
						弁(2V-6204A、B) ~ 弁(2V-6269B、C)			(差し込み 部の内径) 61.1 /	(最小) 6.0 /	
									(差し込み 部の内径) 61.1 /	(注3) (6.0) /	
									-	6.0 /	
										-)	



変更前					変更後						
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
—					制御用 空気 設備	弁(2V-6204A、B) ～ 弁(2V-6269B、C)	(注5) 0.98	(注5) 138	(注3) 60.5 / — / 60.5	(注3) 3.9 / — / 3.9	STPT370

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用空気乾燥器A、B出口の仕切弁～格納容器内逆止弁(2-6204A、B)」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「STPG42」と記載

(注5) 重大事故等時における使用時の値

(注6) 本設備は既存の設備である。

(注7) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用空気乾燥器A、B出口ライン分岐点～計器用補助空気そう」と記載

(注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用補助空気そうラインへの分岐点～主蒸気大気放出弁および補助給水用弁」と記載

(注9) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「計器用空気乾燥器A、B出口ライン分岐点～中間建屋および補助建屋」と記載

(注10) 当該ラインについては、主配管に該当しないため記載の適正化を行う。

(注11) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

(注12) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注13) エルボを示す。

(注14) STPG42同等材 (STPG410) への取替えを行う。

12/1

関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機  
使用前検査成績書

要領書番号 : 原規規収第 1610072 号 99

成績書管理番号 : 1-08

令和 4 年 3 月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-08

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和3年2月18日  
至 ~~令和3~~年~~11~~月~~9~~日  
令和4 3 10
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録


## 検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	関原発第321号 (平成28年10月7日) 関原発第435号 (平成30年3月20日) 関原発第 47号 (平成30年4月20日) 関原発第203号 (平成30年7月4日) 関原発第260号 (平成30年8月20日) 関原発第416号 (平成30年12月5日) 関原発第505号 (平成31年2月1日) 関原発第513号 (平成31年2月6日) 関原発第 4号 (平成31年4月4日) 関原発第 69号 (2019年5月16日) 関原発第116号 (2019年6月24日) 関原発第205号 (2019年8月23日) 関原発第511号 (2020年1月31日) 関原発第543号 (2020年2月26日) 関原発第618号 (2020年3月24日) 関原発第 23号 (2020年4月 7日) 関原発第 23号 (2021年4月30日) 関原発第293号 (2021年8月2日) 関原発第562号 (2022年2月28日)
--------------------	---

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日	検査結果	原子力施設検査官 <del>印</del>	検査立会責任者 <del>印</del>	特記事項
令和3年 2月18日	良	原子力検査官  須貝 実	小-イラ-タ-ゼ 主任技術者  	なし

w

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和3年2月18日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
(一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和3年 2月 18日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・一	
系統構成が完了していること。	<del>立会</del> 記録確認	良・一	



# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和3年2月18日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備 格納容器安全設備 主配管 別添1に示す範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態 を確認する検査 耐圧検査、 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	(目視)  (記録確認*)
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0204 * 検査対象のうち目視で確認した範囲を除く範囲について確認 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
 (一号検査)  
 (立会検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和3年 2月 18日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
弁 (2MOV-5420) ～ 格納容器貫通部 PEN#301	外観検査 組立て及び据付け状 態を確認する検査 耐圧検査、 漏えい検査	別紙 2 参照	良	目視※1
格納容器貫通部 PEN#301 ～ 弁 (2V-5421)				
弁 (2V-5421) ～ 下部キャビティ 取合点				
備考 ※1：検査対象のうち別添2に示す範囲について確認				

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
検査用計器一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和3年2月18日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査、 漏えい検査	圧力計				2020. 12. 11 2021. 3. 31	
耐圧検査、 漏えい検査	圧力計				2020. 12. 11 2021. 3. 31	
以下余白						

最高使用 圧力 (MP a)	耐圧検査 規定圧力 (MP a)	耐圧検査時 圧力 (MP a)	保持 時間 (分)	漏えい検査時 圧力 (MP a)	水圧 気圧 区分
2.7 <sup>*1</sup>	2.7	2.82	11	2.81	水圧
備考 ※1：重大事故等時における使用時の値					

原子炉格納施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るものについては、次の事項

3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項

(1) 格納容器安全設備に係る次の事項

リ 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前					変更後						
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
									(注3, 26)	(注3, 26, 27)	(注26)
									88.9	5.5	SUS27TP
									(注3)	(注3, 27)	
						原子炉下部 キャビティ注水 ポンプ出口配管 分岐点 ～ 弁(2MOV-5420)	(注9) 2.7	(注9) 95	88.9	5.5	SUS304TP
									(注3)	(注3, 27)	
									89.1	5.5	SUS304TP
									(注3)	(注3, 27)	
									165.2	7.1	SUS304TP
									(注3)	(注3)	
									165.2	7.1	SUS304TP
									89.1	5.5	SUS304TP

(次ページに続く)

□ : 検査対象範囲

変更前					変更後								
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
						格納容器安全設備	(注9) 2.7	(注9) 95	(注3)	(注3)	SUS304TP		
												88.9	5.5
												/	/
												-	-
												/	/
												89.1	5.5
								(注3)	(注3)	SUS304TP			
								165.2	7.1				
								/	/				
								-	-				
								/	/				
								165.2	7.1				

□ : 検査対象範囲

12

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)			(MPa)	(℃)	(mm)	(mm)	
					格納容器安全設備	弁(2MOV-5420)	(注9)	(注9)	(注3)	(注3, 27)	
						格納容器貫通部 PEN#301	2.7	138	88.9	5.5	SUS304TF
					格納容器安全設備	格納容器貫通部 PEN#301	(注9)	(注9)	(注3)	(注3, 27)	
						弁(2V-5421)	2.7	138	88.9	5.5	SUS304TF

□ : 検査対象範囲



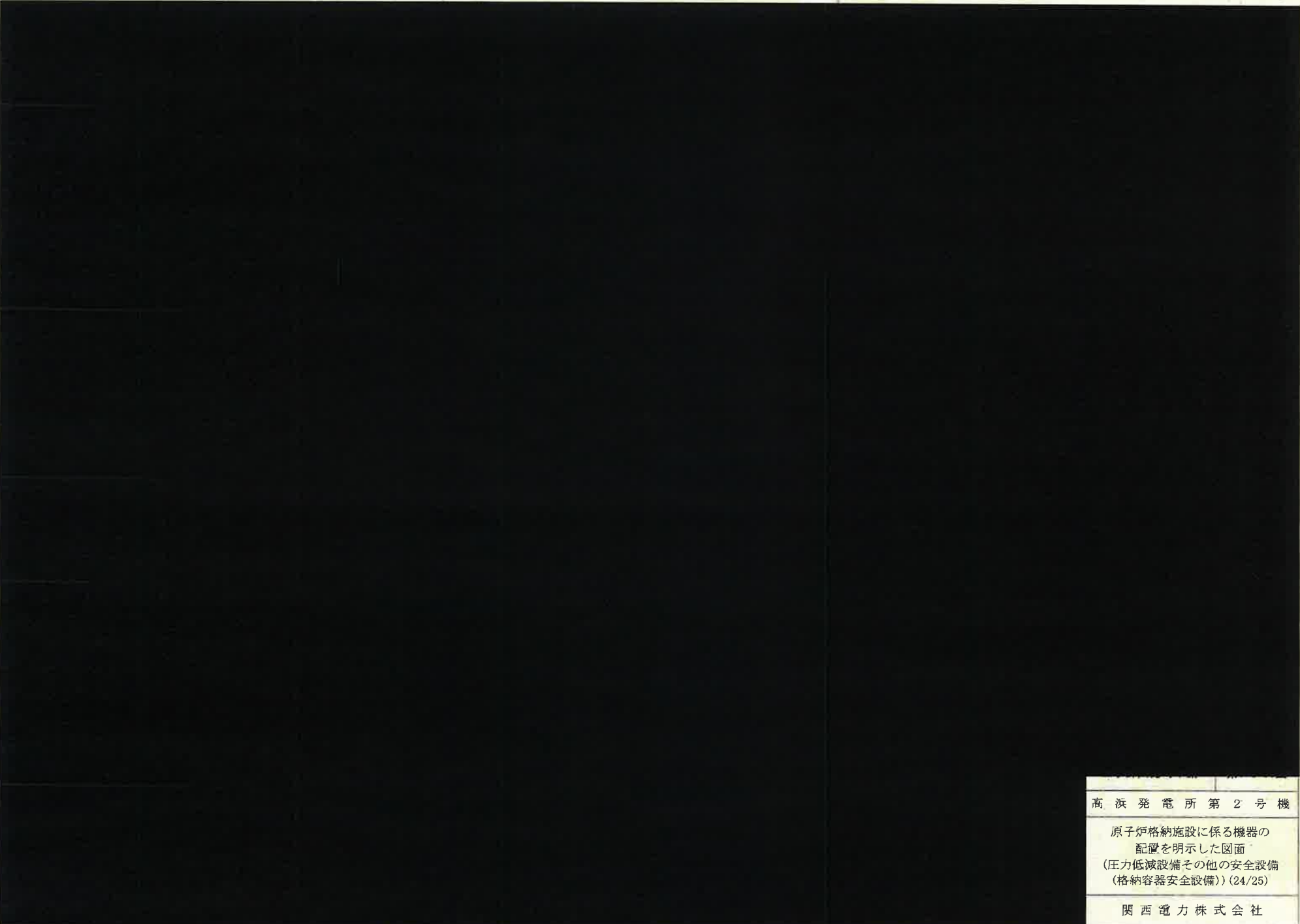


- (注4) 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備及びその他発電用原子炉の附属施設（火災防護設備）のうち消火設備と兼用
- (注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプB～弁（2-6408A、B）」と記載
- (注7) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書「原子炉格納容器」による。
- (注8) 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備と兼用
- (注9) 重大事故等時における使用時の値
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-6408A、B）～内部スプレポンプへの合流点」と記載
- (注11) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプへの分岐点～内部スプレポンプ入口レジャーサ（10×8）」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口レジャーサ（8×6）～内部スプレクーラへの合流点」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレクーラ入口合流点～内部スプレクーラ出口分岐点」と記載
- (注15) 重大事故等時に使用
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレクーラ出口分岐点～外部しゃへい壁貫通部」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-6417A、B）～エゼクタ」と記載
- (注18) エルボを示す。
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口分岐点～エゼクタ～内部スプレポンプ入口管」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「よう素除去薬品タンク～弁（2-6417A、B）」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「外部しゃへい壁貫通部～レジャーサ（8×6）」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「オリフィス～内部スプレリングヘッド（1A、2A、3A、4A、1B、2B、3B、4B）」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレクーラ出口分岐点～弁（2-6411A、B）」と記載
- (注24) SUS27TP同等材（SUS304TP）への取替えを行う。

(注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (8×6) および分岐点～オリフィス」と記載

(注26) 本設備は既存の設備である。

(注27) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

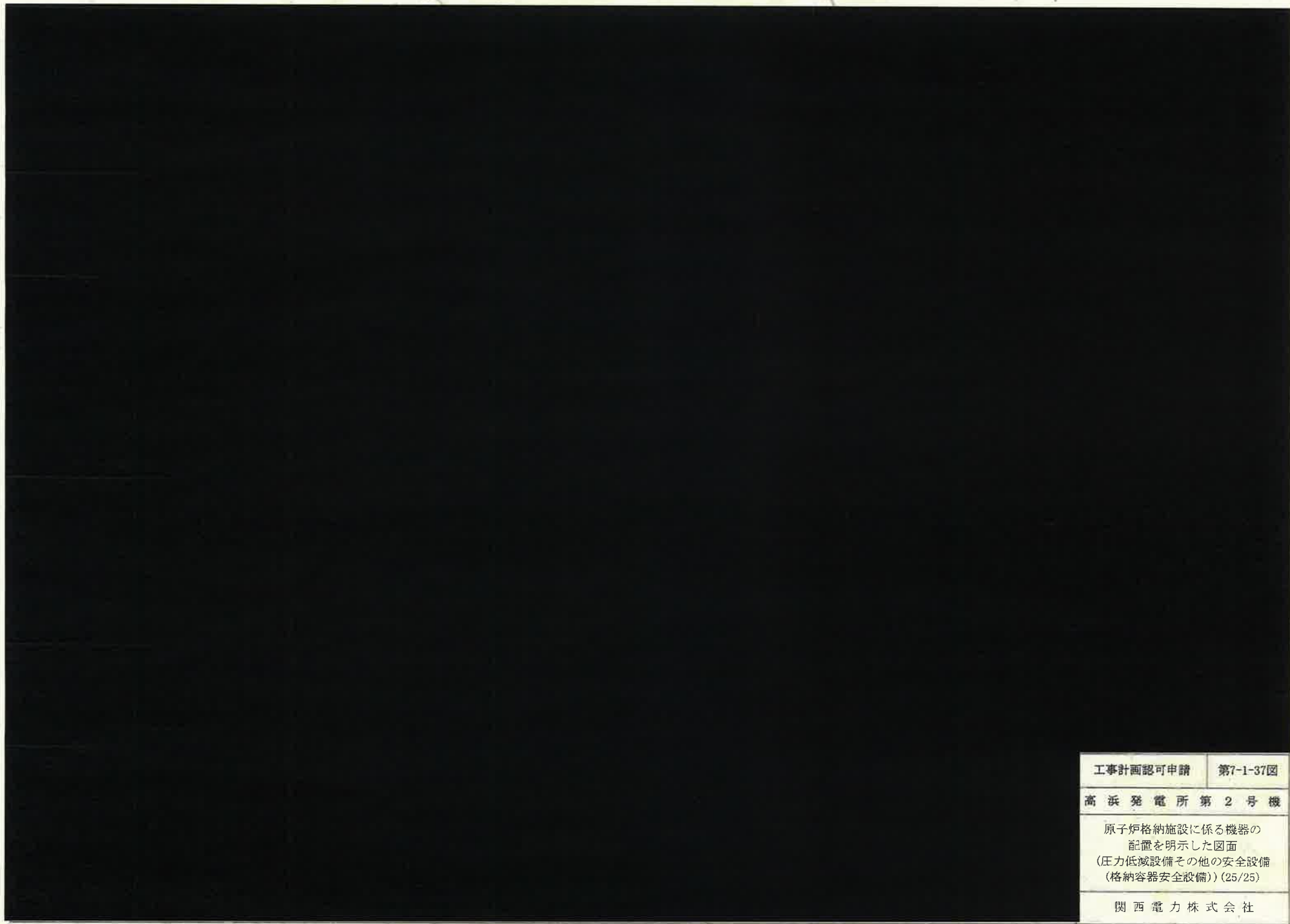


高 浜 発 電 所 第 2 号 機

原子炉格納施設に係る機器の  
配置を明示した図面  
(圧力低減設備その他の安全設備  
(格納容器安全設備))(24/25)

関 西 電 力 株 式 会 社

17




令和 3 年 2 月 18 日 別添 2 (2/2)

工事計画認可申請	第7-1-37図
高浜発電所第2号機	
原子炉格納施設に係る機器の 配置を明示した図面 (圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備)) (25/25)	
関西電力株式会社	

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和 3 年 11 月 9 日	良	増本 豊  平沢 淳	ボイラー・タービン 主任技術者  	なし

2/18

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和3年 11月 9日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	⓪・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	⓪・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	⓪・—	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和3年 11月 9日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・一	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・一	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・一	
系統構成が完了していること。	立会 ◎記録確認	◎良・一	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和3年 11月 9日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 熱交換器、主配管 別添1参照の太線枠内の範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査、 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<span style="font-size: 2em;">良</span>	(目視)  (記録確認*)
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0120 * 検査対象のうち目視で確認した範囲を除く範囲について確認 ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			



関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
 (一号検査)  
 (立会検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和3年 11月 9日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
・熱交換器 A格納容器循環 冷暖房ユニット	組立て及び据付け状態を確認する検査	—	良	目視 <sup>※1</sup>
	耐圧検査、 漏えい検査	別紙2参照	良	
備考 ※1：検査対象のうち別添2に示す範囲について確認				

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
検査用計器一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和3年11月9日

検査項目	検査用計器	管理番号	測定範囲	測定精度	校正年月日 有効期限	備考
耐圧検査、 漏えい検査	圧力計				2019.12.9 2022.12.8	(正)
耐圧検査、 漏えい検査	圧力計				2021.7.5 2024.7.4	(副)
以下余白						

(令和3年11月9日)

最高使用 圧力 (MPa) ※1	耐圧検査 圧力 (MPa) ※2	保持 時間 (分)	漏えい検査 圧力 (MPa)	水圧 気圧 区分
1.2	1.25	//	1.25	水圧

備考

※1：重大事故等時における使用時の値

※2：最高使用圧力<sup>※1</sup>×1.0 (1.2MPa×1.0=1.2MPa) 以上

工事計画本文（原規規発第1606105号（平成28年6月10日認可））

原子炉格納施設

3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項

(4) 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備に係る次の事項

□ 熱交換器の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、伝熱面積、主要寸法、材料、個数及び取付箇所

・常設

(1/2)

25

名 称			変 更 前	変 更 後	
種 類	—		—	A格納容器循環冷暖房ユニット <sup>(注1)</sup>	
容 量 <sup>(注2)</sup>	MW/個			冷却コイル	
管側	最高使用圧力 <sup>(注2)</sup>	MPa		1.2	
	最高使用温度 <sup>(注2)</sup>	℃		161	
胴側	最高使用圧力 <sup>(注2)</sup>	MPa		—	
	最高使用温度 <sup>(注2)</sup>	℃		155	
伝 熱 面 積 <sup>(注2)</sup>		m <sup>2</sup> /個			
主要寸法	吸 込 口 径	mm			
	吐 出 口 径	mm			
	た て	mm			
	横	mm			
	高 さ	mm			
材 料	—				
個 数	—		1		

□ : 検査対象範囲

		変更前	変更後
取付箇所	系 統 名 ( ラ イ ン 名 )	—	A格納容器再循環ライン
	設 置 床	—	
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	

ヌ 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

変更前						変更後					
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (℃)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料
						(注5) 可燃性ガス 放射性物質濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 放射線物質濃度制御設備及び A格納容器 循環冷暖房 ユニット ~ ダクト開放機構	0 (注3)	155 (注3)	2,300 × 2,300 (注2)	1.2 (注2)	SPG

: 検査対象範囲

27

(注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注2) 公称値

(注3) 重大事故等時における使用時の値

(注4) 入口と出口の口径が異なる管である。

(注5) 本設備は既存の設備である。

29/62




検査範囲図	
工事計画認可申請	第3-2-42図
高浜発電所第2号機	
原子炉冷却系統施設の系統図 (原子炉補機冷却設備)(10/14) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

別添2 令和3年11月9日



# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-08

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和4年 3月10日	良	種市 隆人 北村 博史	ボイラー・タービン主任技術者 	な ✓

30

## 関西電力株式会社高浜発電所第 2 号機 使用前検査記録 共通事項

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和 4 年 3 月 10 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	◎良・—	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	◎良・—	

## 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和4年 3月 10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	◎良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	◎良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	◎良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ ◎記録確認	◎良・—	

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
(一号検査)

成績書管理番号：1-08

検査年月日：令和4年3月10日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備 格納容器安全設備 主配管 別添1に示す範囲			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査 耐圧検査、 漏えい検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	良	目視 (記録確認)
備考 ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録(※)による。 ※ 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0217 <del>目視で確認した範囲：添付資料3-3参照</del>			

## 設 備 概 要

### 原子炉格納施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るものについては、次の事項

#### 3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項

##### (1) 格納容器安全設備に係る次の事項

リ 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料

・常設

(次ページに続く)

35

変更前					変更後								
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料		
	圧力	温度					圧力	温度					
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			
						格納容器安全設備 原子炉下部 キャビティ注水 ポンプ出口配管 分岐点 ~ 弁(2MOV-5420)	(注9) 2.7	(注9) 95	(注3, 26)	(注3, 26, 27)	(注26)		
											88.9	5.5	SUS27TP
											(注3)	(注3, 27)	
											88.9	5.5	SUS304TP
											(注3)	(注3, 27)	
											89.1	5.5	SUS304TP
								(注3)	(注3, 27)				
								165.2	7.1	SUS304TP			
								(注3)	(注3)				
								165.2	7.1	SUS304TP			
								/	/				
								89.1	5.5				

36

変更前					変更後						
名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料	名称	最高使用	最高使用	外径	厚さ	材料
	圧力	温度					圧力	温度			
	(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)			(MPa)	(°C)	(mm)	(mm)	
						格納容器安全設備 原子炉下部 キャビティ注水 ポンプ出口配管 分岐点 ～ 弁(2MOV-5420)	(注9) 2.7	(注9) 95	(注3)	(注3)	SUS304TP
					88.9				5.5		
					—				—		
					89.1				5.5		
							(注3)	(注3)	165.2	7.1	SUS304TP
					—	—					
					165.2	7.1					

37

変更前					変更後								
名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料		
						格納容器 安全設備  弁(2V-5421) ~ 下部キャビティ 取合点	(注9) 2.7	(注9) 138	(注3)	(注3)	SUS304TP		
					88.9				5.5				
					(注3)				(注3, 27)	165.2		7.1	SUS304TP
					(注3)				(注3)	165.2		7.1	SUS304TP
					/				/	89.1		5.5	
					(注3)	(注3)	88.9	5.5	SUS304TP				
					/	/	88.9	5.5					
					/	/	-	-					

(注1) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁(2-6400A、B) ~内部スプレポンプ(SP-1、A、B、C、D) への分岐点」と記載

(注2) SI単位に換算したものである。

(注3) 公称値



- 38
- (注4) 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備及びその他発電用原子炉の附属施設（火災防護設備）のうち消火設備と兼用
- (注5) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- (注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「格納容器サンプB～弁（2-6408A、B）」と記載
- (注7) 記載の適正化を行う。記載内容は、既工事計画書「原子炉格納容器」による。
- (注8) 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備と兼用
- (注9) 重大事故等時における使用時の値
- (注10) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-6408A、B）～内部スプレポンプへの合流点」と記載
- (注11) エルボについては既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。厚さについては管と同等以上のものを選定する。なお、記載内容は、設計図書による。
- (注12) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプへの分岐点～内部スプレポンプ入口レジューサ（10×8）」と記載
- (注13) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口レジューサ（8×6）～内部スプレクーラへの合流点」と記載
- (注14) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレクーラ入口合流点～内部スプレクーラ出口分岐点」と記載
- (注15) 重大事故等時に使用
- (注16) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレクーラ出口分岐点～外部しゃへい壁貫通部」と記載
- (注17) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「弁（2-6417A、B）～エゼクタ」と記載
- (注18) エルボを示す。
- (注19) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレポンプ出口分岐点～エゼクタ～内部スプレポンプ入口管」と記載
- (注20) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「よう素除去薬品タンク～弁（2-6417A、B）」と記載
- (注21) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「外部しゃへい壁貫通部～レジューサ（8×6）」と記載
- (注22) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「オリフィス～内部スプレリングヘッド（1A、2A、3A、4A、1B、2B、3B、4B）」と記載
- (注23) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「内部スプレクーラ出口分岐点～弁（2-6411A、B）」と記載
- (注24) SUS27TP同等材（SUS304TP）への取替えを行う。

(注25) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「レジャーサ (8×6) および分岐点～オリフィス」と記載

(注26) 本設備は既存の設備である。

(注27) エルボについては管と同等以上の厚さのものを選定する。

4D



工事計画認可申請	第7-2-2図
高浜発電所第2号機	
原子炉格納施設の系統図 (圧力低減設備その他の安全設備 (格納容器安全設備))(2/8) (重大事故等対処設備)	
関西電力株式会社	

別添2 (1/2) 昭和44年5月10日

41/E

別添2 (2/2) 令和4年3月10日

工事計画認可申請 第7-1-36図

高浜発電所第2号機

原子炉格納施設に係る機器の  
配置を明示した図面  
(圧力低減設備その他の安全設備  
(格納容器安全設備))(24/25)

関西電力株式会社

関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機

構造、強度又は漏えいに係る  
使用前検査成績書

施設名：原子炉格納施設

系統名：圧力低減設備その他の安全設備

放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備  
並びに格納容器再循環設備

再結合装置及び電熱器

原子炉格納容器水素燃焼装置

要領書番号：原規規収第1610072号1-09-1

令和元年 9 月




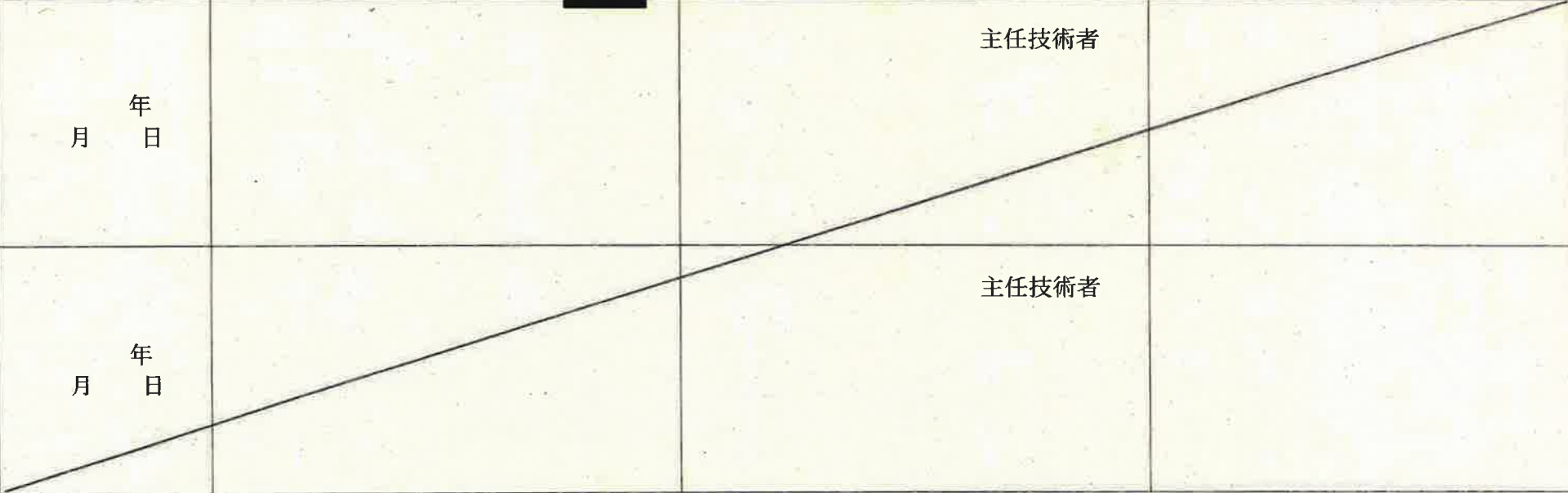
原子力規制委員会

使用前検査成績書

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査の種類 構造、強度又は漏えいに係る使用前検査
- 3 検査申請 使用前検査申請番号  
関原発第321号(平成28年10月7日)  
関原発第435号(平成30年3月20日)  
関原発第47号(平成30年4月20日)  
関原発第203号(平成30年7月4日)  
関原発第260号(平成30年8月20日)  
関原発第416号(平成30年12月5日)  
関原発第505号(平成31年2月1日)  
関原発第513号(平成31年2月6日)  
関原発第4号(平成31年4月4日)  
関原発第69号(2019年5月16日)  
関原発第116号(2019年6月24日)  
関原発第205号(2019年8月23日)
- 4 検査期日 自 令和元年9月5日  
至 令和元年9月5日
- 5 検査場所 関西電力株式会社高浜発電所  
福井県大飯郡高浜町田ノ浦
- 6 検査範囲 高浜発電所第2号機  
発電用原子炉施設  
原子炉格納施設  
圧力低減設備その他の安全設備  
放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに  
格納容器再循環設備  
再結合装置及び電熱器  
原子炉格納容器水素燃焼装置 12個(予備1個(ドーム部頂部  
付近用))

- 7 検査実施者 検査実施者一覧表のとおり
- 8 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 9 添付資料 使用前検査記録
- 1 検査前確認事項
  - 2 外観検査記録
  - 3 組立て及び据付け状態を確認する検査記録

## 検査実施者一覧表

検査年月日	原子力施設検査官 印	検査立会責任者 印	特記事項
令和元年 9月5日	前田 田  環境技官 飯田 拓海 	電気 主任技術者 	なし
年 日 月		主任技術者	
年 日 月		主任技術者	

ω



## 検査結果一覧表

系統名：圧力低減設備その他の安全設備 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備  
再結合装置及び電熱器  
原子炉格納容器水素燃焼装置

検査項目	外観検査	組立て及び据付け 状態を確認する検査	備 考
検査日	令和元年 9月5日	令和元年 9月5日	
結果	良	良	
検査日	年 月 日	年 月 日	/
結果			
検査日	年 月 日	年 月 日	/
結果			

カ

## 高浜発電所第2号機 使用前検査記録

## 検査前確認事項

## 共通事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	令和元年 9月5日	良	使用前検査成績書の「3 検査申請」に申請番号（変更申請番号を含む。）を記載する。
		年 月 日		
		年 月 日		
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	令和元年 9月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	令和元年 9月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

## 高浜発電所第2号機 使用前検査記録

## 検査前確認事項

## 外観検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 9月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 9月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

## 高浜発電所第2号機 使用前検査記録

## 検査前確認事項

組立て及び据付け状態を確認する検査

確認事項	確認方法	検査年月日	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	令和元年 9月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	令和元年 9月5日	良	
		年 月 日		
		年 月 日		

高浜発電所第2号機

## 外観検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備

放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備  
再結合装置及び電熱器

原子炉格納容器水素燃焼装置：12個（予備1個（ドーム部頂部付近用））

判定基準：有害な欠陥（表面に機能・性能に影響を及ぼすおそれのある傷、割れ、変形、腐食、浸食）がないこと。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 1	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 2	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 3	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 4	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 5	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 6	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 7	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 8	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 9	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 10	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 11	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 12	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 13（予備）	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号： T2-1-0902

高浜発電所第2号機

## 組立て及び据付け状態を確認する検査記録

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

検査範囲：原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備

放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備  
再結合装置及び電熱器

原子炉格納容器水素燃焼装置：12個（予備1個（ドーム部頂部付近用））

判定基準：工事計画のとおりであり、技術基準に適合すること。

検査対象	検査年月日	検査結果	検査方法
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 1	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 2	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 3	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 4	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 5	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 6	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 7	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 8	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 9	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 10	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 11	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 12	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認
原子炉格納容器水素燃焼装置 No. 13（予備）	令和元年 9月5日	良	目視/ 記録確認

備考

・記録確認は、申請者の品質記録（※）による。

※：適合性確認検査成績書の識別番号：

T2-1-0902

関西電力株式会社  
高浜発電所第2号機  
使用前検査成績書

要領書番号 : 原規規収第1610072号99

成績書管理番号 : 1-09-2

令和4年3月

原子力規制委員会

使用前検査成績書

成績書管理番号：1-09-2

- 1 発電所名 関西電力株式会社高浜発電所第2号機
- 2 検査申請 検査申請一覧表のとおり
- 3 検査期日 自 令和4年3月30日  
至 令和4年3月30日
- 4 検査場所 使用前検査記録のとおり
- 5 検査実施者 検査結果一覧表のとおり
- 6 検査結果 検査結果一覧表のとおり
- 7 添付資料 使用前検査記録




## 検査申請一覧表

検査申請書番号 (申請年月日)	
	関原発第321号(平成28年10月7日)
	関原発第435号(平成30年3月20日)
	関原発第47号(平成30年4月20日)
	関原発第203号(平成30年7月4日)
	関原発第260号(平成30年8月20日)
	関原発第416号(平成30年12月5日)
	関原発第505号(平成31年2月1日)
	関原発第513号(平成31年2月6日)
	関原発第4号(平成31年4月4日)
	関原発第69号(2019年5月16日)
	関原発第116号(2019年6月24日)
	関原発第205号(2019年8月23日)
	関原発第511号(2020年1月31日)
	関原発第543号(2020年2月26日)
	関原発第618号(2020年3月24日)
	関原発第23号(2020年4月7日)
	関原発第23号(2021年4月30日)
	関原発第293号(2021年8月2日)
	関原発第562号(2022年2月28日)
	関原発第585号(2022年3月15日)

上記以降の変更を検査申請書の変更申請により確認し表中に追記する。

# 検査結果一覧表

成績書管理番号：1-09-2

検査年月日	検査結果	原子力検査官	検査立会責任者	特記事項
令和 4 年 3 月 30 日	良	須貝 実 平沢 淳	ホイラー ターゼン 主任技術者 	なし

3

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
共通事項

成績書管理番号：1-09-2

検査年月日：令和4年3月30日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

## 使用前検査申請書の確認

確認事項	確認方法	確認結果	備考
本検査に係る使用前検査申請書（変更申請を含む。）が準備されていること。	記録確認	Ⓔ良・一	
検査をする工事の工程、期日及び場所が申請書どおりであること。	記録確認	Ⓔ良・一	
工事計画の認可番号の記載が適切であること。	記録確認	Ⓔ良・一	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-09-2

検査年月日：令和4年3月30日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査前確認事項

確認事項	確認方法	結果	備考
申請者の品質記録が準備されていること。	記録確認	良・—	
必要な図面等が準備されていること。	図面等確認	良・—	
検査用計器が校正されており有効期限内であること及び必要な測定範囲、測定精度を有していること。	記録確認	良・—	
系統構成が完了していること。	立会/ 記録確認	良・①	

# 関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録 (一号検査)

成績書管理番号：1-09-2

検査年月日：令和 4 年 3 月 30 日

検査場所：関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象			
原子炉格納施設 圧力低減設備その他の安全設備 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 再結合装置 静的触媒式水素再結合装置 別添1参照			
検査項目	判定基準	検査結果	検査方法
材料検査 寸法検査 外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査	設備及び機器が工事計画に従い製作され、据付けされ、所定の性能を有しており、技術基準に適合するものであること。	<span style="font-size: 2em;">良</span>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 20px; margin: 5px auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">目視</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 20px; margin: 5px auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">記録確認※2</div>
<b>備考</b> ・記録確認は、工事計画に基づき申請者が行った試験・検査の品質記録（※1）による。 ※1 適合性確認検査成績書の識別番号：T2-1-0121、T2-1-0121（その2） ※2 目視で確認した範囲を除いた範囲について確認。  ・目視で確認した範囲：添付資料3-3参照			

関西電力株式会社高浜発電所第2号機 使用前検査記録  
 (一号検査)  
 (立会検査)

成績書管理番号 : 1-09-2

検査年月日 : 令和 4 年 3 月 30 日

検査場所 : 関西電力株式会社高浜発電所

## 検査結果

検査対象設備名	項目	測定値等	検査結果	検査方法
静的触媒式水素再結合装置 (FR1-380T-MB-043) (別添 2 参照)	外観検査 組立て及び据付け状態を確認する検査	—	良	目視
備考				

## 設備概要

### 原子炉格納施設

加圧水型発電用原子炉施設に係るものにあつては、次の事項

#### 3 圧力低減設備その他の安全設備に係る次の事項

(4) 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備に係る次の事項

ル 再結合装置の名称、種類、容量、最高使用圧力、最高使用温度、再結合効率、主要寸法、材料、個数及び取付箇所並びに電熱器の名称、種類、容量、個数及び取付箇所

#### ・常設

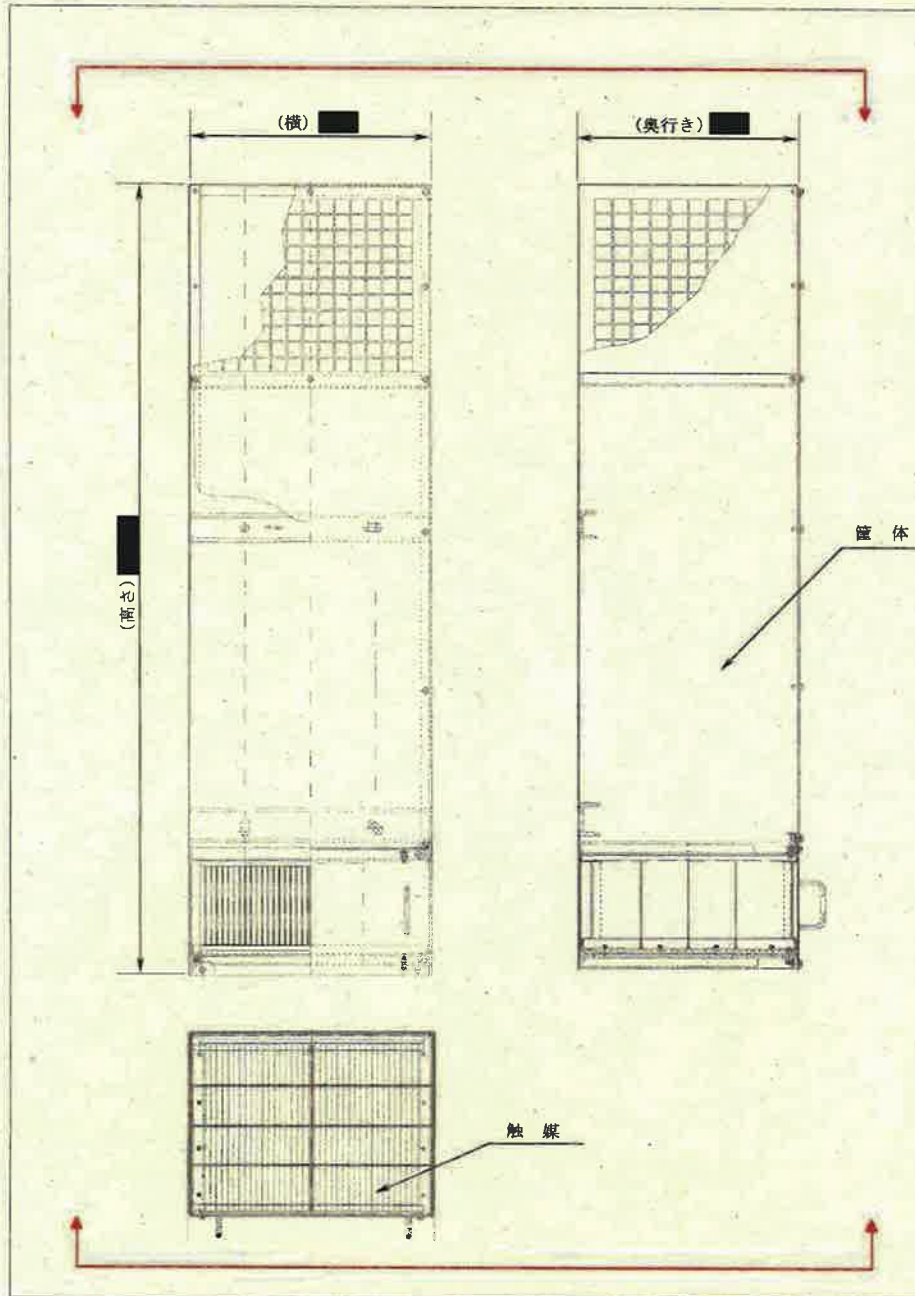
			変更前	変更後
名称				静的触媒式水素再結合装置
種	類	—		静的触媒式
容	量	—		—
最	高	使	用	圧
力				—
最	高	使	用	温
度				500
				(注2)
再	結	合	効	率
				1.2
				(水素濃度 4vol%、圧力 0.15MPa[abs])
再結合装置	主	横	mm	—
	要	奥	mm	
	寸	行	mm	
	法	き	mm	
材	高	さ		
料	本	体	—	
個	数	—		5
取付箇所	系	統	名	静的触媒式水素再結合装置
		(	ラ	
		イ	ン	
	設	置	床	—
	溢	水	防	護
	上	の		
	区	画	番	号
	—			
	溢	水	防	護
	上	の		
	配	慮	が	必
	要	な	高	さ
	—			

(注1) 重大事故等時における使用時の値

(注2) 再結合効率は、メーカー型式FR1-380Tの性能評価式の代表点での値

(注3) 公称値

: 検査対象範囲



主要目表															
再結合装置	種	類	-	静的触媒式											
	容	量	-	-											
	最	高	使	用	圧	力	-								
	最	高	使	用	温	度	℃	500							
	再	結	合	効	率	kg/h/個	1.2	(水素濃度 4vol%、圧力 0.15MPa[abs])							
材料	本	体	-												
	個	数	-	5											
取付箇所	系	統	名	静的触媒式水素再結合装置											
	(	ラ	イ	ン	名)	-									
	設	置	床	-											
	溢	水	防	護	上	の	区	画	番	号	-				
	溢	水	防	護	上	の	配	慮	が	必	要	な	高	さ	-



検査範囲図	
工事計画認可申請	第7-3-7図
高浜発電所第2号機	
原子炉格納施設の構造図 (圧力低減設備その他の安全設備 (放射性物質濃度制御設備及び 可燃性ガス濃度制御設備並びに 格納容器再循環設備)) 静的触媒式水素再結合装置	
(単位: mm)	
関西電力株式会社	



10/E



工事計画認可申請 第7-1-38図

高浜発電所第2号機

原子炉格納施設に係る機器の  
配置を明示した図面  
(圧力低減設備その他の安全設備  
(放射性物質濃度制御設備及び  
可燃性ガス濃度制御設備並びに  
格納容器再循環設備))  
原子炉格納容器(E. L. +32.3m)  
原子炉補助建屋(E. L. +32.3m)

関西電力株式会社

別添2(2/2) (令和4年3月30日)